

停止公權ハ主  
刑終ルルハ直  
チニ回復ス

シテ公權ヲ行ハシムルガ如キ不都合ヲ避クルニ在リ此故ニ其  
期限モ亦タ本刑ニ同ジ唯本刑ノ期限後ト雖モ監視ニ附セラレ  
タル間ハ等シク公權ヲ停止ス三四蓋シ同一ノ理ニ基クノミ公  
權停止ノ來ル所唯斯ノ如シ此故ニ主刑終ル時ハ更ニ復權ヲ待  
タズ當然公權ヲ實行シ得ベキナリ

公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者未ダ復  
權ヲ得ズ若クハ主刑期滿タサルニ當テ之ヲ行ハンカ是レ附加  
刑ノ執行ヲ通ルノ所爲ニシテ我立法者ハ之ヲ以テ一個ノ輕  
罪トシ以テ此執行ヲ保セリ(一五四)

第三 禁治産 第三十五條ニ曰ク重罪ノ刑ニ處セラレタル者  
ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ  
禁スト故ニ重罪ノ附加刑ニシテ且ツ當然ニ附加スルモノナリ  
禁治産トハ其名稱ノ指示スルガ如ク自己ノ財産ヲ治ムルヲ禁

禁治産ノ理由

スルニ在リ即チ民事上ノ能力ヲ失ハシムルヲ謂フ然レトモ權  
利義務ノ主タル能ハサルニ非ズ是ニ於テ他ニ管理者ヲ設ケサ  
ル可ラズ我立法者ハ單ニ禁治産ノ刑ヲ設ケテ未タ管理人ノ制  
ヲ立テス予輩ハ其欠點ヲ歎スルモノナリ

此刑ヲ附加スル所以如何若シ自由ニ財産ヲ治メシムルハ或  
ハ以テ快ヲ取ルノ具トナリ刑ノ苦楚ヲ減スルニ至ルベキノミ  
ナラズ又時ニ獄舎ニ在テ不正ヲ爲スノ好方便タラントテ恐ル  
、ガ爲ノミ

第五節 財産刑

財産刑ノ種類

財産刑トハ犯人ノ資産總分ヲ減セシムルノ刑ヲ云フ其種類三  
アリ曰ク罰金曰ク科料曰ク沒收是ナリ

第壹 罰金及ビ科料 金員ヲ以テ科スルノ刑ニ圓以上ナルモ  
ノ之ヲ罰金ト云ヒ壹圓九十五錢以下五錢以上ナルモノ之ヲ科

罰金及科料

料ト云フ其輕重ニ依テ名ヲ異ニス其性質ニ於テ異ル所ナシ罰金ハ輕罪ノ主刑及ビ附加刑タリ科料ハ違警罪ノ附加刑タリ其他ニ至テハ同一ノ規則ニ從フ故ニ區別セズ

罰金ハ其最高額ヲ定メス蓋シ第九十三條ノ如ク價額ノ幾倍トシテ科スベキモノアリ豫メ之ヲ科スルヲ得サレバ也此ヲ以テ各犯罪ニ就テ其範圍ヲ示スノミ故ニ必ズ之ガ宣告ヲ要ス罰金亦一ノ刑罰ナリ是ヲ以テ等シク財産ヲ目的トスルモ民事上ノ義務ト同一ナラズ從テ犯人ノ一身ニ止ルベキハ固ヨリ當然ナリ且ツ夫レ刑ハ一個人ニ科ス故ニ連帶ナルモノアラズ故ニ數人共犯シテ罰金ノ刑ニ當ルハ數人ニ對シテ一刑ヲ科セス其各自ニ罰金ヲ科シ各其金額ヲ負擔セシム此點ニ於テ彼ノ私訴ノ目的タル損害賠償等ト至ク其性質ノ異ナルヲ見ン刑法第二十七條ハ罰金ナル刑罰ノ執行法ヲ定ム蓋シ資力ナキ

罰金ハ連帶ニ科セズ

罰金ノ執行法

者罰金ヲ納ムル能ハサルハ更ニ其効ナカルベシ茲ニ於テ禁錮ニ換用スルノ制ヲ立ツ即チ納完ノ期限ヲ過キタル時ハ一日ノ割合ヲ以テ算シ輕禁錮ニ換フ然レトモ換刑ヲ爲スハ別ニ裁判ヲ用ヒズシテ之ヲ命ス蓋シ刑ノ執行ニ過キサレバ也換刑ノ禁錮ハ二年ヲ以テ最長期トセリ是レ他ノ刑ト權衡ヲ失ハサラシムル爲ノミナラズ犯人ヲシテ其罪ニ越ヘタル刑ヲ受ケルノ結果ニ陷ラザラシメンガ爲ナリ特ニ注意ヲ要スルハ第二十七條末項但書ノ規定ニシテ罰金ハ他人ノ代納ヲ許ス事是ナリ刑ハ一身ニ止ルノ原則ヨリシテ之レヲ極論セハ罰金ト雖モ本人以外ノ者代テ之ヲ執行シ得ベキニ非ズ然レモ法律上之ヲ禁スルモ實際ニ於テ之ヲ禁スルコト能ハサルベシ犯人ハ代人ノ金員ヲ借テ之ヲ納ムルコトアルベク立法者ハ之ヲ止ムル能ハサルベシ故ニ他人ノ代納ヲ明許セルモノナリ

罰金ノ代納ヲ許ス理由

罰金ト科料ノ  
納期ノ別

科料ノ處分法ハ第二十九條第三十條ヲ以テ規定セリ純然タル  
罰金ト相異ナルハ唯納完期日ニアリ罰金ニ在テハ一月ニシテ  
科料ニ在テハ十日内トス蓋シ金額ノ多寡アルガ爲メニ此區別  
ヲ爲セルノミ

沒收

第二 沒收 往時ハ犯人ノ財産全部ヲ官沒スルガ如キ刑罰有  
リシト雖モ今日ニ在テハ斯カル一般沒收ノ刑ナク單ニ特定沒  
收ノ刑アルノミ我刑法ニ於テ沒收スル物件ハ三種アリ一ニ曰  
ク法律ニ於テ禁制シタル物件ニ曰ク犯罪ノ用ニ供シタル物  
件三ニ曰ク犯罪ニ因テ得タル物件是ナリ此附加刑ハ何種ノ犯  
罪ニ別ナク之ヲ附加シ且ツ必ス宣告スルモノタリ(四三)  
沒收ノ刑ハ學者間ニ最モ議論アル所ニシテ予輩亦タ大ニ解シ  
難キ所ノモノナリ逐一左ニ其要ヲ述ベン

- 一 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ一言スルルハ犯罪ノ手段タ

現行沒收ノ制  
解釋及其非難

リシ物件ニシテ殺人罪ニ用ヒタル刀劍貨幣偽造ニ使用セル器  
械ノ如キ是ナリ罪体其物ハ沒收スベキニ非ズ且ツ夫レ直接ノ  
用ニ供セルヲ要ス間接ニ止ルモノハ沒收ノ限リニ非ズ學理ノ  
以テ標準トスベキハ斯ノ如シ更ニ之カ實際ノ應用ニ當テヤ事  
實ニ屬スル困難アルヲ注意スベキナリ  
然レモ右ノ要件備ハルモ尙ホ犯人ノ所有ニ屬スルカ又ハ然ラ  
サルモ所有者ナキ時ニ非サレバ之ヲ沒收セス(四四)

- 二 犯罪ニ因テ得タル物件トハ犯罪ノ結果タル物件ト解スベ  
シ得ノ字之ヲ獲得ノ義ニ解シ權利ヲ得タル物件トスルヲ勿レ  
犯罪ハ未タ以テ權利ヲ得ル方法タル能ハサル也犯罪ノ結果ト  
ハ犯罪ノ所爲ニ依テ新タニ形ヲ成シタル物件之ヲ例スルニ偽  
造ノ貨幣ノ如キモノアルベシ或ハ從來已存スル物件ニノ犯罪  
タル所爲ノ結果トシテ犯人ノ手ニ占有ヲ移シタル物件之ヲ例

スルニ竊盜ノ物件ノ如キモノアラン共ニ沒收スベシト雖モ其結果タル必ス直接ノモノナルヲ要ス且ツ之ヲ沒收スルハ其物件犯人ノ所有ニ係リ若クハ所有主無キ時ニ限ルコト前者ト同一ナリ(四四)

三 法律ニ於テ禁制シタル物件ニ至テハ予輩實ニ其理ヲ解セサルモノアリ何ヲカ法禁物ト云フヤ物自体即チ其存在ヲ禁シタル物件ノミヲ言フカ製造ヲ禁シタルモノヲ云フカ又或ハ所有ヲ禁シタル物件ヲモ包有スルカ又然ラズシテ使用ノミヲ禁シタル物件ヲモ指スモノナルカ我刑法解釋者ノ輿論ハ總テ此數者ヲ併セテ法禁物トシ沒收スベシトスルカ如シ予輩ハ多少ノ疑ナキ能ハズ且ツ法律ニ於テトアル以上ハ法律ノ之ヲ禁セサル物件ハ沒收ノ限ニ在ラズ或ル論者ガ法律ノ明文ナキモ秩序ヲ害シ公安ヲ亂ルカ如キ物件ハ等シク此項中ニ入ルベシト

説クカ如キ予輩ノ怪訝ニ堪ヘサル所ナリ

物件ノ範圍已ニ定マルモ更ニ進テ純然タル沒收ノ刑ナリト云フヲ得ベキヤト問ハ、予輩益苦シマスンバ非ズ若シ果シテ純然タル刑罰ナランカ犯人アリ犯罪アリテ後之ヲ科スベシ然ルニ第四十四條ハ曰ク法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收スト即チ物件アルヤ直チニ之ヲ沒收シテ曰ク是レ一個ノ刑ナリト固ヨリ沒收ハ附加刑ナリ故ニ必ス一個ノ主刑アラン然リト雖モ主刑ヲ科スル犯罪ト全ク關係ナキ物件ナランカ之ヲ沒收シテ附加刑ナリト云フハ知ラズ何等ノ理ニ基クカ國事犯ノ嫌疑ノ爲メニ家宅搜索ヲ行ヒ書類物件ヲ法庭ニ差押ヘテ其間ヨリ偶然ニノ發賣ヲ禁止セラレ又ハ秘密出版ノ猥褻圖書出テタル場合ニ於テ其法禁物ナルカ爲メニ國事犯ノ刑ニ附加シテ之ヲ沒收セント欲スルカ詐欺取財ノ刑罰ヲ

科スルニ當リテ輸入頒布ヲ禁セラレタル外國新聞ノ沒收ヲ附加セントスルヤ學者ハ皆我立法者ト共ニ然リト答ヘン予ハ其至當ナルヲ解スル能ハズ斯ノ如キハ公安秩序ヲ害シ風俗ヲ紊亂スルノ恐アルガ爲メ警察處分ヲ以テ沒收スルハ固ヨリ其不可ナルヲ觀スト雖モ予輩ハ之ヲ以テ一般ニ附加刑トスルヲ是認スル能ハズ况ンヤ所有者ノ誰ナルヲ問ハスシテ之ヲ宣告スルヲヤ然リト雖モ敢テ此一項ヲ抹殺シ去ベシト言フニハ非ズ主刑ヲ科スル所爲ニシテ法禁物ト直接ノ關係ヲ有セバ則チ之ヲ沒收ヲ以テ其附加刑トスルモ可ナリ然レモ斯ノ如キ場合ニ當テヤ十中ノ八九其所謂法禁物ハ前ニ揭示セル犯罪ノ結果タル物件タラン是ニ於テカ法禁物トシテ沒收スルノ例ハ一層希有ノ場合ニ止ルベキナリ

第二章 刑罰ノ適用

刑罰ハ他種自  
在ナラザルベ  
カラズ

刑罰ハ犯罪ノ大小犯人責罰ノ如何ニ依テ輕重アリ法律ヲ以テ其加減ノ大則ヲ定メ更ニ法官ヲシテ裁判上ノ加減ヲ行フヲ得セシム加減ノ情狀如何是レ本章ニ於テ宜シク論スベキ所ナリ

第一款 一罪ヲ犯シタル單獨犯人ニ關スル適用

法律又ハ裁判ニ依テ刑ノ加重減輕ヲ爲ス情狀一ニシテタラスト雖モ其性質ニ從テ大別スルハ或ハ犯罪ノ準備ニ關スルモノアリ或ハ其實行ニ關スルモノアリ又或ハ其結果ニ原スルモノアリトス

第一節 再犯加重

再犯加重ノ理  
由

一般犯罪ノ刑ニ普通ナル加重ノ原因ハ再犯ナリ已ニ一罪ヲ犯シテ其刑罰ヲ科セラレ而シテ更ニ犯罪ヲ爲ス是レ犯人未タ初犯ノ刑ニ懲リスシテ然ルモノナリ然ラバ則チ其情狀初メテ罪ヲ犯スモノニ比スル時ハ一層重キモノアリ故ニ再犯ノ場合ニ

於テハ其刑ヲ加重ス或ハ曰ク初犯已ニ判決ヲ受ク而シテ再犯  
 ナ加重ス是レ一事再理セズトノ原則ニ反スルナキヲ得ンヤト  
 然レドモ加重ハ初犯ヲ罰スルニ非ズ固ヨリ再犯ヲ刑スルニ在  
 ルモ唯既往ノ犯罪ヲ考察シテ刑罰ノ効ヲ全フセントスルニア  
 ルノミ何ゾ此原則ニ反センヤ

其理由己ニ斯ノ如シ此故ニ再犯ノ場合ニ加重ヲ爲スニハ己ニ  
 初犯ノ確定裁判アルヲ要ス然ラサレバ未タ再犯ト稱スル能ハ  
 ズ蓋シ斯ノ如キハ以テ前刑ニ懲リズシテ犯セリトスルヲ得ズ  
 然レモ亦タ刑ヲ言渡シタル前裁判ノ確定シタルヲ以テ足レリ  
 トス犯人ノ未タ之カ執行ヲ受ケス若クハ全ク之ヲ免カレタル  
 モ更ニ再犯タルヲ妨ケズ如何トナレハ己ニ刑ヲ言渡サレタル  
 以上ハ犯罪トシテ懲罰ヲ科セラレタルモノナレハ也  
 我刑法第九十一條以下ノ規定ニ基キ再犯加重スベキ場合ト然

再犯ヲ加重ス  
 ルニハ初犯ノ  
 裁判確定スル  
 ヲ要ス

ル可ラサル場合トテ分別スレバ左ノ如シ

第壹 加重ヲ爲スベキ場合

- 甲 初犯 重罪……………再犯 重罪
- 乙 初犯 重罪……………再犯 輕罪
- 丙 初犯 輕罪……………再犯 輕罪
- 丁 初犯 違警罪……………再犯 違警罪

第二 再犯加重ヲ爲スベカラサル場合

- 甲 初犯 重罪……………再犯 違警罪
  - 乙 初犯 輕罪……………再犯 重罪
  - 丙 初犯 輕罪……………再犯 違警罪
  - 丁 初犯 違警罪……………再犯 重罪
  - 戊 初犯 違警罪……………再犯 輕罪
- 再犯ノ罪初犯ノ罪ヨリ重キモノハ加重セス是レ初犯ノ刑罰ハ

未タ犯人ニ懲戒ヲ與フルコト十分ナラザリシトスルニ基ク初犯ノ輕罪ニシテ再犯重罪ナルニ加重セサル所以實ニ茲ニ在リ又違警罪ニ至テハ他ノ兩種ノ犯罪ト其性質ヲ異ニスルガ故ヲ以テ之ヲ別視シ他ニ通シテ再犯加重ノ例ヲ用ユルコトナシ兩罪共ニ違警罪ナルルハ加重スト雖モ尙ホ一年內同一ノ管内ニ於テ犯セルモノタルヲ要ス是レ此罪ハ其刑輕クシテ人ノ記憶ニ留マルコト久シカラサルト手數ヲ要スル大ニシテ而シテ加重スルノ必要殆ト之レアラサルニ因ル

再犯加重セル刑ノ執行法

第九十五條ニ曰ク刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服スヘキ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス○罰金料ニ該ル者ハ順

序ニ拘ハラズ各之ヲ徵收スト是レ刑ノ執行ヲ規定セルモノニシテ其精神ヲ一言スレハ同時ニ執行シ難キ兩刑ハ其本人ニ最モ苦楚ヲ與フルモノヲ先ニスルニ在リ若シ三犯ニ至ルト雖モ加重ノ法再犯ノ場合ト等シク單ニ一等に止ル(九八)又假令ヒ再犯ノ場合ト雖モ初犯ハ已ニ大赦ニ因テ免罪ヲ得ンカ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス(九七)蓋シ大赦ハ犯罪ヲ湮滅セシムルモノニシテ彼ノ特赦ノ如ク單ニ刑ノ執行ヲ免スルモノニ非ザレバ也

第二節 宥恕減輕

宥恕減輕トハ法律ヲ以テ或情狀存スル犯人一般ニ對シテ與フル幾分ノ減輕ヲ言フ此故ニ刑罰ノ點ニ影響ヲ及ホスト雖モ曾テ述ベタル正當所爲又ハ精神ノ喪失其他ノ如キ無責罰ノ原因ト同一ナル性質ヲ有セズ

宥恕減輕ヲ分テ一般及ビ特別ノ二種トス一般ノ宥恕トハ一切ノ犯罪ニ關シテ法律ノ定ムル宥恕ヲ言ヒ特殊ノ犯罪ニ止ルモノ之ヲ特別ノ宥恕減輕ト云フ

第一 一般ノ宥恕減輕ハ我刑法中唯一個アリ犯人ノ年齢ニ基クモノ則チ是ナリ

滿十二歳ニ達セサル幼者ハ未ダ辨別心ヲ有セサルモノトシ犯罪タルベキ行爲アルモ責罰ナキモノトシ而シテ滿十二歳以上十六歳以下ノ者ハ辨別心アリテ犯シタル時ノミ之ヲ罰スルハ既ニ第一編ニ於テ述べタル所ナリ然レモ拾六歳以下ノ幼者ハ假令辨別心ヲ有セル時ト雖モ尙ホ其罪ヲ宥恕シ本刑ヨリ二等ヲ減輕ス(八〇)若シ犯時十六歳以上ナル時ハ必ス責罰アリト雖モ尙ホ二十歳未滿ナル片ハ一等ヲ減スルモノトス(八一)其理如何蓋シ之ヲ成丁ニ比シテ犯人ノ思慮未タ足ラサル所アルベキ

ガ故ニ其實罰ヲ輕フセルナリ

獨リ違警罪ニ至リテハ主トシテ警察上ヨリ罪トスルカ故ニ幼者ト雖モ重罪輕罪ニ於ケルト同一ノ宥恕ヲ受クル能ハス前例ニ於テ一等ヲ減セラレタル者ハ宥恕ヲ得ス唯二等ノ減輕ヲ受クベキ者ノミ單ニ一等ノ宥恕ヲ得ベシ(八三)

第二 特別ノ宥恕ニ至テハ各犯罪ノ原理ヲ説クノ時ニ讓ラン蓋シ各所ニ散在スレバ也唯今其一例ヲ示サン第三百九條以下ニ規定セル殺傷ニ關スル宥恕ノ如キ則チ是ナリ

第三節 自首減輕

自首減輕トハ犯罪ヲ爲シタル者其未ダ發覺セザルニ先ツテ自首シタルガ爲メニ與フル減輕ヲ云フ是レ蓋シ古來日本支那ニ慣行セル制度ニシテ歐洲ニ其例甚ダ少ナキ所ナリ  
自首ハ一般ノ犯罪ニ在テ減輕ノ原因タルヲ原則トス舊法ニ在

自首減輕ノ釋



自首減輕ノ理由

テ其罪ヲ全免セルト甚ダ異ナリ然リト雖モ此原則ニ對シ兩個ノ相反セル例外アリ其一ハ自首ノ爲メニ本刑ヲ全免スル例外ニシテ第二百二十六條第百九十二條ノ如キ是ナリ其二ハ自首減輕ヲ爲サマルル例外ニシテ謀殺故殺ニ係ル者是ナリ之ヲ全免スルハ蓋シ已成ノ害ナクシテ而シテ國家ハ之ヲ刑センヨリ寧ロ全免シテ自首ヲ獎勵スルノ得策タルヲ信ズレバナリ減輕ヲ許サマルハ其事重其害大ナルガ爲ナルノミ

自首減輕ノ理由如何曰ク無事ヲ罪スルノ弊ヲ避クルニ補アル其一ナリ犯人搜索ニ要スル費用ヲ節スルノ利アル其二ナリ社會畏懼ヲ減シ將來ニ幾分ノ安心ヲ得セシムル其三ナリ犯人ヲシテ悔悟ノ念ヲ發セシムル其四ナリ此四者ハ以テ此制度ノ至當ナルヲ明カニスルニ足ラン

自首減輕ハ如何ナル場合ニ之ヲ與フルヤ第一官ニ自首シ而シ

自首減輕ヲ與フル一般ノ場合

テ第二其自首ハ發覺以前ニ於テスルヲ要ス官ニ自首スト記シテ何ノ官タルヤヲ示サマルハ法文ノ欠點ナリト雖モ理ニ依テ之ヲ補ハハ則チ告訴告發ヲ受クルノ職權アル官署ヲ指スモノト斷ズベシ他ノ官署ニ自首スルモ未ダ自首タルノ効アラザルナリ發覺トハ何ゾヤ予ハ曰ク犯人ト犯罪ト兩者發覺スルヲ言フト蓋シ犯罪獨リ發覺スルモ犯人ノ誰タルコト知ラレズンバ犯人ニ在テハ未ダ自己ノ犯罪全ク發覺シタリト謂フヲ得サレバ也然レハ發覺トハ獨リ官署ニ知ラル、チノミ謂フニ非ス被害者之ヲ知ラバ則己ニ自首ノ効無キナリ

以上ハ一般犯罪ニ關スル自首ノ制ナリ然ルニ財產ニ對スル犯罪ニ至テハ更ニ特例アリ此場合ニ於テハ被害者ニ首服スルハ官ニ自首スルト同一ノ効力ヲ有スルコト是ナリ(八七)

第八十六條ハ財產ニ對スル犯罪ノ本人自首シタル場合ニ於テ

特ニ一個ノ宥恕減輕ヲ與タリ宥恕ノ原因何ノ所ニアルヤ曰ク損害ノ賠償是ナリ全部ヲ償還スル時ハ二等ヲ減シ半數以上ニ止ルキハ一等ヲ減輕ス此制度ノ如キ最モ立法者ノ意自由ヲ獎勵セントスルニ在ルヲ窺フニ足ルベシ論者或ハ之ヲ以テ正義ニ反スルモノトシ是レ犯人ヲシテ當然盡スベキ所ヲ盡シ却テ刑罰減輕ノ恩典ヲ得セシムルモノナリト難ズ蓋シ理ナキニ非ズ然リト雖是レ唯財產ニ對スル罪ニ止ル然ラバ則チ其利害ヲ感スルハ國家ヨリ寧ロ一個人ノ被害者ナリ今被害者ノ地位ニ立テ之ヲ考ヘバ此特例ハ最モ容易ニ損害ノ賠償ヲ得セシムル良法ニ非ズシテ何ソヤ要スルニ國家ハ此制ヲ設ケテ一步チ個人ノ利益ニ讓レルモノ、ミ予輩ハ其不可ナルヲ見サルナリ

第四節 酌量減輕

酌量減輕ノ概

酌量減輕トハ法律ヲ以テ之ヲ爲ス減輕ニ非ズ裁判官ニ之ヲ爲

酌量減輕ノ理由

スヲ許シタル減輕ナリ故ニ裁判官ハ之ヲ爲スト爲サザルト其權内ニ屬シ更ニ拘束セラル、ナシ夫レ犯罪ノ情狀ハ千差萬別到底豫ノ畫一ノ刑ヲ定メテ之ニ科シ得ベキニ非ズ故ニ立法者ハ概シテ刑ノ最重最輕兩點ヲ定メ所犯ノ情ニ應シ判官ヲシテ至當ノ刑ヲ科セシメ更ニ一方ニ於テ宥恕自首等ノ制ヲ設ケ以テ刑罰ト犯罪トノ權衡ヲ得セシメントナリ期セリ然レモ法律ノ定メタル最輕ノ度ニ於テ刑ヲ科スルモ猶或ハ所犯ノ情ニ比シテ重キニ失セんとテ恐ル是レ特ニ酌量減輕ノ制ヲ設ケタル所以ナリ

酌量減輕ヲ行フ場合

此減輕ハ一切ノ犯罪ニ之ヲ適用スベク而シテ苟モ裁判官ニノ情狀原諒ス可キ者アリト認ムレバ足ル何方故ニ原諒スベキヤ又如何ナル情存スルヤハ之ヲ問ハス且ツ他ニ宥恕自首等法律上ノ減輕ヲ爲スベキ時ト雖尙ホ之ヲ爲スヲ得蓋シ其理由トスル

所異ナレバ也(八九)是ニ於テ酌量スベキ情狀アルト否トハ一ニ判官ノ認定權内ニ存シ大審院ノ監督ヲ受クベキ所ニ非サルヲ知ラン

酌量減輕ノ程度ハ第九十條ヲ以テ一等又ハ二等トセリ蓋シ此制限ナカランカ刑罰ハ全ク專斷ニ流レ却テ爲メニ刑ノ權衡ヲ失シ立法者ノ豫期スル所ニ反スベケレバ也

第五節 加重減輕處分

加重減輕ノ原因已ニ明ナル以上ハ更ニ之ヲ行フノ手段方法ヲ述ブルヲ要ス加減例及ビ加減順序是ナリ

第一 加減例

加減例ハ第六十六條以下ニ於テ之ヲ規定セリ其通則トスルモノ左ノ如シ

重罪輕罪違警罪ハ其間ニ判然一段階ヲ爲スモノタリ故ニ相通

重罪ノ加減

シテ加減スルトヲ得ス加之ナラズ等シク重罪ノ刑ニ就テ之ヲ論スルモ死刑ハ已ニ逆ルガ如ク他ノ刑ト大ニ特殊ノ性質アルヲ以テ相通シテ加減スルヲ得ス否寧ロ相通シテ加重スルヲ得ス違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ許サス(七)輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ許サス無期刑ヨリ加ヘテ死刑ニ入ルヲ許サズ而シテ減輕ハ之ヲ通スルヲ許セルモノ蓋シ恩典ト謂フベキノミ

加減例ハ其刑ノ主刑ナルト附加刑ナルト又或ハ重罪輕罪若クハ違警罪ノ刑ナルトニ依テ同一ナラズ

第一 重罪ノ刑ハ國事犯ト常事犯ナルトニ從テ異ナリ故ニ加減例モ亦兩様ナラサルヲ得ズ其順序左ノ如シ

一 常事犯ノ刑(六七)

國事犯ノ刑(六八)

一 死刑

一 死刑

- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

- 二 無期流刑
- 三 有期流刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

此故ニ重罪ニ在テヤ一等ヲ加減スル毎ニ其刑名ヲ變スルモノトス今若シ輕懲役又ハ輕禁獄ニ該ル者減輕スベキ時ハ如何輕罪ノ刑タル禁錮ヲ科スベキハ勿論ナリト雖モ禁錮ノ刑タルヤ十一日以上五年ニシテ若シ輕懲役ノ最短期六年ヲ以テ十一日ノ禁錮ニ比セバ其懸隔僅カニ一等ナリト云フ可ヲサルガ如シ此ニ於テ立法者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ減スルヲ以テ一等トセリ(六九輕懲役ハ減シテ重禁錮トシ輕禁獄ハ減シテ輕禁錮トス蓋シ輕罪ノ刑中重禁錮ハ國事犯ノ刑ニ非サレバ也)

第二 輕罪ノ刑ニ至テハ加減例之ト異ニシテ禁錮罰金共ニ各

輕罪ノ加減

本條ニ記シタル刑期又ハ金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等トス而シテ加ヘテ重罪ニ入ルハ法律ノ許サマル所ナリト雖モ禁錮ハ加重シテ七年ニ至ルヲ許セリ(七〇)之ニ反シテ禁錮罰金ヲ減シ短期十日以下寡數壹圓九拾五錢以下ニ及ブ時ハ違警罪ノ刑タル拘留又ハ科料ニ處スル事ヲ得ヘシ(七一)

此加減例ニ關シテ學者ノ論爭スル一問題アリ二等以上ノ加減ヲ爲スルハ一旦一等ヲ加減シテ後更ニ其加減シタルモノアリ四分ノ一ヲ加減スベキヤ或ハ一時ニ四分ノ二ヲ加減スベキヤ之ヲ換言スレハ遞加遞減ノ法ニ依ランカ通加通減ノ法ヲ用ヒンカノ問題是ナリ特ニ或ル論者ノ如キハ數學的ノ方式ヲ掲ケテ遞加遞減說ヲ主唱セリト雖モ予ハ何が故ニ學者ガ斯ノ如キ議論ヲ爲スヤヲ解スルニ苦シム如何トナレハ法律ノ明文ハ更ニ疑ヲ容ル、ヲ許サ、レバ也

夫レ加重ト減輕トハ同一法ニ從フベシ加重ハ遞加遞減法ニ依リ減輕獨リ通加通減法ニ從フガ如キナカルベシトハ何人モ信スルナラン然ラバ則チ第七十一條ノ法文ヲ見ヨ立法者ハ曰ク禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數壹圓九拾五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得ト末段亦ナル語ハ何ノ爲メニ存スルヤ末段ノ場合ヲ以テ他ノ場合ニ准センガ爲ナリ他ノ場合トハ何ゾ前段減盡ノ場合ニ非サルヲ得ンヤ然ラバ則チ禁錮又ハ罰金ヲ減盡スルトハ短期十日以下寡數壹圓九拾五錢以下ニ及ベル場合ト異ナルベシ如何トナレバ同一ナランカ末段ノ文章ハ無用ニ屬スレバ也故ニ減盡トハ全ク盡キテ些少ダニ殘ラサルヲ云フヤ明カナラン

是ニ於テカ如何ナル加減法ニ依ラバ減盡スルニ至ルコトアル

六百二十五

違警罪ノ加減

ベキヤヲ考フルニ遞加遞減法ニ依レバ幾等ヲ減ズルモ更ニ減盡スルコトナシ如何トナレバ常ニ一等即チ四分ノ一ヲ減シタル殘數ヨリ更ニ其四分ノ一ヲ減スレバ也減盡セシメント欲セハ必スヤ四分ノ四即チ一ヲ減スルコアルヲ要ス而シ是レ唯通加通減法ニ依リ四等ヲ減スル場合ニ於テ有リ得ベキ所ナリ然ラバ則チ減盡ノ文字ハ通減法ニ發セリ通減法己ニ立法者ノ採ル所ナリトセバ焉ンゾ通加法ノミ然ラサルノ理アランヤ

第三 違警罪ノ刑モ亦タ輕罪ノ刑ト加減例チ一ニス(七二)加ヘテ輕罪ニ入ルヲ許サザルモ拘留ハ十二日ニ至リ科料ハ貳圓四拾錢ニ至ルヲ得ベシ減輕ノ極點ハ拘留一日科料五錢トス其以下ニ至ルヲ許サズ減輕スルモ全免ニ至ル可カラサレバ也

第四 附加刑ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ四分ノ一ヲ加減スルチ一等トスルコト主刑ノ罰金ニ異ナルナシ然レモ減盡セル場合

附加刑ノ加減

刑罰原理

二〇七

ニ在テハ科料ヲ科セス單ニ主刑ノミヲ科ス蓋シ科料ハ主刑ニシテ附加刑ニ非サレバ也

其他ノ附加刑ニ至テハ全ク主刑ノ種類ト期限ニ從テ當然之ニ附加スルモノナルガ故ニ別ニ其加減例ヲ要セス又監視及ビ沒收ニ至テハ性質上加減スベキモノニ非サルカ爲メ之カ規定ヲ爲スノ必要ナシ是レ立法者ノ沈黙セル所以ナリ

第二 加減順序

加重減輕ノ原因一ニシテ足ラズ故ニ立法者ハ第九十九條ヲ以テ數者同時ニ存スル場合ニ於テ從フベキ順序ヲ定メテ曰ク犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ビ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲スト

加重ヲ先ニ  
減輕ヲ後ニス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

之ニ由テ之ヲ觀レバ我刑法ニ於テハ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニスルモノタルヲ知ラン其理如何蓋シ一旦先ツ減輕スル時ハ時トノ亦加重スベカラサルモノアルガ爲ナルベキガ如シト雖モ輕罪以下ノ刑ニ在テヤ加重ヲ先ニスルハ却テ犯人ノ利タルモノアルベク或ハ全ク同一ナルコトアルベキガ故ニ予輩ハ真正ノ理由ヲ發見スルコト能ハズ

右ニ掲ケタル四個ノ加減ハ九十九條第一項末段ノ但書ニ掲ケタル特別ノ加重減輕ヲ爲シ而シテ後其加減シタル刑ヲ本刑トシテ更ニ加減スベキモノトス此區別ヲ爲シタルモノハ他ナシ

一ハ一般ニシテ一ハ特別ナレバナリ而シテ特別ナルモノハ特ニ密接ノ關係アルガ爲メニ之ヲ先ニセリ若シ特別ノモノ數個存スル時ハ尙ホ通加通減ノ法ニ依ル

共犯ト單獨犯ノ別

第二款 數人共犯ノ場合ニ於ケル刑罰ノ適用

一個ノ犯罪ハ一人ニテ之ヲ犯スコトヲ得ベシト雖モ或ハ之ニ反シ數人ノ之ニ關スルコトアルヲ得ベシ然レモ是レ敢テ二人之ヲ犯スハ一人ノ犯セルヨリ罪狀重モシト謂フニ非ス之ヲ例スルニ竊盜罪ノ如キ二人以上共ニ之ヲ犯ス時ハ一等ヲ加重ス(三六九)ト雖モ是レ特例ノミ一般ニ然ルニ非ズ共犯アルハ加重ノ原因ナラズ且ツ夫レ共犯ト稱スルハ數人同一ノ犯罪ニ與カルヲ謂フ此故ニ犯罪全ク別個ナランカ縱合同一ノ場處同一ノ時期ニ於テ同一ノ犯罪アルモ是レ相關スル所アラス各一人一罪タルベシ然ラバ之ト共犯トハ何ヲ以テ分ツヤ兩犯關係ノ有無是ナリ然レトモ無意ノ關係ヲ足レリトセス必ス有意ノ關係タルヲ要ス是レ自明ノ理ナリ

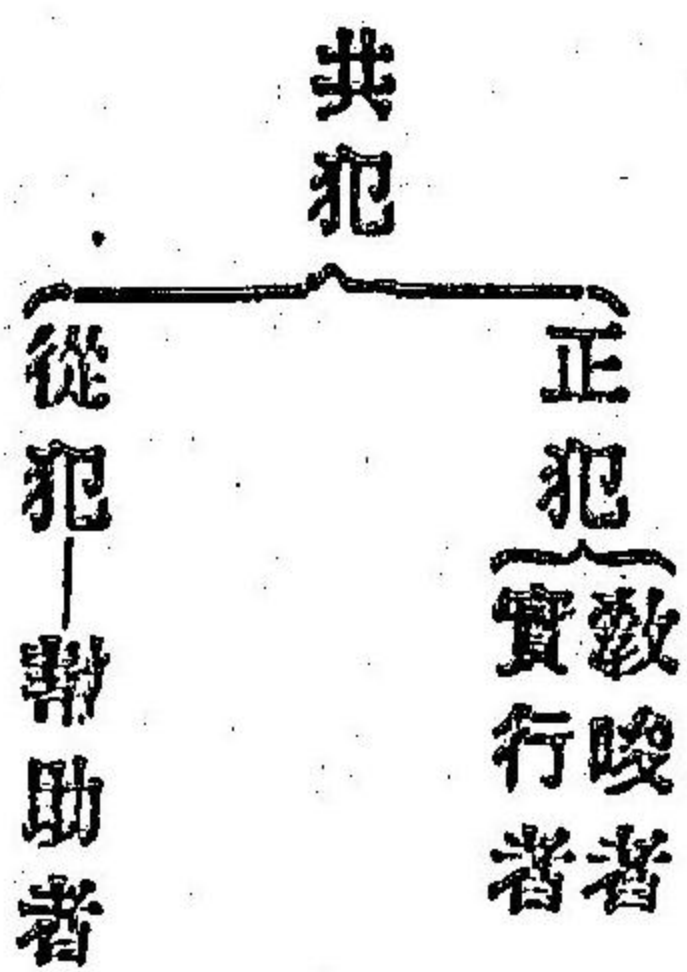
二人以上ノ者同一ノ犯罪ニ關係セルモノ之ヲ共犯ト稱スベキ

共犯者相互ノ關係

モ其關係タルヤ種々ナルヲ得ベシ或ハ一人ハ他ノ一人ノ決心ヲ爲サシメタルニ過キサルコトアルベシ或ハ犯罪ヲ容易ナラシムル豫備ノ所爲ヲ爲スモノアラン又或ハ犯罪ノ實行ノミニ關係シタルモノアルベク或ハ終始ヲ共ニシタルモノアラン要スルニ其情狀決シテ一ナル能ハス之ヲ處スル尙ホ畫一ノ刑ヲ以テスベキヤ此點ニ於テ歐洲各國ノ法未タ同一ニ出ルコト能ハズト雖モ予輩ハ其間ニ階級ヲ設クルノ至當ナルヲ信スルモノナリ

我立法者ノ採用セル區分法ハ左ノ表ノ如シ

共犯者間刑罰ノ區別



此故ニ一旦犯罪ニシテ實行シ終ラシカ此後ニ至リテ何等ノ行爲ヲ爲スモノアルモ之ヲ稱シテ共犯ノ一種トスルヲ得ズ唯時ニ或ハ罪人藏匿罪(一五一以下)トナリ又或ハ贓物寄藏故買若クハ牙保ノ罪(三九九以下)トナルベキノミ

第一 正犯

我刑法ノ正犯トスル所ノモノニ現ニ犯罪ヲ共ニシタル者及ヒ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者はナリ純然タル正犯ト稱スベキハ實ニ前者ニアリ

實行者

甲 現ニ犯罪ヲ共ニシタル者 皆正犯トシ各自ニ其刑ヲ科ス  
 (二〇四)共ニスルハ單ニ有形的ノ要素ヲ共ニスルニ非ス無形的ノ要素ヲモ共ニセザル可ラズ蓋シ然ラザレバ犯罪ヲ共ニスル者ニ非サレバ也且ツ犯罪ヲ共ニスルニハ未タ同一有刑ノ所爲ヲ共ニスルヲ要セス犯罪ノ實行ヲ共ニスレハ足ル二人相謀リ



意圖ノ共通連  
絡

テ窃盜ヲ行ヒ一人ハ家室内ニ入りテ財物ヲ搜索シ一人ハ室外ニ之ヲ運搬シ及ヒ監守ノ任ニ當ルカ如キ其有形ノ所爲ハ各自ニ異ナルモ共ニ犯罪ヲ實行スルハ一ナリ故ニ正犯タルベシ而シテ現ニ之ヲ共ニスルヲ要スルハ蓋シ犯罪既成後ノ干與ニ非ズ又其豫備ノ所爲ニ非サルヲ謂フノミ

或ハ曰ク現ニ犯罪ニ與カリタル以上ハ謀ヲ共ニシタルト否トヲ問ハズト予ハ之ヲ至當トスル能ハス若シ其意思ノ共通存セズンハ則犯罪ヲ共ニシタリト云フ能ハズ二人盜ヲ謀リテ之ヲ實行ス甲ハ元來強盜ノ意アリ乙ハ窃盜ニ意アリ而シテ互ニ之ヲ言ハス甲ハ短刀ヲ懷ニシテ家内ニ侵入シ乙ハ戶外ニ在テ監守ス知ラズ何等ノ理アリテ乙ヲ強盜ノ正犯トスベキヤ甲者乙ヲ殺サント欲シ棍棒ヲ以テ之ヲ毆打ス丙ハ乙ヲ苦シメント欲シテ甲ニ力ヲ添ヘ乙ノ遁ル、ヲ捕ヘテ甲ノ暴行ヲ十分ナラシ

犯者一身上特  
殊ノ加重減輕  
ハ共犯者ニ及  
ホサズ

ム再打三打乙昏倒シテ終ニ絶命ス而シテ丙ハ未タ殺意ヲ有セザリシナリ然ルモ尙ホ謀故殺ノ正犯ヲ以テ論ズベキヤ二人窃盜ヲ計リテ共行ス一人戶外ニ監守シ一人家内ニ入ル家人ノ爲メニ發見セラレ窃取セル財ノ取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行ヲ爲シ強盜ヲ以テ論セラルベキ情狀アリ知ラズ窃盜ヲ實行シテ戶外ニ監守スル者モ亦強盜ノ正犯ナリトスベキヤ予輩ハ決シテ然ルヲ得スト斷センノミ然リト雖モ予ハ敢テ正犯タルニハ豫メ通謀協議ヲ要スト云フニ非ス其場ニ臨テ生スルモ唯タ彼我意思共通連絡アル以上ハ己ニ以テ正犯タルニ足ル

然ルニ二人共犯ノ場合ニ當テヤ其一人ニ特別ナル情狀原因ノ存スル在テ刑ノ加減若クハ全免或ハ無責罰ヲ來タスコトアリ或ハ年齢ニ基クガ如キ或ハ再犯ニ因スルカ如キ精神ノ喪失ニ原スルガ如キ皆是ナリ斯ノ如キハ其犯罪タル所爲ノ情狀ニ發

教唆者

ゼスシテ其犯人一身上ノ事タリ故ニ其加重減輕免責等總テ之ヲ其一身ニ止ムベシ他ニ及ホスベキニ非ズ而シテ此事タル獨リ正犯相互ノ間ニ於テノミ然ルニ非ズ正犯ト從犯若クハ教唆者トノ間ニ在テモ亦然リ(一〇六、一一〇)且相互ニ於テ然リトス我立法者ノ規定スル所多少ノ欠點ナキ能ハズ

乙 犯罪ヲ教唆シタル者 教唆トハ未タ犯罪ノ決心ナキ者ヲシテ決心セシムルヲ云フ故ニ教唆ニ用ヒタル方法ノ如何ヲ問フノ要ナシ又犯人元來犯罪ノ意毫末モ存セサルト或ハ多少之レ有ルモ未タ決心ニ至ラサリシトヲ區別セス又己ニ決心存セハ其後ニ至テ教唆ナルモノ成立スル能ハサルヲ知ラン而シテ教唆者ハ之ヲ純然タル正犯ニ准シ其本刑ヲ科ス予ハ正犯ニ准シト言ヘリ蓋シ單ニ理論上ヨリ之ヲ考ヘバ則チ其犯罪ニ關シテハ唯決心アルノミニシテ實行ナク未タ全ク犯罪ヲ一人ニ於

九百七

教唆者ノ處分

テ完備セル者ト同一ナラサレバ也

教唆者ノ處分ニ關シテ特ニ第七條及ヒ第八條ノ規定ヲ爲セリ其一ニ曰ク犯人多數ナルノ故ヲ以テ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得スト是レ他ナシ純然タル正犯ニ非ズ單ニ之ニ科スルニ本刑ヲ以テスルガ爲メ之ヲ正犯ニ准シタルニ過キサレハナリ多數ニ算入スルヲ許サマルハ獨リ教唆者ノミ然ルニ非ズ從犯ト雖モ亦同一ナリ

教唆者ニシテ正犯タルハ被教唆者ノ犯シタル罪ノ源因ダレバ也然ラハ則チ教唆ト犯罪ト關係ナカル可ラサルハ贅言ヲ待タス故ニ貨幣偽造ノ罪ヲ教唆シタルニ當リ全ク之ト關係ナキ謀殺罪ヲ犯スガ如キ未タ謀殺ノ教唆ヲ以テ論スベキニ非ズ或ハ教唆ニ乘シ之ト關係アル罪ヲ犯スモ或ハ指定セル所ト異ナルカ若シクハ其方法ヲ同フセサルガ如キ實行セル犯罪ニ就テ直

チニ教唆者ニ責ヲ歸スベキニ非ズ蓋シ教唆セル範圍外ハ教唆ニ非サレバ也此故ニ左ノ規定ニ從フ

(一) 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止テ指定セル罪ニ從テ刑ヲ科ス是右ノ理論ニ基クモノナリ

(二) 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ教唆者ヲ處斷ス蓋シ教唆ハ唯教唆ノ一事ヲ以テ正犯タルニ非ズ被教唆者ノ之ヲ實行スルヲ待テ始テ然ルヲ得然ラバ則チ教唆スル所重キモ所犯輕クハ則チ其差異ヲ爲ス部分ハ單ニ教唆アツテ所犯ナシ則チ犯罪ノ要素ヲ備ヘサルナリ故ニ唯所犯ノ罪ニ從テ之ヲ論スルニ止ム

此兩則ハ單ニ教唆者ニ適用スベキノミナラズ從犯ニ關シテモ亦タ然ルヲ得ベシ第百九條末段ノ但書ハ單ニ從犯ノ知ル所正犯ノ犯ス所ヨリ重キ場合ノミヲ規定スルモ法理ハ尙ホ之カ欠

九百九

ヲ補ヒ所犯輕キ時ニ當テ前記ノ規定ヲ適用スルヲ許スベシ

第二 從犯

從犯ト正犯トノ別アル所以

從犯トハ其犯罪ニ關スルノ點ヨリ論スレハ共犯ノ一種タル固ヨリ言フヲ待タサレドモ特ニ正犯ト相分ツ所以ノモノハ他ナシ正犯ハ其人一身ニ於テ犯罪ノ要素ヲ完備スルモ單ニ從犯ニ留ルモノハ未タ然ラサレバ也一人犯罪ヲ爲スニ當リ我亦タ之ヲ爲スノ意ヲ決シ共ニ之ヲ行フ是レ無形有形ノ要素全ク備ハルモノニシテ所謂ル正犯タリ從犯ハ然ラス已レ犯罪ヲ實行スルヲ要セズ又且ツ犯罪ノ決心アルヲ要セス蓋シ我法律ノ從犯トスル所唯タ他人ノ已ニ決心セル犯罪ノ實行ヲ補助スルノ所爲ニ在レバナリ

若シ夫レ自ラ手ヲ下シ犯罪ノ實行ニ干與センカ之ヲ目シテ從犯ナリト云フヲ得ズ如何トナレバ我刑法ハ豫備ノ所爲ニ止ル

教唆ハ犯者ノ  
決心以前ニア  
ルベク從犯ハ  
犯者ノ決心以  
後ナルベシ

者ノミチテ從犯トスレバナリ又且ツ之ヲ教唆ニ比スレバ大ニ其性質ノ異ナル者アルヲ見ン教唆トハ要スルニ未タ犯罪ノ決心アラサル者ヲシテ此決心ヲ爲サシメタルヲ謂フ故ニ教唆ハ決心以前ニノミ存シ得ベクシテ決心以後ニ在ル可ラズ從犯ハ全ク然ラズ獨リ決心既ニ成ルノ後ニ之レ有ルベシ決心有ラサルノ時ニ當テ成ルコト能ハズ其理如何ン蓋シ從犯ハ正犯ノ幫助ヲ云フ者ニシテ犯罪ノ決心ナキ以上ハ幫助スベキモノアラサレバ也

我法文ノ從犯ニ關スルモノハ第九條及ビ次條ナリ其規定ニ從ヘバ則チ日ク重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減スト  
此故ニ從犯ハ獨立シテ一個ノ犯罪タルニ非ズ他ノ犯罪ニ附從

九百十一

從犯ハ犯罪實  
行ノ後ニ生  
ズ

正犯ノ從犯者  
ノ知ル所ヨリ  
重キ場合

セルモノタルハ明ナリ則チ正犯ヲ幫助セルノ一事ヲ以テ犯罪タルニ至ルモノトス是ヲ以テ從犯ノ有無ニ關セス已ニ正犯アルヲ知ルベシ未タ決心ヲモ有セスハ正犯トハ稱シ難シ他人ノ之ニ勸誘シテ決心アルニ至ラシメタルアルハ是レ教唆ナリ已ニ決心アリ更ニ進テ之カ實行ヲ爲スニ意アルノ時人若シ此決心ヲ知リ犯罪ノ實行ヲ容易ナラシムル爲メニ或ハ器具ヲ給與シ或ハ方法手段等ヲ指示シ幫助ヲ爲スニ至リ初メテ從犯アリ時ヲ以テ之ヲ言ハバ教唆ノ時期已ニ過キテ而シテ從犯ノ時期トナル而シテ此時期ハ犯罪ノ實行ト共ニ終ル其以後ニ至テヤ假令バ罪人藏匿ノ如キ犯罪ヲ幫助スルモノト云テ得ズ故ニ從犯ニ非サルナリ

第九條末段ニ日ク正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減スト從犯ノ罪ハ故意

アリテ而シテ成ル故意トハ則チ他人カ犯罪ヲ行フノ意アル  
 ナ知テ之ヲ幫助スルノ謂ヒナリ是ヲ以テ若シ之ヲ知ラザレバ  
 從犯ニ非ズ縱令ヒ之ヲ知ルモ一半ニ止ラバ則チ他ノ一半ニ對  
 シテハ故意ナク從テ未タ從犯トスベキニ非ズ盜ヲ爲スヲ知テ  
 之ヲ幫助セルニ正犯ハ強盜殺人罪ヲ犯セルガ如キ則チ是ナリ  
 此ノ如キ時ニ當テヤ正犯ノ盜罪ヲ以テ從犯處分ノ標準トスベ  
 キモ強盜殺人ノ從犯トスル能ハサルハ右ニ述ル所ニ依テ明ナ  
 ルベシ是レ本條ノ但書アル所以ナリ

然ラバ則チ正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ輕キ片ハ如  
 何スベキヤ從犯ノ知ル所ヲ以テ罰スベキヤ曰ク否若シ從犯ニ  
 ノ獨立殊別ノ犯罪ナランニハ斯ノ如クナル亦タ何ノ不可アラ  
 ンヤ然レモ從犯ノ性質ハ斯ノ如クナラズ正犯無クンバ則チ從  
 犯獨リ存スル能ハズ此理敢テ其有無ノミニ關スルニ非ス其範

正犯ノ從犯者  
ノ知ル所ヨリ  
輕キ場合

正犯者無罪タ  
ルモ犯罪アレ  
ハ從犯者ハ其  
責ヲ免レズ

圍ニ至テモ亦タ然リ從犯ノ知ル所十ニシテ正犯ノ行フ所五ニ  
 止ランカ殘餘ノ五ニ對シテ正犯ナシ從テ從犯アル能ハズ故ニ  
 正犯ノ行フ所ニ止メサル可ラズ

然リト雖モ深ク注意スベキモノアリ正犯ノ行フ所即チ其所爲  
 ナ取テ觀察スル片ハ全ク犯罪ナルベキモノナルモ尙ホ之ガ本  
 人ハ刑ヲ受ケサルコトアリ無責罰ノ原因存スル場合はナリ此  
 ノ如キ時ニ當テヤ正犯刑ヲ受ケサルガ故ニ從犯モ亦タ刑ナシ  
 ト云フヲ得ベキカ然ルコト能ハズ無責罰ハ其人ニ止リテ他ニ  
 影響アルベキニ非ス正犯ノ身ニ無責罰ノ原因アルモ其所爲ニ  
 シテ犯罪タルベキ性質ノモノタラバ己ニ以テ從犯ノ罪ヲ論ズ  
 ベシ是故ニ從犯處分ニ關シテ問フベキ所ノモノハ正犯タル者  
 ノ處分如何ニ非スシテ正犯ノ所爲ニ法律ノ科セル刑ニアリ更  
 ニ此理論ヲ適用シテ他ノ點ニ及ホストキハ左ノ斷定ヲ爲スナ

得ベシ正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減輕スベキ時ト雖モ從犯ノ刑ハ之ガ爲メニ減輕スルコトヲ得ズト(第一百十條第二項)又更ニ斷シテ言フテ得ベシ第九條ニ謂フ所ノ正犯ノ刑トハ正犯タルモノ、現ニ受クル刑ヲ指スモノニ非ズ各本條ニ依リ正犯ノ所爲ニ科セラレタル刑ヲ指スノミト蓋シ然ラサレバ正犯ノ身分ニ基ク加重減輕ヲ以テ從犯ノ刑ヲ加減スルニ至ルベケレバ也、最後ニ當テ尙ホ一言スベキモノアリ重罪又ハ輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與スルモ此器具ヲ使用セス誘導指示ヲ爲セルモ敢テ此誘導指示ニ從ハズンハ從犯ヲ以テ之ヲ論スルコト能ハズ如何トナレバ是レ敢テ犯罪ヲ容易ナラシメタリト言フベカラサレバ也又况ンヤ幫助ト稱スベカラサルヲヤ且ツ夫レ縱令給與セル器具ヲ使用シ誘導指示ニ從フト雖モ其現ニ行フ所ノ犯罪ヤ全ク此幫助ヲ爲シタル者ノ知ル所ト關係ナカラシカ

從犯タルベキ  
幫助ヲ實行セ  
サレバ從犯ト  
ナラズ

九百十四  
九百十五

未タ從犯ヲ以テ處スル能ハス蓋シ故意以テ犯罪ヲ容易ナラシメタリト言フヲ得サレハナリ

第三款 數罪俱發ノ場合ニ於ケル刑ノ適用

人若シ一罪ヲ犯シ而シテ未タ之カ處分ヲ經サルノ前ニ在テ更ニ他ノ一罪ヲ犯ス之ヲ稱シテ數罪俱發ト稱ス其犯ス所三個以上ニ至ルモ亦タ異ルコトナシ而シテ此數罪ヤ或ハ同一裁判所ニ公訴ヲ提起セラル、コアルヘク或ハ時ニ然ラサルコトアルヘキモ是レ敢テ數罪俱發ノ性質ヲ變スルモノニ非ス苟モ左ノ條件備ハル片ハ則チ必ス存スルモノトス

數罪俱發ノ要件

其一ニ曰ク一人ニシテ少ナクモ兩個ノ犯罪ヲ行ヒタルコト要ス其犯罪ノ一個タルヤ二個以上ナルヤハ通常之ヲ知ルコト難カラサルヘシト雖モ時ニ或ハ然ラサルコトアリ是ニ於テ嘗テ述ヘタル繼續犯行慣犯等ノ原理ヲ以テ之ヲ明カニスルヲ要ス

ヘシ

其二ニ曰ク其數罪中ノ一者ヲ犯スノ以前ニ於テ已ニ他ノ一者ノ故ヲ以テ處分ヲ受ケシコトナキヲ要ス若シ之ニ反センカ或ハ以テ再犯タルベシ未タ數罪俱發トスルヲ得ズ再犯ノ場合ニ於テハ罰スベキ罪一ニシテ唯前科アルノミ俱發ノ場合ニハ罰スベキモノ二個以上アリ然レモ是レ敢テ數罪俱發ト再犯ト并ヒ生スル能ハスト言フニ非ズ兩者同時ニ存セバ兩者ノ原理ニ從テ之ヲ斷スベシ予ハ唯タ兩者ノ同一ナラズシテ判然區別アルヲ説クノミ

有形的數罪俱發及無形的數罪俱發

數罪俱發ハ其性質上ヨリ之ヲ觀察スルニ兩種アルベシ一人ニシテ數個ノ所爲ヲ爲シ其所爲ハ各一個ノ犯罪ヲ構成スルガ故ニ數罪俱發アルヲ得ベシ又或ハ其所爲元來一個ナルモ同時ニ數個ノ犯罪タルカ爲メニ數罪俱發タルコトアルベシ學者ハ前

九百十七

數罪俱發ト再犯トノ別アル所以

者ヲ曰シテ有形的數罪俱發ト云ヒ後者ニ命スルニ無形的數罪俱發ノ名ヲ以テセリ其無形的ナルモノニ至テハ之ヲ犯シタル者ヨリ觀レバ元來一罪ナルモ其結果ヨリ論スルハ終ニ數個ノ犯罪ニ等シキノミ斯ノ如キハ固ヨリ其重キモノニ從テ罪ヲ論シ數個ノ刑ヲ併科セサルコト至當ニシテ敢テ問然スベキ所アラサルガ如シ然リト雖モ茲ニ數罪俱發ト稱スルハ主トシテ有形的ノ數罪俱發ニシテ之カ處分ノ如何ニ至テハ學者ノ説ク所未タ其歸着チ一ニスル能ハズ

等シク一人數罪ヲ犯ス場合ナリト雖モ後罪ヲ犯セルハ前罪已ニ處分ヲ經ルノ後ナランカ即チ彼ノ再犯タル場合ナランカ各罪ノ刑ヲ科スベキハ論ヲ待タサルノミナラズ尙之ト同時ニ後罪ニ科スル刑ヲ加重セントスルノ理モ敢テ至當ナラズト云フ能ハズ即チ再犯ノ結果ハ同時ニ併科及ビ加重タルヲ得ベキナ

リ茲ニ論スル俱發ノ場合ニ至テハ斯ノ如クナル能ハサル者アリ犯罪ヲ爲スル數回ナルモノハ固ヨリ其性ノ善ナラサルヲ知ルニ餘リアラン然レモ前罪未ダ處分ヲ受ケサルノ時ニ於テ罪ヲ重ナルモノタルヲ知ラバ普通ノ刑以テ懲ラスニ足ラズトハ言ヒ難カルベシ然ラバ則チ併科ト加重ト同時ニ適用スベキノ理ナキハ明ナリ是ニ於テカ數罪俱發ノ處分ニ關スル議論ノ存スル所ハ數罪各其刑ヲ科スベキヤ將タ一刑ヲ科シテ他ヲ科セサルベキヤ一刑ヲ科スルトセバ數罪中最モ重キ者ニ從テ之ヲ論センカ將タ尙ホ加重スベキカノ點ニ在リ

其理論ノ兩端ニ在ルモノヲ擧ケバ併科スルトノ説ト最重ナルモノニ從テ一刑ヲ科スルトノ説ナルベシ

予輩ハ併科主義ヲ以テ實ニ其當チ得タルモノナリト信ス蓋シ曰ニ一罪ヲ犯ス必ス一刑ヲ受クベシ未ダ然ラズシテ更ニ第二

併科主義及ビ  
吸收主義

ノ罪ヲ犯スモ之ガ爲ノニ前者ヲ消滅セシムベキニ非ズ又輕カラシムベキニ非ズ若シ夫レ併科セズシテ重ニ從テ論セバ則チ其重キモノノミヲ犯セルモノト更ラニ異ルナカルベシ是レ其輕キモノハ之ヲ不問ニ付スルナリ斯クノ如クンバ一旦犯罪ヲ爲シタル者ハ之ヨリ輕キ他ノ犯罪ヲ爲スモ更ニ失フ所ナケン然ルニ尙ホ之ヲ可ナリトスベキヤ予ハ我刑法ノ原則ヲ以テ宜キヲ得タリトスルコト能ハズ或ハ曰ク併科ノ主義ヲ用ヒサルモ加重ノ制ヲ用ユル時ハ則チ可ナルニ非ズヤト曰ク不可ナリ重ニ從テ論シ更ニ之ニ加重スルモ尙ホ是レ輕キモノヲ論セサルハ一ナリ其加重スルヤ輕キ罪ノ他ニ存スルガ爲メナルニモセヨ唯重キ罪ノ刑ヲ加重スルニ止リテ未ダ輕キ罪其物ヲ論スルニ非ザレハ彼ノ再犯加重ノ場合ニ於テ前罪ヲ再論スルニ非サルモ唯前科ノ爲メニ新罪ノ刑ヲ加重スルト同一ナルベシ予



併科主義非難者ノ論點

輩故ニ之ヲ取ルコト能ハズ  
 或ハ併科主義ヲ難シテ曰ク刑ニシテ併科シ難キモノアリ死刑  
 無期刑ノ如キ奈何ノ同時ニ之ヲ科スルヲ得ンヤト實ニ然リ有  
 形上ニ此困難アルハ予カ飽迄認ムル處ナリト雖モ是レ所謂ル  
 勢ノ止ミ難キニ出ルモノノミ未タ以テ併科ノ理論ヲ破ブルニ  
 足ラサルヲ如何センヤ此ノ如キ場合ニ在テモ尙ホ強テ併科ス  
 ベシトハ予輩ノ主張スル所ニ非ズ實際爲シ得ベカラサレバ也  
 故ニ若シ實際ニ行ヒ得ベクンバ之ヲ行フニ猶豫セズ一罪大赦  
 ヲ得又ハ其刑特赦ヲ受ケタル如キ更ニ他ノ刑ヲ科スルノ妨ケ  
 タラサル也

然リト雖モ其刑タルヤ有刑上併科シ難キニ非サルモ尙ホ併科  
 ノ結果ハ甚シキ苛酷ニ失スルヲナキヲ保セス此ノ如キ場合ニ  
 當テヤ併科ニ多少ノ制限ヲ設ケ一定ノ程度ニ超ユルヲ許サ

ナルモ或ハ可ナラン是ニ於テ其結果ヨリ觀察スル片ハ或ハ一  
 刑ニ止メ單ニ加重セルモノト相類スルコトアラン然レモ其理  
 論全ク同シカラズ一ハ併科シテ制限ス故ニ兩罪ヲ論スルモノ  
 タルヲ妨ケス一ハ加重スルモ論スル所唯一罪ノミ他ノ犯罪ヲ  
 論セサルニ在リ

併科シテ而シテ制限スル所以ノ理何ノ處ニ存スルヤ或ハ曰ク  
 罰金ヲ以テ之ヲ例センニ數罪ニ科スルモノヲ併算セハ其額非  
 常ニ多クシテ遂ニ犯人ノ資産ヲ奪ヒ盡シ殆ト一般沒收ト異ナ  
 ラザルベシ故ニ之ヲ避クルヲ要スト果シテ然ラバ赤貧洗フカ  
 如キ者ニ向フテヤ些少ノ罰金モ之ヲ科スルコト能ハスト斷定  
 スベシ如何トナレバ一般沒收ニ等シキ結果ニ到ルハ必スシモ  
 數罪ノ刑ヲ併科スルヲ待タサレバナリ予ハ斯ノ如キ脆弱ノ理  
 由ヲ取ラズ又或ハ曰ク犯人數罪ヲ犯セルハ犯人ニ責ムベキ所

アリト雖モ亦タ多少國家が速カニ之ヲ懲罰セザリシガ故ニ原  
 セスンバアラズ一罪ノ時ニ於テ己ニ處分ヲ受ケハ第二ノ犯罪  
 ヲ行フニ至ラザリシモ亦タ知ルベカラズ然ラバ則チ嚴正ニ併  
 科スベカラサルモノアルヲ知ラント是レ數罪俱發ヲ以テ國家  
 ノ懈怠ニ出ツルト論スルモノナリ予輩ハ國家カ犯人ニ對シテ  
 之ヲ處罰スルノ權利アルヲ知ルモ未ダ斯ノ如キ義務アルヲ知  
 ラス若シ法律上ニ拘束セラル、コトナク國家ノ性質上ヨリ本  
 分ノ在ル處ヲ明カニセバ則チ社會一般人民全体ニ對シテハ犯  
 罪アルモ力ヲ速ニ之ヲ處分スルコト至當ノ任ナルベシト雖  
 一モ未タ犯人其人ニ對シテ此任ヲ有スルモノニ非ズ且ツ夫レ公  
 訴ノ期滿免除ナルモノ在テ而シテ若干年ヲ經過スル時ハ其犯  
 罪ヲ論スル能ハサルガ故ニ決シテ數罪ノ刑ヲ併科スルモ數十  
 年ノ犯罪ヲ悉ク同時ニ論スルカ如キハ甚ダ稀ナルベシ

九百二十二

予輩が制限ヲ可ナリトスルハ唯必要ノ如何ニアリ國家カ犯罪  
 ヲ處罰スルハ以テ犯人ヲ懲罰シ世人ノ警戒ヲシメントスル  
 ニ在リ苟モ此目的ヲ達セハ則チ何ソ他ヲ求メン又焉ンゾ刑ノ  
 重キニ過クルヲ希ハンヤ故ニ併科ヲ以テ原則トスルモ或ル犯  
 罪ニ限リテハ之ヲ制限シテ一定ノ程度ニ止ルモ尙ホ以テ懲罰  
 警戒スルニ足ルト認ムベキモノアラバ此制限ノ原則ヲ定ムベ  
 シ制限スベクシテ而シテ尙ホ制限ヲ用ヒスンバ是レ無用ノ刑  
 ヲ科スルモノニシテ刑罰權ノ濫用ナリ濫用ハ權利ナクシテ行  
 フト更ニ異ル所アラズ  
 予輩が信スル所斯ノ如クナルモ我立法者ノ主義ハ之ト異ナリ  
 法文ヲ按スルニ左ノ如シ  
 第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタ  
 ル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重トナシ刑期ノ等シキ者ハ定  
役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ス

此故ニ本條第一項ハ重キニ從フノ主義ヲ確認シタルモノニシ  
テ第二項以下ハ輕重ノ標準ヲ示セルモノナリ而シテ本條ニ所  
謂ユル判決トハ如何ナル判決ヲ指示スルニ在ルヤ之ヲ解スル  
ニハ再犯加重ニ關スル第九十四條ニ依ルヲ要ス蓋シ再犯ト俱  
發トノ依テ分カル、所唯其間ニ處分ノ有無ニ在リ而シテ初犯  
裁判確定ノ後ニ非サレバ再犯ナルモノアズ然ラバ則チ縱令  
ヒ已ニ裁判アルモ未タ確定セサル以前ニ於テ更ニ犯罪ヲ行ハ  
ゞ是レ尙ホ數罪俱發タルヲ妨ケサルナリ

此原則ニ關スル我法律ノ精神ハ左ノ數項ニ約スルヲ得ベシ其  
一ニ曰ク數罪俱ニ發スルハ其種類ニ論ナク一ノ重キニ從テ

之ヲ處斷ス其二ニ曰ク違警罪二個以上俱發スルニ止ルハ併  
科ノ主義ヲ用ユ其三ニ曰ク重罪ノ輕重ハ刑期ト定役トヲ以テ  
之ヲ分チ輕罪ノ輕重ハ裁判官ノ認定ニ依テ定ム(第百條及ヒ第  
百一條)

而シテ元來數罪俱發ノ場合ニ該當スルモ一罪先ツ發覺シ已ニ  
確定裁判ヲ經タル後ニ至リ他ノ一罪始メテ發覺スルコト無キ  
ヲ保セヌ此時ニ在テモ俱發ノ原理ヲ適用スベキハ一ナリ一ニ  
後者前ニ等シク又ハ輕キ時ハ之ヲ不問ニ付シ唯重キ時ノミ之  
ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス(第百二條)

第百二條第二項ノ規定ニ至テハ一見不可思議ノ感ナキ能ハサ  
ルモ立法者ノ精神ハ之ヲ何ヒ知ルヲ得ヘシ一人罪ヲ犯シ重懲  
役ニ該當ス而シテ更ニ輕懲役ニ處セラルベキ重罪ヲ犯ス然ルニ  
第一罪獨リ發覺シテ處分ヲ受ケ後更ニ第三ノ犯罪ヲ行ヒ禁錮

ニ該當ス此時ニ當テ第二罪第三罪共ニ發スルハ之カ處分如何スヘキヤ第三罪ハ第二罪ト共ニ數罪俱發トスヘキモノタリト雖モ第一罪ニ對シテハ再犯ヲ以テ論スルヲ要ス而シテ第二罪ハ第一罪ト共ニスルモ亦第三罪ト共ニスルモ等シク俱發タルベシ唯前段ニ述ブル所ヲ貫カント欲セバ既判ノ第一罪ト共ニ論スルコト其理ニ合セリト雖トモ第一罪ハ已ニ確定ノ裁判ヲ經而シテ一方ニ於テハ第三罪ノ俱發トシテ論シ得ベキモノアリ故ニ我法律ハ規定シテ曰ク前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セザル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セスト即チ之ヲ前例ニ適用スルハ第二罪ト第三罪トヲ比較シ其重キ者ニ從ヒ第二罪ノ刑ヲ科ス故ニ蓋シ立法者ハ便宜ノ爲メニ此制ヲ設ケタルモノト言フヘシ

然レモ若シ之ヲ以テ其宜シキヲ得タルモノナリヤト問ハ、唯否ノ一語以テ之ニ答フルノ外アラス前例ニ在テヤ第一回ニ於テ重懲役ニ第二回ニ於テ輕懲役ニ處セラルヘシ故ニ前後ノ刑共ニ重罪ノ刑タラン然ルニ少シク其例ヲ變シ第一回ノ時已ニ第一第二兩罪俱發シ其處分ヲ受ケタリトセハ第一回ノ刑ハ重キニ從テ重懲役ナルベク第二回ノ刑ハ唯第三罪ニ科スル禁錮ニ過キサルヘシ何が故ニ斯ノ如キ差異ヲ來タスヤ罪狀異ナル所アラズ唯發覺ニ前後アルノミ予ハ之ガ爲メニ犯人ヲシテ特ニ重刑ヲ受ケシムヘキ理アルヲ發見スル能ハズ然レモ予ハ敢テ我法律ノ主義ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ犯人ニ不利ナルモノト云フニ非ス或ハ却テ其利ナルコトアリ前例中第一罪ヲ禁錮ニ該當スルモノトシテ第一回ノ裁判ヲ經而シテ第三罪ハ重懲役ニ該當スルモノニシテ第二罪ト共ニ發セル場合ニ於テ

重キニ從テ論スルハ刑事ニ限ル

然リトス此時ニ當テヤ若第百條乃至第百二條第一項ニ從ハンカ犯人ハ第一回ニ輕懲役第二回ニ重懲役ノ刑ヲ受クベクシテ而シテ第百二條第二項ニ從ヘバ第一回ニ禁錮第二回ニ重懲役ノ刑ヲ受ク是レ犯人ノ利益タリ此故ニ敢テ犯人ノ利不利ヲ以テ此制度ヲ可否スルニ非ズ利不利ノ差至當ノ理由ナシ唯司法官若クハ刑ノ執行ヲ司ル者ノ爲メニ幾多ノ便宜ヲ與ヘタルノミ此故ニ曰ク未タ宜シキヲ得タル規定ト云フ可ラズト本款ヲ終ルニ當テ尙ホ一言スベキハ第百三條ヲ以テ定メタル例外ナリ曰ク數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フト即チ皮想ノ見ヲ以テスレバ沒收及ヒ徵償ニ關シテ例外ヲ設ケタルモノ、如シ然レドモ重キニ從テ論スルノ原則ハ止タ刑事上ノ責任ニ關スルモノナリ固ヨリ民事上ノ責任ニ關セス而シテ徵償ハ元來民

事ノ事ニシテ此原則ノ管スル所ニ非ス焉ソ例外ヲ設ケルノ必要アラン獨リ沒收ニ至テハ真正ノ刑罰ナルカ故ニ是レ純然タル例外ナリ之ヲ設ケル所以如何蓋シ沒收ハ時ニ其物件ノ法禁物ナルカ故ニ之ヲ科スルコトアリ或ハ否ラサルモ犯罪ヲシテ財物ヲ取得スルノ手段タルコトナカラシメ又或ハ犯人カ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ其手ニ存スル無カラシムルガ爲メニ之ヲ科ス他ノ刑ト其性質異ル所アルヲ以テ也

第三章 刑ノ消滅

刑ハ其執行ニ依テ消滅スルコト猶ホ義務者ガ負債ヲ辨濟シテ而シテ其義務ノ消滅ヲ致スト異ルコトナシ然リト雖モ是レ決シテ唯一ノ原因ニ非ズ民事上ノ義務ニシテ義務者ノ一身ニ止ルモノハ其死亡ニ依テ消滅スルカ如ク刑モ亦犯人ノ死去ノ爲メニ消滅スベシ債務者特ニ恩惠ニ依テ義務者ヲ釋放スル時其

刑ノ消滅スベキ各事項

義務ノ消滅スルト等シク刑モ亦タ恩典ニ依テ消滅スベシ彼ノ赦ト稱スルモノ復權ト稱スルモノ是ナリ且ツ夫レ民事上ノ義務ノ如ク刑モ亦タ期滿効ニ依テ消滅スルヲ得ベシ然ラバ則チ本章ニ於テ述ブベキ所ノモノ左ノ如クナルベシ

第一 刑ノ執行

第二 犯人ノ死去

第三 期滿免除

第四 大赦

第五 特赦

第六 復權

然ルニ或ハ治罪法ノ規則ニ從ヒ再審ヲ以テ前判ヲ廢シタル時モ亦タ刑ノ消滅ヲ來タスモノトスル論者アリ是レ實ニ其當ヲ失スルモノトス刑ノ消滅スルハ適法正當ニ存在スル刑罰アル

場合ニ於テス若シ未タ刑ノ受ケシムベキモノアラズンハ焉ンゾ消滅スルノ理アラシヤ而シテ再審ニ依リ前判ヲ廢シタル時ノ如キ是レ適マ正當ナル刑ノ存スルアリテ他ノ原因ノ爲メニ消滅スルニ非ズ刑ヲ科シタル裁判破却セラレタルガ爲メニ未タ刑ノ受ケシムベキモノアラサルナリ之ヲ如何ンゾ消滅ト言フ可シヤ

第一節 刑ノ執行

刑ノ執行ハ治罪法第六編第一章第四百五十九條以下ノ法文ヲ以テ之ガ規定ヲ爲ス所少ナカラズ如斯基ハ之ヲ治罪法原理ニ讓リ唯刑法ノ規定スル事項ニシテ刑ノ執行ニ關シ且ツ前段ニ説カサリシ所ノモノヲ掲ケン

第五十條ニ曰ク刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得スト是レ實ニ至當ト言フノ外ナシ唯此事タル裁判執

行ヲ爲スベキ期日ヲ定ムルニ在レバ寧ロ治罪法中ニ屬スベキ  
法文ナリト言ハザルヲ得ズ

刑ノ執行期起

已ニ執行ハ確定ノ後ニ於テスルモノナランカ有期ノ刑ノ如キ  
ハ必ズヤ裁判確定ノ後ヨリ起算シテ滿期ニ至リタル時始メテ  
其執行ヲ終ルベキガ如シ然レモ我立法者被告人ヲ利スルヲ甚  
タ大ナリ今第五十一條ヲ按スルニ左ノ三例ニ從フモノトス

- 一、犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナルルハ前判宣告ノ日ヨリ起  
算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二、檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前  
判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 三、上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算  
入スルヲ得ズ

此故ニ立法者ノ精神ハ苟モ保釋又ハ責付中ニアラズ未決囚タ

ル時間ハ假令ヒ裁判確定前ナルモ尙ホ刑期中ニ算入スルノ思  
典ヲ與ヘタルモノナリ唯上訴ニシテ犯人ノ提起ニ係リ上訴不  
當ナリシ場合ニ於テノミ例外ヲ設ケタル所以ノ者ハ他ナシ犯  
人ヲシテ此手段ニ依リ既決囚タルノ苦ヲ免ルハコト容易ナラ  
シムルノ弊ヲ防ケルノミ予輩ハ更ニ一步ヲ進メテ問ハン裁判  
已ニ確定シタル後刑ノ執行中ニ在テ主務者ノ過失ニ依リ一旦  
既決囚ヲ放免シ若干期日ヲ經テ之ヲ發見シ更ニ入獄セシメタ  
ルトキハ放免中ノ時日ハ之ヲ如何スヘキヤ是レ實ニ不可思議  
ノ例ナリト雖モ或ル國ニ於テ實例アリシ處ナリ之ヲ以テ刑期  
限内逃走シタル者ノ例ニ依リ(第五十二條其日數ヲ除クベキニ  
非ス予ハ檢察官上訴ノ場合ト同一ノ斷定ヲ下サント欲スルモ  
ノナリ

刑期計算法

刑期起算ノ點ハ斯ノ如シ其計算ノ法ハ第四十九條ヲ以テ規定

ス則チ左ノ如シ

一、二十四時ヲ以テ一日トシ三十日ヲ以テ一月トス而シテ一年ハ曆ニ從フモノトス

二、受刑ノ初日ハ時間ノ多少ヲ論セス一日ニ算シ放免ノ當日ハ刑期中ニ算入セス故ニ刑期滿了スル翌日ニ至テ放免スベキモノトス

此ニ於テカ一日ヲ二十四時トセル規定ハ大ニ其効用ヲ減ジ唯禁錮拘留ヲ加減スルニ因リ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タザル時ハ之ヲ除棄スル第七十三條ノ法文ト一線ノ關係アルノミ

第二節 犯人ノ死亡

刑事上ノ責任ハ一身ニ止ルハ已ニ論シタル所ナリ犯人死スル時ハ其他ニ刑ヲ及ホス可ニ非ズ然リト雖モ犯人ノ死亡裁判以前ナルト以後ナルトニ從テ多少ノ差異ヲ生スルモノアラン裁

被告人裁判確定前ノ死亡ハ刑ノ消滅ニ非ズ公訴ノ消滅ナリ

財産刑ハ相續人ニ及ボスト云フ説

判未タ有ラサルニ先ツテ被告死亡センカ是レ刑ノ消滅ノミニ非ズ所謂ユル公訴ノ消滅ヲ來タスモノナリ此故ニ犯罪ノ有無ヲ問フニ至ラズ未タ消滅スベキ刑罰アラズ唯已ニ裁判ヲ經テ後犯人死去センカ始メテ刑ノ消滅アルベシ公訴ノ消滅ハ治罪法ノ定ムル所故ニ今唯刑ノ消滅ノミヲ説クベシ

處分後犯人ノ死亡ニ關シテヤ右ノ理ニ基キ刑ノ消滅ヲ來タスベキコト至當ナリト雖モ或ル種ノ刑ニ至テハ尙ホ相續人ナシテ負担セシメント欲スルモノナキニ非ズ財産刑ニ關スルモノ是ナリ此説ヲ主張スル者ノ言ニ曰ク未タ此刑ヲ科セスンバ則チ止ム然レニ已ニ之ヲ言渡シタル以上ハ犯人死スルモ何ソ消滅スベケン財産ノ刑ハ他ノ自由刑ノ如ク犯人ノ一身ト密接ノ關係ナシ裁判ト同時ニ犯人ノ財産上一個納金ノ義務ヲ生ス此義務ハ相續人モ亦免ルベキニ非ズト斯ノ如キハ罰金モ亦タ一



個ノ刑タルヲ念ル、者ノミ財産ニ關スルガ故ニ相續人ニ及ホ  
 スト論スルハ刑ヲ犯人ノ一身ニ止メサルモノナラズヤ罰金ノ  
 徵收ハ負債ノ償還ニ非ズシテ刑ノ執行タルヲ察セサルモノ  
 ナリ我刑法ハ明文ノ規定ヲ有セスト雖モ其附則第二十條ヲ以  
 テ犯人若シ完納以前ニ死去シタルハ徵收セスト定メタル如  
 キ能ク此原理ニ合セルモノトス

然ラバ則チ沒收ノ刑モ亦右ノ理論ヲ以テ斷スベキヤ唯然リト  
 答フベキノミ或ハ曰ク法禁物ノ如キ其物自体ニ於テ危害ヲ備  
 フルヲ以テ其所有者ノ誰タルヲ問ハス沒收スベキ者ナレバ犯  
 人死スルノ爲メニ消滅スベキノ非ズト果ソ斯クノ如クンバ犯  
 人ニ科スル刑ニ非ズ唯其物ヲ破毀スルニ在ルベシ斯クノ如キ  
 ハ或ハ行政處分ニ依リ若クハ相續人ノ之ヲ所有スルハ更ニ一  
 個ノ犯罪タル場合ニ於テ然ルヲ得ベシ犯人ニ科スル刑トシテ

刑ハ一身ニ止  
 リ罰ハ死者ニ  
 及バズ

死後ニ及ホスベキノ非ス

第三節 期滿免除

刑事ノ期滿免除ニニアリ犯罪己ニ成リ而シテ未タ處分ヲ受ケ  
 サルニ當テヤ一定ノ時間ヲ經過スル時ハ公訴ヲ受クルコト無  
 カルベシ之ヲ公訴ノ期滿免除ト云フ實ニ治罪法ノ規定スル所  
 タリ己ニ裁判ニ依テ刑ヲ科セラレ而シテ若干ノ時間之ヲ執行  
 シ逃ル、時ハ終ニ全ク之ヲ免カルベシ之ヲ刑ノ期滿免除ト云  
 フ此兩種ノ期滿免除各効果ヲ異ニスト雖モ其基礎トスル理由  
 ニ至テハ全ク同一ナリ

或ハ曰ク幾多ノ歲月ヲ經過スル時ハ證據湮滅シテ又其實ヲ得  
 ルヲ難シ故ニ之ヲ問ハスト或ハ曰ク一定ノ期間盡了スルハ  
 國家ハ犯罪又ハ刑ノ官渡アリシヲ念レタリト推測シ依テ此免  
 除ヲ生スト兩者共ニ不可ナリ是唯必要ナクシテ而シテ却テ公

刑ノ期滿免除  
 ト公訴ノ期滿  
 免除ノ異同

期滿免除ハ刑  
 ノ必要ナルニ  
 由ル

益ノ爲メニ不問ニ附スルヲ要スレバナリ夫レ一個ノ犯罪生シ  
 或ハ一個ノ裁判ヲ爲シ而シテ久シク之ヲ不問ニ附スルハ其  
 罪狀ハ自ラ歲月ト共ニ消散シ國家カ之ヲ懲罰スルノ必要モ殆  
 ト滅盡セン而シテ一方ニ在テヤ已ニ其紀念ヲスラ存セサルガ  
 如キ舊惡ヲ罰スルハ單ニ必要ナキノミナラズ却テ社會ノ平和  
 ヲ破ルノ弊ナキ能ハズ然レバ則チ期滿免除ノ制豈一泓ノ論者  
 ガ喋々スル如ク不當ノモノナランヤ

曰ニ此制ヲ用ユル以上ハ其期限ヲ定メサル可ラズ而シテ此期  
 限ハ刑ノ輕重ニ從テ長短アルハ固ヨリ怪ムベキニ非ス今法文  
 ヲ按スルニ主刑ニ關スル規定左ノ如シ

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一、死刑ハ三十年

二、無期徒流刑ハ二十五年

附加刑ノ期滿免除

三、有期徒流刑ハ二十年

四、重懲役重禁獄ハ十五年

五、輕懲役輕禁獄ハ十年

六、禁錮罰金ハ七年

七、拘留料料ハ一年

附加刑ニ關シテハ斯ノ如ク單純ナラズ刑ニ從テ其制ヲ異ニス

第一剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス(第六十條第  
 一項)其理如何予輩ハ之ヲ解スル能ハズ主刑已ニ必要ナクシテ  
 附加刑尙ホ必要ナルヲ解セス兩者ノ間區別スベキ所ナケレバ  
 也何ゾ之カ期滿免除ヲ許サ、ルヤ說ヲ爲ス者曰ク此數刑ハ他  
 ノ刑ト異リ犯者逃走スルモ尙ホ之ヲ執行スルヲ得即チ犯者之  
 カ執行ヲ逃ル、能ハサルモノタリ故ニ期滿免除存スル能ハズ  
 ト未タ然ラズ說者若シ第百五十四條ニ於テ附加刑ノ執行ヲ遁

ル、罪ヲ定メタルヲ觀バ其言ノ不當ナルヲ知ラン予ハ多辯ヲ費スヲ欲セズ

第二法禁物ノ沒收モ亦タ期滿免除ヲ得ズ(同上第三項)是レ蓋シ其物自体ニ危害ノ存スルガ爲メニ定メタルモノナルベシ

第三法禁物以外ノ沒收ハ主刑ノ如何ニ論ナク總テ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得(同上)是レ亦タ何ノ故ナルヤヲ解セス主刑已ニ免除セラレテ猶附加刑ノ存スル如キ主刑尙ホ存シテ附加刑先ツ免除セラル、如キ未タ其宜シキヲ得タリト言フ可ラズ

第四附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得(同上第二項)是レ至當ノ理ニシテ特ニ解説ヲ要セズ

第五禁治産ニ至テハ明文ノ規定アラズ然ラバ則チ之ヲ斷スル如何主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ベシ蓋シ是レ理ノ當ニ然ルベキ所ニシテ法文ノ之ニ反スルモノナケレバ也

中断

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ(闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス)

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

此故ニ期滿免除ノ期限ヲ起算スルハ執行ヲ逃レタル日ニ於テスルヲ原則トシ而シテ或ル事實ノ爲メニ之カ中断ヲ蒙ルコトアリトス中断ノ原因ハ就捕及ヒ令狀ニアリ一旦中断セラレタル時ハ既往ニ經過シタル時間ハ全ク無用ニ屬シ更ニ起算スルヲ要ス單ニ令狀ヲ出シタルニ止ルルハ其瞬間ヨリ起算シ得ベキモ一旦捕ニ就キタル場合ニ於テハ再ヒ逃走スル時ヲ以テ起算トス蓋シ其前ニ在テヤ刑ノ執行ヲ逃レタルモノニ非サレバ也

第四節 大赦

大赦ト稱シ特赦ト呼ビ或ハ復權ト名クルモノ各其効果ヲ同フセスト雖モ或ハ法律ノ罪トスル所ヲ措テ論セス若クハ其科スル刑罰ヲ減免シ犯人ニ與フルニ特典ヲ以テスルハ三者皆一ナリ今本章以下ニ於テ此三者ヲ説ク先ツ三者ニ通スル理論ヲ明カニセン

法律ハ一般ノ規定ナリ故ニ各犯人ノ情狀ニ依テ妄ニ左右スベカラズ又一時ノ必要ノ爲メニ之ヲ狂クルヲ得ス然レモ萬遍一律之ヲ寛和スル所ナクンバ終ニ法律ト正義ト相抵觸スルノ不幸ニ陷ルナキヲ保センヤ此立法上ノ欠典ヲ補フ所以ノ途ハ唯此特典ニ依ルアルノミ而シテ或ハ國家ノ必要ニ照ラシテ此特典ヲ一般ニ與フベキモノアラン又唯特定ノ犯人ニ限リテ之ヲ與フベキ情狀存スルアラン又時ニ刑ヲ執行シテ其幾分ヲ終ル

特典ヲ與フル理由

ニ至リ然ルヲ要スルモノアラン是ニ於テカ特典ノ種類一ニシテ足ラズ各其効果ヲ異ニスルニ至ル

大赦以下ノ特典ハ我帝國ニ於テ總テ天皇ノ特權ニ屬ス(帝國憲法第十六條)大赦ノ事特ニ法律ノ之ヲ一定スルモノナシ蓋シ其必要アルニ當テ始メテ之ヲ行ヒ常ニ之ヲ與フルモノニ非サレバ也特赦復權ニ至テハ治罪法ニ於テ之ヲ規定セリ

大赦ハ犯罪ノ種類ヲ特定シテ一般ニ公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ抛擲スルモノナリ此故ニ未タ處分以前ニ在ル者ハ公訴ノ消滅ノ爲メニ裁判ヲ受クルコトナカルベシ已ニ裁判ヲ經タル者ハ單ニ刑ノ執行ヲ免ル、ノミナラズ其罪狀ノ消滅ヲ得ベク一旦刑ノ執行ヲ受ケ終リタル者モ亦タ罪狀ノ消滅ヲ得ベシ然リト雖大赦ニ依テ消滅スル所ノモノハ刑事上ノ事ノミ故ニ民事賠償ノ訴權ハ必スシモ之カ爲メニ消滅スルモノニ非サルナリ

大赦ノ恩典ハ刑事上ニ限リ民事ニ及ハズ

大赦ハ犯罪ヲ  
消滅ス

大赦ハ犯罪ノ種類ヲ特定シテ之ヲ與フ此故ニ犯人ノ何人タル  
ヲ問ハス則チ大赦ノ効果ハ人ニ非ズシテ罪ノ上ニ在リト言フ  
ヲ得ベシ此故ニ犯人ノ主犯タルト從犯タルトヲ分ツノ要ナシ  
又且ツ犯罪其物ヲ消滅セシム故ニ再犯加重ノ原因タラサルベ  
ク附加刑ノ執行アルベキニ非ス大赦ヲ得ル者ハ當然復權ヲ得  
ベキナリ

第五節 特赦

大赦ト特赦ノ  
別

特赦ハ之ヲ大赦ニ比スルニ數多ノ點ニ於テ異ナリ特赦ハ特定  
セル犯人ノ刑ヲ全免シ又ハ減刑シテ一部ヲ免スルニアリ唯憲  
法第十六條ニ依レハ特赦以外ニ尙ホ減刑ナルモノ存スルカ如  
シ是ニ於テカ特赦トハ刑ヲ全免シ減刑トハ一部ヲ免スルモノ  
ナリト云フベキニ似タリ然レモ治罪法中唯特赦ノ語アリテ別  
ニ減刑ノ語ナシ予輩ハ信ス治罪法ニ所謂ユル特赦ハ憲法ニ掲

ケル特赦及ヒ減刑ノ兩者ヲ包有スルモノナリト  
要スルニ特定ノ犯人ニ限リテ與フル恩典ナリ故ニ同一犯罪ヲ  
行ヒタル者ト雖モ指名以外ノ者ハ之ニ浴スルヲ得ス又刑ヲ免  
スルモノタリ是ヲ以テ執行スベキ刑アルヲ要ス處刑以前ニ特  
赦アルコト能ハス刑ヲ免シテ其罪ヲ消滅セシメス此故ニ再犯  
加重ノ原因タルヲ妨ケストス加之ナラズ大赦ノ如ク當然復權  
ヲ得ベキモノニ非サルナリ

第六節 復權

特赦ニ關スル詳細ノ規定ハ治罪法中ニアリ故ニ今之ヲ説カス  
復權トハ剝奪セラレタル公權ヲ復スルノ謂ヒタリ(刑法第六十  
三條)然リト雖モ若シ其誤ナカラント欲セバ公權ヲ有スルノ資  
格ヲ回復スルモノト解セサル可ラズ此故ニ一旦公權ヲ剝奪セ  
ラレ從テ官吏タル能ハサリシ者後ニ至テ復權ヲ得ルモ之カ爲

復権ヲ與フベ  
キ場合

メニ已ニ失ヒタル官職ヲ復スベキニ非ズ唯此時ヨリシテ新タ  
ニ官吏タルヲ得ルノ資格ヲ復スルノミ立法者ガ將來ニ公權  
ヲ復スルヲ定メタルモノ實ニ茲ニ在リ

復権ヲ與フルハ主刑ノ執行ヲ終リタル日又ハ主刑ノ期滿免除  
ヲ得タル者監視ニ付セラレタル日ヨリ五ヶ年ヲ經過シタル後  
ニ於テス然レトモ是レ必スシモ得ルモノニ非ズ之ヲ與フルト  
否トハ天皇ノ特權タリ唯此期限以前ニ在テハ復権ヲ得ベカラ  
サルヲ明カニセリ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復権ヲ得特  
赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレバ復権ヲ  
得ス

赦ニ因テ復権ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス  
斯ノ如ク大赦ト特赦ノ間ニ差異アルモノハ上段已ニ之ヲ説ケ

九百四十六  
九百四十七

リ本條ニ於テ大赦特赦共ニ免罪ヲ得タル者ト言ヘルハ其當ヲ  
失スルモノニ非サルカ大赦ハ其罪ヲ免スルモノタルヲ疑ナキ  
モ特赦ハ唯其刑ヲ免スルモノタルヲ如何ンセンヤ

特赦ハ當然復権ヲ得セシメスト雖モ特ニ赦狀中之ヲ記載スル  
時ハ固ヨリ然ルヲ得ベシ而シテ若シ赦狀之ヲ記サス從テ復権  
ヲ得サリシモノ其後ニ至テ更ニ復権ヲ得ベキヤ予ハ然リト答  
ヘン然ラバ則チ何年ニシテ得ベキヤ赦ヲ受ケタル者ハ主刑終  
リタル者ニ准スベキカ予ハ更ニ一步ヲ進メ主刑ヲ免セラレタ  
ル者ハ直チニ復権ヲ與フルモ更ニ不可ナシト斷セン

第六十五條ハ曰ク復権ハ赦裁ニ非サレバ之ヲ得ベカラズト帝  
國憲法第十六條ノ明文ト共ニ天皇ノ特權タルヲ明カニセルモ  
ノナリ之ヲ與フル手續ニ至テハ治罪法第四百七十條以下ニ之  
ヲ定ム今茲ニ贅セスシテ可ナリ

### 刑法原理上卷 終

九百四十八

九百四十九

### 刑法原理下卷

犯罪ノ類別法

一般犯罪ノ要素及ヒ一般ノ刑罰ニ關スル原理ハ已ニ上卷ニ於テ之ヲ説ケリ今ヨリ更ニ進テ各犯罪ニ特殊ナル理論ヲ要説セシ然ルニ先ツ一言スベキモノアリ犯罪ノ類別方法はナリ我刑法ヲ案スルニ先ツ重罪輕罪ヲ通シテ兩種ニ分チ公益ニ關スル重罪輕罪并ヒニ身體財産ニ對スル重罪輕罪トシ而シテ違警罪ハ別ニ一編ヲ設ケテ更ニ其分類ヲ爲サズ違警罪ハ重罪輕罪ト甚々相異ル所アルが故ニ之ヲ殊別ニスルハ敢テ難スベキニ非ズ重罪輕罪ヲ通シテ分類ヲ爲ス亦然リ蓋シ兩者ノ異ナル所唯輕重ノ一點ニ在レバ也公益ト身體財産トヲ標準トシテ兩種ニ分テルニ至テハ未ダ多少ノ批難ヲ免レサルベシ大体ノ分類已ニ然リ況ンヤ細目ノ排列ニ於テチヤ然リト雖モ若シ徒ラニ理

論ニ基テ法典ノ順序ヲ變改セバ却テ不便ノ感アラシクコトヲ恐  
ル故ニカメテ我刑法ノ順序ニ從ハント欲ス

### 第一編 公益ニ關スル重罪輕罪

#### 第一章 皇室ニ對スル罪

皇室ニ對スル  
罪ノ類別

皇室ニ對スル罪分テ二トス曰ク危害ノ罪曰ク不敬ノ罪是ナリ  
而シテ天皇三后皇太子ニ對スルト其他ノ皇族ニ對スルトニ從  
テ輕重ノ別アリ說者曰ク皇室ニ對スルノ罪宜シク分テ二トス  
ベシ國事犯ニ屬スルモノト常事犯ニ屬スルモノト是ナリ在位  
ノ天皇ニ對スルハ國事犯ニシテ其他讓位ノ天皇三后皇太子以  
下皇族ニ對スルモノハ常事犯タリト未タ其當ヲ得タルモノニ  
非ス若シ被害者ノ如何ニ依テ國事犯ト否トヲ分タバ豈天皇ニ  
對スル犯罪ニ止ランヤ天皇ハ國家ノ元首ニシテ固ヨリ他ニ比  
スヘキ者ナシト雖モ天皇ヲ害スル是レ直チニ國家ノ主權ヲ害

皇室ニ對スル  
罪ノ類別

スルモノトシ犯罪其物ノ國事ニ關スルト否トヲ問ハサルハ事  
理ヲ誤ルノ說タルヲ免レス天皇果シテ國家ノ主權者タルヤ否  
ヤ尙ホ俄ニ斷ス可キニ非ス已ニ主權者ナリトスルモ未タ主權  
其物ニ非ズ唯之ヲ握有セル人ナルノミ其人ヲ害シテ其權ヲ害  
スル無クンバ焉ンゾ目スルニ國事犯ヲ以テスベケンヤ

然レモ敢テ君主ト一個人ト同一ナリト謂フニ非ス凡ソ立君政  
跡ヲ行フ國家ニ在テヤ一國ニ君臨スル者ノ一身ハ之ニ臣事ス  
ル衆庶ト同一視スベキニ非ズ其君權ヲ保維シ威嚴ヲ完フセシ  
ムルニ非ズンバ終ニ君主ノ名アリテ而シテ君主ノ實ナキニ至  
ラン是ヲ以テ君主ニ對スル犯罪ハ常人ニ對スルニ比シ嚴刑以  
テ之ヲ處シ加之ナラズ常人ニ對スル時未タ犯罪トシテ罰セザ  
ルモノ尙ホ之ヲ罰スルコトアリ然ラバ則在位ノ君主ニ非サル  
三后皇太子以下ニ對スル犯罪ヲ以テ常人ニ對スル犯罪ト異ニ



セル所以如何蓋シ君權ヲ保維シ其威嚴ヲ完フスルノ精神ヲ十分ニ貫徹セシメンカ爲メニ在位ノ君主ヨリ敷延シテ皇室一般ニ及ホシタルモノナリ然リト雖トモ其間ニ尙軒輊アル所以ノモノハ他ナシ皇后ハ天皇ト同体ニシテ而シテ上皇若クハ皇太子ハ共ニ既往若クハ將來ノ天皇タルモ其他ノ皇族ニ至テハ唯皇室ノ族員タルニ止ルヲ以テナリ

天皇トハ在位ノ天皇及ビ讓位ノ天皇即チ上皇太上皇等總テ之ヲ包有ス崩御ナキ間皆然リ唯其財産ニ關スル犯罪ヲ包有セス

一ニ生命身体自由名譽ニ關スル犯罪ニ止ル苟モ此犯罪アランカ其手段ノ如何ヲ問フノ要ナシ不敬罪ノ如キハ皇室ノ威嚴ヲ損スベキ犯罪ニシテ常人ニ在テヤ誹毀侮辱ノ罪ニ對比スベキモ皇室ニ對スル不敬罪ニ至テハ苟モ不敬ト認ムベキ所爲アレバ則チ成ル或ハ文書圖書ヲ以テシ或ハ言語ヲ以テシ又或ハ舉

動ヲ以テス皆此中ニ在リ

危害罪ニ至リテハ未タ之ヲ加フルニ至ラズ止ダ加ヘントシタル者モ亦既ニ加ヘタルト等シク一個ノ犯罪トス

皇陵ニ對スル不敬ノ所爲モ亦天皇三后皇太子ニ對ズル不敬罪ト同一ノ犯罪トス其理如何蓋シ是レ間接ニ在位ノ天皇ニ對シテ不敬ヲ爲スモノト認ムルノ爲ナリ是レ敢テ皇陵ニ對スルモノハ、ミニ非ズ若シ皇族ニ對スル不敬罪ト雖モ同時ニ天皇ノ尊榮ヲ傷ツクベキ所爲アランカ天皇ニ對スル不敬罪ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ベシ

天皇三后皇太子ニ對スル危害罪ハ已ニ危害ヲ加フルモ單ニ加ヘントシタルモ共ニ死刑ニ處シ(第百十六條)其皇族ニ對スルモノハ危害ヲ加ヘタル時死刑ニ處シ唯之ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス(第百十八條)

不敬罪ハ天皇三后皇太子ニ對スル者三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ(第百十七條皇族ニ對スル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第百十九條)  
若シ以上ノ罪ヲ犯シ而シテ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス(第百二十條)

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第百二十一條ニ曰ク政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的トシ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ之ヲ處斷ス(下略)ト

此故ニ内亂ニ關スル國事犯罪ハ單ニ有形的ノ所爲ヲ以テ足レリトセス内亂ノ所爲ニシテ朝憲ヲ紊亂スルノ目的ニ出テタル

國事犯罪タル要件

ヲ要ス犯罪ノ目的ハ法律上犯罪ヲ區別スルノ標準タラズトハ時ニ學者ノ言フ所ト雖モ尋常一般ノ犯罪ニシテ立法者カ其目的ノ如何ヲ問ハサルモノニ至テハ然ルヲ得ベキモ己ニ明文ノ之ヲ掲グルモノアル以上ハ此理論ヲ採用スル能ハズ且ツ夫レ内亂ヲ起コシ兵ヲ舉グル者必スヤ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊スル等朝憲ヲ紊亂スルノ目的ニ出テシ法文ノ之ヲ明記スルナキモ亦必スヤ斯ノ如クナルベシ況ンヤ特ニ之ヲ掲ケタルヲヤ  
政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊スルカ如キハ唯其例ノミ苟モ朝憲ヲ紊亂スベキ事ヲ目的トスル以上ハ其何タルヲ區別スルノ要アラズ己ニ朝憲紊亂ヲ以テ目的トスル以上ハ故意アルヲ要スルヲ論テ待タス故意之ヲ欲スルニ非ズンバ未タ以テ目的ト稱スルヲ得サレバ也然リト雖モ故意トハ惡意ニ非ズ現政府ヲ顛覆

内亂ハ有形ノ暴舉

セント欲スル者ハ或ハ真正ナル國家ノ公益民人ノ福利ヲ計テ  
 一身ヲ犠牲ニ供スルモノタルモ未タ知ルベカラズ其意如何ニ  
 善ナルモ更ニ犯罪ノ成立ヲ妨グルモノニ非サルナリ  
 内亂トハ如何ナル所爲ヲ云フヤ有形ノ暴舉ヲ指スノ語タリ第  
 百二十一條ノ罪トスル所ハ内亂ヲ起シタル上ニ於テ成立スト  
 雖モ第百二十二條以下ノ法文ヲ按スルハ未タ内亂ヲ起スニ  
 至ラサル者モ亦タ同一ノ刑ニ處セリ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ  
 兵器其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者其一ナリ(第百二十二條)更  
 ニ第百二十三條ニ至レバ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀  
 殺シタル者ヲ論スルニ内亂ノ罪ヲ以テセルヲ見ル而シテ被害  
 者ノ何人タルヲ限ラズ故ニ苟モ政體變亂ノ目的ニ出テンカ殺  
 サレタル者ノ一身ハ政府ト關係ノ疎密ヲ問ハス此殺人罪ヲ以  
 テ内亂ニ關スル罪ナリト斷セサル可ラサルガ如シ知ラズ其當

九百五十六

九百五十七

國事犯ハ未遂ヲ罰スル理由

ヲ失スル所ナキ乎  
 以上ノ罪ハ未タ既遂ニ至ラザル時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス(第百  
 二十四條)  
 其理如何凡ソ犯罪ニシテ單ニ既遂ヲ罰スルモノアリ或ハ未遂  
 ナ併セテ罰スルモノアリ多クハ其罪ノ輕重危害ノ大小ニ依テ  
 之カ別ヲ爲ス重罪ノ未遂ハ之ヲ罰シ輕罪ノ未遂ハ罰セサルヲ  
 以テ原則トスルガ如キ是ナリ然ルニ國事犯ニ至テハ他ノ犯罪  
 ト甚タ相異ナル所ノモノアリ蓋シ國事ノ罪朝憲紊亂ニ在リト  
 セハ甚タ漠トシテ際涯ナキカ如シト雖モ之ヲ要スルニ現存ノ  
 政體ヲ變亂シ既成ノ秩序ヲ破壞シ或ハ邦土ヲ僭竊シ現政府ノ  
 羈絆ヲ脱セントスルガ如キ實ニ其最タルモノナリ是等ノ犯罪  
 タル未タ成就セサルニ當テヤ實ニ一個ノ犯罪タルベシト雖モ  
 一朝其事成ルニ至ランカ誰カ之ヲ罰スルヲ得ベキヤ又何ヲ以

豫備モ亦一ノ  
既遂犯

テ之ヲ犯罪ナリト云フヲ得ベキヤ此故ニ國事犯罪ハ未遂ノ時  
ニ於テ本刑ヲ科スルヲ以テ本則トスルコト普通ノ原理ナリ  
第二百二十二條ノ規定モ亦タ此理ヲ以テ解スベキヤ予ハ然リト  
答フルコト能ハズ如何トナレバ内亂ヲ起シ軍備ノ物品ヲ劫掠  
シ人ヲ謀殺スル所爲ノ如キハ既遂ノ後ト雖モ尙ホ罰シ得ベキ  
ヲ以テナリ然ラバ則チ其未遂ニ在テ本刑ヲ科スルノ理何ノ所  
ニ在ルヤ曰ク危害ノ至大ナルガ爲メノミ而シテ第二百二十五條  
ヲ以テ内亂ノ豫備及ヒ陰謀ヲ罰スルモ亦此理ニ基クモノトス  
兵隊ヲ招募シ若シクハ兵器金穀ヲ準備スル等總テ内亂ノ豫備  
ノ所爲ヲ罰スルハ普通犯罪ノ豫備ノ所爲ヲ罰セサル原理ニ對  
シテ一個ノ例外ヲ設クルモノニシテ各國皆然リトス啻ニ豫備  
ヲ罰スルノミナラズ陰謀ニ屬スルモノ亦然リ  
然リト雖モ罰スル處ノ所爲ハ内亂ノ豫備ナリ故ニ縱令ヒ兵隊

内亂豫備罪ノ  
要件

ヲ招募シ兵器金穀ヲ準備スルモ若シ内亂ノ豫備ニアラザリセ  
バ未ダ本條ヲ以テ之ヲ論スベキニ非ズ且ツ夫レ陰謀ヲ罰スル  
ハ敢テ内部ノ意思決心ヲ罰スルモノトスルナキヲ要ス其企ツ  
ル所全ク内亂ヲ起スニ在ルモ一人ノ胸裡ニ其念ヲ蓄フルニ止  
ラバ未ダ刑法ノ制裁スヘキ所ニアラズ二人以上相謀ルニ至リ  
即チ一人ノ胸裡ニ伏セスシテ言語トナリ文書トナリ其他ノ舉  
動トナリ外人ニ通シテ共同ノ決意アルニ至テ始メテ第二百二十  
五條ノ罰スル所タリ

此故ニ陰謀ナル者アルニハ必ス二人以上ノ犯人アルヲ要スベ  
シ一般内亂ノ罪ニ至テハ未ダ必スシモ然ラサルベシト雖モ實  
際ノ事例ニ徴セバ一人以テ内亂ヲ起ス者ハ殆ト之レ有ラサラ  
ン即チ立法者ハ其輕重ヲ按シテ共犯者ノ處分法ヲ明定セリ  
内亂罪ニ關スル從犯ハ上卷ニ論シタル從犯ノ原理ニ依テ之ヲ

處スベキコト言フヲ待タス然ルニ第二百二十七條ニ曰内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スト或ハ之ヲ以テ從犯ナリトシ從犯ノ理論ヲ悉ク適用セント欲スルモノアリ法理ヲ誤ル甚シト云フベシ若シ本條ノ規定ナクンバ則チ單ニ從犯タラン然レモ此明文アル以上ハ是レ一個ノ主犯タリ其犯罪ノ性質上内亂罪ト密接ノ關係アルベシト雖モ全ク獨立ノ犯罪タリ是ヲ以テ其刑罰モ亦タ内亂罪ノ刑ヲ標準トシ減等セズ特ニ之ヲ確定シ又且ツ苟モ犯人ニ集會所ヲ給與シタル以上ハ已ニ既遂犯ニシテ犯罪ヲ容易ナラシメタルヤ否ヤ内亂前ニアルヤ否ヤヲ問フノ要ナシ苟モ其事ニ關スル集會所ヲ給與セシヲ以テ足ル

内亂騷擾ノ時ニ當テヤ犯人ニシテ普通ノ重罪輕罪ヲ犯シ數罪俱發スルコト普通ナルベシ犯罪ノ性質ハ敢テ之ヲ犯ス者ノ如

國事犯ト同時ニ常事犯ヲ爲ストキ

何ト之ヲ行フ機會ノ如何ニ依テ變スベキニ非ス是レ第二百二十八條ヲ設ケ内亂ニ乘シテ人ノ身体財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重輕罪ヲ犯シタルモノハ通常ノ刑ニ照ラシ重キニ從テ處斷スト定メタル所以ナリ然ラバ則チ豈焉ソノ身体財産ニ對スル罪ノミニ止ランヤ宜シク内亂ニ關セサル通常ノ犯罪ハ皆斯ノ如クナルベキナリ是ニ於テカ予輩ハ言ハントス第二百二十八條ハ之ヲ設ケサルモ欠クル所ナク之ヲ存スルモ多キヲ加ヘズト

内亂罪ノ刑罰

内亂罪ニ關スル刑罰ハ一ニシテ足ラズ首魁及ヒ教唆者ハ其ニ死刑ニ處シ樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ其情ノ輕重ニ從ヒ無期流刑若クハ有期流刑ニ處ス縱令ヒ樞要ニ非サルモ尙ホ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ其所犯情狀ニ依リ重禁獄又ハ輕禁獄ニ處ス教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル

者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス而シテ其犯罪未遂ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科スルハ已ニ前段ニ述ル所ノ如シ豫備ノ所爲ハ一等ヲ減シ陰謀ニ止ル者ハ二等ヲ減ス然レトモ内亂ノ罪未タ實行ニ至ラズシテ官ニ自首スル者ハ一般自首減輕ノ例ニ依ラズ特ニ本刑ヲ全免シ唯六月以上三年以下ノ監視ニ付ス蓋シ一ハ以テ自首ヲ誘ヒ内亂ヲ未發ニ防止スルノ精神ヲ達スルニ在リ(第百二十一條以下第百二十六條ニ至ル)自首者ノ外以上ニ列舉セル犯罪ニ依テ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スルモノトス(第百三十五條)

第二節 外患ニ關スル罪

外患罪

本節ニ犯罪トスル所爲ハ概シテ交戰中ニ在リテ成立ス予ハ概シテト言フモ總テト言ハス第百三十三條ノ罪ハ交戰ニ非スシテ生スルヲ得ベケレバ也

交戰中

交戰中トハ何レノ時ヲ云フヤ現ニ兵革ヲ動カス時ヲ指スヤ又唯其時ノミヲ指スヤ開戰ノ告示以後ヲ言フト答フベシ蓋シ外患ニ關スル罪ハ總テ我國家ニ危害ヲ及ホスノ所爲ナリ即チ本國ト外國ト敵邦タルニ當リ我ニ叛シテ彼ニ從フ、所爲ナリ其敵邦タルト否トハ我國家ヲ代表シテ之ヲ公認シタル後ニ於テ定マルベク而シテ此公認ハ即チ宣戰ノ權ヲ有スル元首ノ告示ニ依テ定ル故ニ其以前ニ在テヤ平和將ニ破レントシ彼我ノ兵士ノ間ニ干戈ヲ動カシ多少ノ爭鬪ヲ爲スコトアルモ未タ純然タル交戰中ト云フヲ得ス已ニ宣戰ノ以後ニ在ランカ現ニ接戰セサルモ亦交戰中タルヲ妨ケサルナリ第百二十九條外國ニ與シテ本國ニ抗敵スル所爲ノ如キ交戰中ト明記セサルモ尙ホ交戰中タルベキハ理ニ於テ當ニ然ルベキ所若シ然ラズトセバ未タ抗敵ト稱スベカラサレバ也

本國ニ背叛

同盟國ニ抗敵

本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス(第二百二十九條)若シ自ラ公然ノ抗敵ヲ爲サスト雖モ敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ又ハ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス(第三百三十條)兩者相異ル處一ハ本國ニ抗シテ敵ニ從ヒ一ハ敵ヲ助ケテ間接ニ本國ニ抗スルニアリ若シ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ或ハ兵屯隊集ノ要地道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處シ敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者ハ之ヲ軍機漏泄罪ニ准ス(第三百三十一條)

右ノ諸犯罪ニ關シテハ本國ト同盟國トヲ以テ槩子同一位ニ置ケリ交戦ノ際ニ當リ本國ト其同盟國ハ始終其利害ヲ共ニシ運命ヲ同フスルモノニシテ殆ト一体ヲ成スモノタリ故ニ同盟國ニ抗敵スルハ本國ニ抗敵スルニ異ナルナシ是レ等シク死刑ニ

處スル所以ナリ然ラバ則チ以上ニ掲ケタル犯罪ハ本國ニ對スルト同盟國ニ對スルト全ク同一ナルベキガ如シ而シテ特ニ然ラサルモノニアルハ何ソヤ敵兵ヲ誘ヒ管内ニ入ラシムルハ都府城塞其他ヲ敵國ニ交附スルト同罪タリ然ルニ後者ニ在テハ其都府城塞ノ本國ニ屬スルト同盟國ニ屬スルト更ニ區別スル所ナクシテ而シテ獨リ誘導罪ハ本國內ニ入ラシメタル者ニ止リ同盟國ノ管内ニ入ラシメタル者ハ犯罪タラズ何カ爲ニ此區別アルヤ敵國ノ間諜ヲ誘導シテ管内ニ入ラシムル者モ軍機漏泄ト同罪トシテ而テ軍機ハ本國ノ軍機ト同盟國ノ軍機トヲ分タサルニ誘導罪ハ獨リ本國管内ニ入ラシメタル者ニ止メタルモノ何等ノ理由ニ依ルカ殆ト之ヲ解スルニ苦ム

第三百三十二條ハ軍備ノ缺乏ヲ致シタル罪ヲ罰セリ其成立ノ條件前數者ニ比スレバ甚タ複雑ナリ交戦ノ際ニ於テノミ存在ス

ベキ罪タルハ論ヲ待タスト雖モ其他尙ホ數個ノ條件ヲ要ス  
 第一陸海軍ノ委任ヲ受ケテ物品ノ供給又ハ工作ヲ爲ス者ニ非  
 サレバ此犯罪ノ主体タルコト能ハズ第二此資格アル者ニシテ  
 命令ニ違背シタル事ヲ要ス否單ニ命令ニ違背スルモ未タ可ナ  
 ラズ第三其命令ニ違背セルハ敵國ニ通謀シ若クハ其賄賂ヲ收  
 受シタルガ爲メタルヲ要ス立法者ハ更ニ之ヲ以テ足レリトセ  
 ス尙ホ第四ノ條件トシテ右ノ命令違背ノ爲メニ軍備ノ缺乏ヲ  
 致シタルヲ必要トセリ  
 以上ニ掲クル犯人所爲原因結果ノ要件備ハリテ始メテ第三百  
 十二條ノ犯罪アリ乃チ科スルニ有期流刑ヲ以テス唯結果ノ一  
 條件ニ至テハ全ク備ルニ至ラサルモ尙ホ未遂犯トシテ罰セラ  
 ル、トアルベシト雖モ他ノ條件ニシテ欠クル所アランカ本條  
 ノ犯罪タル能ハズ

私ニ外國ニ敵  
 對  
 局外中立ノ反  
 法

本節ノ末段ニ掲グル外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クノ罪及ヒ局外  
 中立ノ布告ニ背クノ罪ノ如キハ前數者ノ皆本國ニ抗敵シ又ハ  
 敵國ニ助勢スルニアルト少シク異ナル所アリ如何トナレバ敵  
 國ナルモノ存セズ本國ニ抗スルノ所爲ニ非サレバ也然ルモ尙  
 ホ外患ニ關スル罪トセル所以ノ者ハ何ソヤ國際上ノ關係ヨリ  
 シテ間接ニ本國ニ危害ヲ加フルモノタルベキカ故ナラン若シ  
 學理ヨリシテ之ヲ論セバ他ノ諸犯罪ト同節中ニ掲クベカラサ  
 ルガ如シ  
 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處シ豫備ニ止  
 ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス(第三百三十三條)私ニ戰端ヲ開クトハ  
 國家ニ非サル一私人ノ戰鬪タルヲ言フ然リト雖モ我獨リ一個  
 人ノ多數ノミナラズ彼レ敵手タル者モ亦タ外國ノ國家ニ非ズ  
 シテ一個人又ハ其多數ナランカ未タ本條ノ犯罪タルヲ得ズ



外國交戦ノ際ニ於テ本國ハ局外中立ヲ布告スルニ當リ其布告  
 スル所ニ違背スル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓  
 以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス此犯罪ヲ構成スルハ如何ナル所  
 爲ナリヤニ至テハ隨時局外中立布告ニ依テ命スル所ヲ觀ルニ  
 非サレバ言フヲ得ズ之ニ違背スルモノ始メテ犯罪タレバ也(第  
 百三十四條)

本節ニ定メタル罪ヲ犯シ而シテ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ  
 六月以上二年以下ノ監視ニ付スルコト尙ホ前節ノ犯罪ニ於ケ  
 ルト異ナルコトナシ(第百三十五條)

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒聚衆何カ爲ニ社會ノ靜謐ヲ害スルカ徒ニ相集ルガ故ニ非  
 ズ相集テ而シテ不正ヲ行ヒ暴動ヲ爲スカ爲メニシテ稱シテ兇

兇徒聚衆ノ要件

徒ト云フ亦タ是ガ爲メナリ然ラバ則チ元來兇徒ナルモノナク  
 暴動ヲ謀ルガ爲メニ兇徒タリ之ニ由テ之ヲ觀ルルハ本節ノ犯  
 罪ニシテ最モ完全ナルモノハ第百三十七條ニ掲クル兇徒嘯集  
 暴動ヲ爲スノ罪ナリトス若シ單ニ其性質ニ就テ論スルルハ第  
 百三十六條ニ記セル兇徒嘯集暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受ケテ  
 尙ホ解散セサルノ所爲ハ前者ノ豫備ニ屬ス然リト雖モ我法律  
 ハ之ヲ以テ特別ナル一罪トセリ蓋シ未タ暴動ヲ實行スルニ至  
 ラスト雖モ已ニ之ヲ謀リ官吏ノ命アルモ解散セサルハ靜謐ヲ  
 害シ公安ヲ破ル鮮少ナラサレハ也  
 此犯罪ニ要スル所ノモノハ第一ニ多人數ノ集合ナリ一人暴行  
 ヲ爲スモ單獨ノ行爲ハ未タ此犯罪ヲラズ縱令ヒ多數ノ人暴行  
 ヲ爲スモ相互戮力協心ノ運動アラズシテ個々獨立セルモノ唯  
 同時同處ニ生ゼルガ如キ未タ兇徒嘯集罪ヲラズ故ニ本來共同

力ニ依テ暴行ヲ爲スヲ要ス且ツ其暴行タル官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ村市ヲ騷擾シ又ハ一私人一家族ニ對スルトヲ問ハス苟モ公共ノ靜謐ヲ害スルニ足ル以上ハ則チ此犯罪ヲ成スニ足ルベシ故ニ必スシモ其暴行ノ公ケノ性質アルヲ要セス然リト雖モ暴行ハ必ス故意ニ出ルヲ要シ又暴動ノ故意アルヲ以テ足ル何等ノ目的ヲ以テ此暴動ヲ爲シ又ハ謀レルヤ敢テ問フ所ニ非サルナリ

多衆トハ幾人ヲ指スヤ到底人員ヲ以テ之ヲ限ルベキニ非ス二人ハ未タ多衆ニ非サルモ千人ハ何人モ多衆タルヲ認メン其相分ル、何ノ處ニ在ルカ是レ其場合ニ臨テ判官タルモノハ認定スベキ所ナリ

兇徒聚集ノ罪之ヲ内亂ノ罪ニ比セハ甚ダ相類スルモノアラン多數相集リ共同ノ暴動ヲ爲シ靜謐ヲ害スルノ所爲タルト是ナ

内亂ト暴動ノ別

九百七十一

リ唯其判然相異ル所ヲ舉グレハ内亂ノ罪ハ朝憲紊亂ヲ以テ目的トシ兇徒聚集ハ其目的ノ如何ヲ論セス是故ニ兇徒聚集ノ目的若シ朝憲紊亂ニ在ランカ則チ内亂罪ヲ構成スルコトアルベキハ明カナリ

暴動罪ノ首魁及教唆者ハ重懲役ニ處シ助勢者ハ其情狀ニ依リ輕懲役ニ處シ又ハ一等ヲ減ス單ニ附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十七條) 嘯集罪ノ首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ附和隨行者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十六條)

若シ暴動ノ際兇徒ニシテ人ヲ殺ロシ又ハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ下手者放火者ヲ死刑ニ處ス(第三百三十八條) 第一項皆故テアリテ而シテ爲セルモノニ止ル或ハ過失殺ノ如キ或ハ失火ノ如キハ本條ノ管スル所ニ非ス縱令ヒ故意ニ出ル殺人罪

刑罰

ナリト雖モ若シ暴動其物ト關係ナキ殺人罪ハ是レ亦タ本條ノ範圍外タリ要スルニ本條ノ罰スル所ハ暴動ニ依テ爲シタル殺人放火ナルヲナ記臆スベシ

其所爲已ニ暴動中ニ包有スベキモノナリ故ニ暴動ノ首魁又ハ教唆者ニシテ情ヲ知り乍ラ制止セサル時ハ下手者放火者自身ト同一ノ責ニ任セサル可ラズ(同上第二項)

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

本節ノ罪妨害ノ名ヲ付シタルモ正條ニ付テ按スルルハ妨害罪ト侮辱罪トノ兩者ヲ總括スルヲ觀シ

妨害罪ト稱スルハ官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒スルヲ云フ(第三百三十九條)又暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可ラサル事件ヲ行ハシメタル者(同條第二項)モ亦同シク妨害罪

職務妨害罪ノ要件  
法律命令ノ執行

ヲ以テ論ス

此故ニ此犯罪ニ必要ナルハ第一ニ法律規則又ハ命令ヲ執行スルノ職務ヲ有スル官吏力之ヲ執行ヲ爲スコト是ナリ此故ニ若シ其職務ナクシテ執行センカ執行スルモノ官吏ナルモ之ニ抗拒スルハ未タ妨害罪タル能ハズ然レ之ト同時ニ予ハ斷シテ曰ハン苟モ執行ノ任アル官吏タランカ其執行ハ適法ナラサルモ其命令ハ法ニ合セサル所アルモ尙ホ之ニ抗拒シタル者ハ妨害罪タルヲ妨ケズ

或ハ曰ク執行又ハ命令ノ正否即チ法律上ノ問題ニ屬スル場合ナランカ抗拒スルモ罪ナラス事實上ノ問題タランカ抗拒スル時ハ總テ犯罪タリト是レ事理ヲ辨セサルノ言ナリ執行又ハ命令ニシテ法律規則ニ反セハ之カ執行ヲ拒ムモ可ナリトセハ一個人ヲシテ各官吏ニ對シ監督ヲ行フノ權アラシムルニ同シ官

吏ニシテ其職ヲ行フ不法ナランカ言論ニ文章ニ之ヲ責メテ輿論ニ訴フルガ如キ或ハ當路者ニ建白シテ其注意ヲ促スカ如キ甚タ可ナリ然レモ直チニ其官吏ニ向テ抗抵スルガ如キ是レ國民服從ノ義務ヲ忘ル、モノナリ官吏ノ行爲ヲ監督スル者別ニ其職アリ其法ニ合スルト否トハ人民自ラ直チニ判スベキニ非ス國民最大ノ義務ハ服從ニ在リ其命令ノ正否得失ヲ争フテ之ヲ破ルヘキニ非ズ故ニ曰ク執行ノ任アリテ而シテ執行スル以上ハ其他ヲ問フノ要ナシト

暴行脅迫ヲ以テ妨害

第二ニ要スル所ノモノハ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗抵スルノ所爲是ナリ抗抵トハ服從セサルノ謂ヒカ服從セサルノミナラス尙進テ之ニ抗抵スルノ謂ナリ故ニ司法警察官ノ令狀ヲ示シテ引致セントスルニ當リ遁逃スルモ唯之ニ服從セサルノミナルヲ以テ抗抵ノ罪タルヲナシ又命令ヲ拒ムモ單ニ口頭ヲ以テ

九百七十四  
九百七十五

之ヲ拒ムノミニ止ラバ尙ホ犯罪タラズ或ハ暴行或ハ脅迫ヲ用キテ之ニ抗スルモノ始メテ此犯罪ヲ組成ス已ニ以上ノ條件ヲ備ル以上ハ自己ニ對シテ執行スル官吏ニ抗スルト他人ニ對シテ然ル者ニ抗スルト其間ニ區別ナシ蓋シ法律命令ヲ執行スル官吏ニ抗抵スルハ一ナレバナリ

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可ラザル事件ヲ行ハシムルハ之ヲ以テ官吏ニ抗抵スルモノトハ稱スベカラサルモ職務ヲ行フヲ妨害スル者ト言フ或ハ可ナラン要スルニ我立法者ハ抗抵罪ト同一視セリ

右ノ暴行脅迫ヲ以テ抗抵ス可ラサル強制ニ非サルモノヲ云フトスル論者アリ甚タ當ヲ得ズ官吏ニシテ抗シ得ベキモ抗セズ自ラ甘ンシテ其爲ス可ラサルヲ爲サバ之ヲ目シテ暴行脅迫ヲ以テ行ハシメタリト言フコト能ハス又曰ク官吏ノ行ヒタル

爲ス可ラザル  
コト爲サレム

事件他ノ犯罪タラサル時ニ限ルト是亦狹隘ニ失ス犯罪タル行  
爲ヲ爲シタル時ハ唯重キニ從テ之ヲ論スレバ可ナリ  
然レトモ官吏ノ爲ス可ラサル所爲タルヲ要ス若シ官吏ノ當ニ  
爲スベキ所或ハ爲スト爲サマルト其一意ニ屬スベキ事件ヲ強  
テ行ハシムルモ未タ本條ノ刑ヲ以テ罰ス可ラズ是レ敢テ此ノ  
如キ事件ハ強制ヲ以テ恣ニ行ハシムルヲ得ト云フニ非サレモ  
法律ノ明文以外ニ屬スルガ爲メニ犯罪トスルコト能ハス  
前記ノ罪ヲ犯ス者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以  
上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第百三十九條第一項)若シ因テ官  
吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キ  
ニ從テ處斷スベシ(第百四十條)  
本節ニ規定スル第二ノ犯罪ハ官吏侮辱罪タリ官吏ノ職務ニ對  
シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ又其目前ニ非スト雖モ

罰刑

九百七十六  
九百七十七

侮辱罪

刊行ノ文書圖書若クハ公然ノ演説ヲ以テ侮辱スルヲ言フ(第百  
四十一條第一項及ヒ第二項)  
侮辱ノ犯罪タルハ名譽ヲ傷ケ威嚴ヲ害スルガ爲ナリ然リト雖  
モ官吏侮辱トハ敢テ官吏タル一個人ヲ侮辱スルノ謂ニ非ス故  
ニ其人ノ私行ニシテ官職ニ關係ナキ事項ニ於テ誹毀又ハ罵詈  
ヲ爲スモ此犯罪ヲ成サズ必スヤ官吏ノ官吏タル資格ニ對スル  
侮辱タルヲ要ス是レ官吏ノ職務ニ對シ云々ト記セル所以ナリ  
是ヲ以テ縱令ヒ其官吏ナルモ之ニ對スル侮辱ノ所爲ハ單ニ通  
常人ニ對スルト同一ノ犯罪タルニ止ルコトアルベシ而シテ或  
ル學者ハ曰ク其人ノ官吏タルコトヲ知り其職務ヲ執行スル時  
ニ於テ其人ノ名譽ヲ毀損センカ常人ノ資格ト官吏ノ資格ト一  
身ニ併合スルガ故ニ此所爲ハ官吏侮辱ヲ以テ論スベシト然レ  
ドモ其侮辱タルヤ多クハ官吏タル一個人ニ對スルノミナラズ

侮辱ノ手段

同時ニ其職務ニ對スルモノタルヲ十中八九ナルベキガ故ニ斯ノ如クナルヘシ苟モ單ニ其一個人ニ對スルニ止ラバ縱令ヒ官職ヲ行フ時ニ於テスルモ焉シテ官吏侮辱ト稱スベケンヤ刑法ニハ職務執行ノ際ト言ハズノ職務ニ對シト明記セルニ非ズヤ」侮辱ノ手段ニ至テハ目前ニ於テスルト否トニ依テ同一ナラズ若シ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テセバ自然タルト否トヲ問ハズト雖モ形容若クハ言語ヲ以テスルハ唯タ目前ニ於テスルモノ、ミ犯罪ヲ成ヌモノトス此諸手段ハ果シテ侮辱ノ實アルヤ否ヤハ事實ノ問題ニシテ名譽ヲ毀損スルノ一事アレバ則足ル然リト雖モ名譽ヲ毀損スベキ言語文書等ヲ公ケニシ即チ第三者ニ知ラシメ又ハ第三者ノ知り得ベキ場所ニ於テ之ヲ公表スルヲ以テ侮辱罪ノ本質トナスニ至テハ其一ヲ知テ其ニヲ知ラサルノ論ナリ之ヲ公ケニスルモ單ニ形容又ハ公然ノ

刑罰

演說ナラサル言語若クハ刊行セサル文書圖畫ヲ以テ官吏ノ目前ナラサル場處ニ於テスルモノハ侮辱罪タル能ハズ蓋シ法文以外ナレバナリ然ルモ尙ホ第三者之ヲ知り得ベシ又官吏ト相對シ更ニ傍ヲニ人ナキニ當リ且ツ他人アルモ聞キ得ベカラサル低聲ヲ以テ名譽ヲ傷クベキ言語ヲ發セバ尙ホ侮辱罪タルヲ妨ケス而シテ第三者ハ之ヲ知ルヲ能ハサルナリ然ラバ則チ侮辱ノ性質ハ第三者ノ知ルト否トニ係ラス第三者之ヲ知ラズ又知り得ベカラズト雖モ官吏自ラ之ヲ知ラバ直チニ犯罪タルベシ唯其犯罪ヲ爲スノ方法ニ多少ノ制限アルヲ見ルノミ官吏侮辱ノ罪ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百四十一條第一項)

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪  
刑罰ハ法律ノ附スル制裁ナリ制裁ノ實行ハ國家ノ實力ヲ以テ

之ヲ行フベシ若シ一旦法律ノ科シタル制裁ヲ遁ルハ者アルニ  
 當リ更ニ刑罰ヲ科スルガ如キハ制裁ニ附スルニ制裁ヲ以テス  
 ル者ニシテ斯ノ如ク殆ト際涯ナカラン國家ハ實力ヲ以テ第一  
 ノ制裁ヲ執行スベシ何ソ更ニ法律ノ力ヲ藉ランヤ囚徒モ亦實  
 カヲ以テ逃走ヲ爲ス蓋シ當然ナルノミトハ一派ノ學者ガ説ク  
 所ナリ知ラス其當ヲ得タル理論ナリトスベキヤ  
 刑罰ハ宜シク實力ヲ以テ執行スベキコト勿論ナリ故ニ刑罰ヲ  
 科スルモ尙ホ之カ強行ヲ爲サヌ唯處刑者ガ自ラ進ミ來リテ其  
 執行ヲ請フヲ待ツカ如キハ是レ兒戯ノミ彼レ來リ請ハスト謂  
 テ更ニ之ヲ罰スルガ如キハ眞ニ痴ノ又痴ナルモノ更ニ論スル  
 ヲ用ヒス然リト雖モ實力ヲ以テ刑罰ヲ執行スルニ當テヤ時ニ  
 實力ノ不十分又ハ他ノ意外ノ事故ノ爲メニ刑罰ノ執行ヲ爲ス  
 コト能ハサルニ當リ國家ハ之ヲ如何トモスル能ハズト言フ果

刑罰ハ實行セ  
 サレバ効力ナ  
 シ

囚徒、逃走

シテ其宜ヲ得タルモノカ若シ其情ヨリ言ハ、刑罰ヲ受クルヲ  
 好ムモノハアヲサルベシ之ヲ遁レント欲スルハ人類ノ通情ナ  
 ラン然レドモ此情ヲ以テ理ヲ枉ケ囚徒ノ逃走ハ當然ナリ彼レ  
 實力ヲ茲ニ用ユベシ國家モ唯タ實力ヲ以テ刑ヲ執行スベシト  
 説ク徒ニ世ヲ誤ルノ奇言ノミ法律ニ從フハ國民ノ本分ナリ大  
 義ナリ刑罰ハ法律ノ科スル所其執行モ亦タ法律ノ命スル所然  
 ラバ則チ刑ノ執行ヲ受クルハ縱令ヒ情ニ於テ好マサル所ナル  
 モ理ニ於テ宜シク服スベキ義務ナラズヤ情義ヲ混スルモノハ  
 未ダ眞理ヲ語ルニ足ラサル也  
 本節ニ規定スルモノ囚徒逃走罪及ヒ罪人藏匿罪ノ二トス  
 囚徒トハ刑事ノ法律ニ基キ司法權ノ處分ニ依テ獄舎ニ在ル者  
 ナ云フ此資格アリテ而シテ後始メテ逃走罪ヲ犯スヲ得ベシ逃  
 走トハ單ニ獄ノ境界以內ヨリ其以外ニ出ルノミヲ言フニ非ス

元來獄舎以外ニ在ルニ當テ尙ホ之ヲ犯スヲ得此故ニ其居ル可  
 ラサル所ニ赴キ刑罰執行權ノ綱絆ヲ脱スルモノハ逃走罪ヲ以  
 テ論スルヲ得ベシ外役ノ地若クハ送附ノ途上等獄舎以外ニ於  
 テ逃走スル者則チ是ナリ

逃走罪ノ既遂ハ孰レノ時ニアルカ第四百十九條ハ逃走罪ノ未  
 遂ハ輕罪タル時ト雖モ尙ホ之ヲ論スルコトセリ然レモ未遂ハ  
 既遂ノ刑ト同シカラサル以上ハ之カ區別ヲ明カニスルノ利ハ  
 敢テ消滅セス若シ囚徒逃走スルモ獄舎ノ吏員ニ追蹤セラレ未  
 タ一分時ト雖モ心ヲ安ニスル能ハサル間ハ之ヲ既遂ト云フ可  
 ラズ若シ然カラサルニ至ル時ハ僅ニ數分時ヲ隔テ、其居所ヲ  
 發見セラレ再ヒ捕ニ就クモ已ニ既遂ト稱スルヲ得ベシ

若シ此罪ヲ犯スニ當リテ獄舎獄具ヲ毀壞シ或ハ獄吏ニ對シテ  
 暴行脅迫ヲ爲シタルハ別罪トシ之ニ科スルニ三月以上三年

三人以上通謀  
 ハ加重ス

囚徒被囚徒一  
 般ニ犯シ得ベ  
 キ罪

以下ノ重禁錮ヲ以テシ之ニ反シテ單純ノ逃走罪ハ一月以上六  
 月以下ノ重禁錮ニ處スルノミ

以上ノ犯罪ヲ犯シ囚徒三人若クハ其以上通謀スルハ之ヲ以  
 テ加重ノ情狀トシ一等ヲ加フ(第四百十五條然レモ通謀セル者  
 單ニ他人ノ爲メニ通謀スルニ非ズ各自逃走ノ意ニ出ルヲ要ス  
 第四百十四條ニ依レバ未決ノ囚徒ノ入監中逃走シタル者ハ已  
 決囚ノ逃走ト同罪トス只相異ル處ヲ記サンニ未決囚逃走罪ヲ  
 犯シテ後原犯有罪ニ決スベキ時ハ普通ノ理ニ基キ數罪俱發ノ  
 例ニ照ラシテ處斷スト雖モ已決囚徒ノ逃走罪ニハ再犯加重ノ例  
 ヲ適用セス唯同一刑期内逃走罪ヲ再ヒスル者ハ此例ニ從テ處  
 斷ス是レ唯囚徒ノ情ヲ酌テ特典ヲ與ヘシモノト言フベキノミ

此他囚徒ニ特別ナラサル犯罪アリ即チ囚徒以外ノ者ニ於テ犯  
 シ得ベキ罪是ナリ其一ナ一般ノモノトシ其二ナ特別ノ人ニ限



ルモノトス  
 一般ナルモノハ第四百四十六條及ヒ第四百六十七條ニ記セル囚徒  
 逃走ヲ助ケルノ罪ナリ獄吏ニ對シテ囚徒ヲ強奪シ又ハ暴行脅  
 迫以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處  
 シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス故ニ逃走罪ノ從犯ニ非  
 スノ別罪ヲ組織スルモノ也以下ニ説ク所ノ諸犯罪皆然リトス  
 若シ其囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナル片ハ輕懲役ニ處ス  
 若シ逃走罪ノ實行ヲ助ケスノ單ニ逃走セシムルノ目的ヲ以テ  
 兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三  
 月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ  
 附加ス故ニ此罪ハ逃走セシムルノ故意アリテ始メテ成立スベ  
 ク又一方ニ於テハ給與又ハ指示スルト同時ニ既遂犯タリ囚徒  
 ノ之ニ依テ逃走セルト否トニ從テ區別セス唯囚徒ノ逃走ヲ致

九百八十四  
九百八十五

シタル時ハ一等ヲ加重スルノミ(第四百四十六條)本條ノ犯罪ハ囚  
 徒ノ種類如何ニ依テ前條ノ罪ノ如ク區別ヲ設ケルコトナシ  
 第二ハ看守又ハ護送ノ任アル者ニ特別ナル犯罪タリ故ニ其他  
 ノ者ニ於テ之ヲ犯ス能ハサルハ勿論ナリ此等ノ任アル者故意  
 ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル片ハ單ニ常人ノ囚徒ヲ助ケテ逃  
 走セシメタルニ比シ其情甚ダ重モシ故ニ第四百四十八條ハ暴行  
 脅迫以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタルト同罪トセリ其未遂ニ屬スル  
 モノハ前段ニ掲ケル諸犯罪ニ於ケルト等シク假令ヒ輕罪ナル  
 モ之ヲ論ス(第四百四十九條然レモ第四百四十八條ニ於テ第四百十  
 七條ノ例ニ準シタルハ唯逃走セシメタル時ニ限ル故ニ兇器ヲ  
 給與シ方法ヲ指示スルニ過キスンバ其罪常人ニ異ナルトナシ  
 若シ故意ニ出テズ全ク懈怠ニ因テ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ  
 二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚

罪人藏匿罪

徒ナルルハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十條)

此故ニ不可抗カニ出ル者ハ犯罪タラズ囚徒ノ逃走スルモ懈怠ニ因テ之ヲ覺ラサルヲ要ス覺ラサルハ逃走其事ヲ覺ラサルニシテ逃走ヲ企テタルヲ覺ラサルハ茲ニ罰スル限リニ非ズ

罪人藏匿

本節中ニ於テ最後ニ逃ブベキモノハ罪人藏匿罪ト名ケラレタル犯罪ナリ而シテ其實罪人藏匿及ヒ罪證隠蔽ノ二罪ヲ包有ス  
罪人藏匿トハ何ゾ第百五十一條ハ曰ク犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ附セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ又ハ隠避セシムルヲ云フト逃走ノ囚徒ト云フ故ニ其未決タルト已決タルトヲ問ハサルナリ犯罪人トハ何ゾ罪ノ有無ハ裁判ニ依テ定ル然ラバ則チ獨リ既判ノ罪人ヲ云フカ立法者ハ文字ヲ用ユルニ注意ヲ欠キタルノミ其意蓋シ未決ノ徒即チ被告人嫌疑人ヲ指スモノタリ故ニ此點ニ關シテハ後日ニ至リ無罪ノ判決ヲ

罪證隠蔽

得ルモ之ガ爲メニ當初之ヲ藏匿シタル者ノ罪ヲ消サス要スルニ罪人ト否トチ分タス司法權ノ搜查追捕若クハ刑罰ノ執行ヲ免カレシムルノ意ヲ以テ之ヲ藏匿セバ本條ノ制裁ヲ免ル、コト能ハズ藏匿トハ自己ノ管スル土地家屋内ニ於テ官ノ發見ヲ避ケシムルヲ言ヒ隠避トハ其以外ニ於テスルヲ言フ  
此罪ヲ犯スモノハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ已決囚ニ係ル時ハ一等ヲ加重ス(第百五十一條)  
他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證トナルベキ物件ヲ隠蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第百五十二條)  
隠蔽トハ知ルコト能ハサラシムルヲ言フ故ニ自ラ其物件ヲ秘シテ存在ヲ知ラサラシムルモ隠蔽タリ又タ己ニ其物件ヲ消滅

セシメ之ヲ知ル能ハサラシムルモ共ニ隠蔽タルハ一ナリ然レ  
 凡其隠蔽スル所ノ物必ス罪證トナルベキ物件タルヲ要ス罪證  
 ハ犯罪アリテ始メテ住スベキ物ナルガ故ニ本條ノ隠蔽罪ハ原  
 犯定マリテ而シテ後始メテ確定スベシ罪人ナリト誤信シ又ハ  
 罪證タルベシト誤信シテ隠蔽シタルモ元來罪人タラス又全ク  
 罪證タルヲ得ベカラサル物件ナランカ是レ所謂ユル不能犯ニ  
 シテ本條ノ罰スル所ニ非ズ

親ノ幫助

右ニ掲クル罪人藏匿若クハ罪證隠蔽ノ罪ヲ犯ス者若シ罪人ノ  
 親屬ナル時ハ其罪ヲ論セス(第一百五十三條)是レ全ク情ヲ酌テ恕  
 スルモノナリ若シ單ニ理ヲ以テ論セバ情ノ爲メニ枉ク可キニ  
 非スト言ハン然レ凡予ハ其極端ニ走スルニハ非ス多少ノ恕ス  
 ル所アルハ蓋シ止ムヲ得サル所ナリトスルモ全ク其罪ヲ論セ  
 サル尙ホ其當ヲ得タリヤ又汎ク親屬一般ニ及ホシテ更ニ制限

九百六十八

スル所ナキモ寛ニ失スルノ弊アラズト言フベキヤ

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルノ罪

附加刑ノ執行ヲ遁ルノ罪トハ公權ヲ剝奪セラレ又ハ之ヲ剝  
 奪セラレサルモ尙ホ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒ若クハ  
 監視ニ附セラレタルモノ監視規則ニ違背スルヲ言フ法律ノ制  
 裁ニ附スルニ更ニ制裁ヲ以テスルモ強力不當ト云フ可ラサル  
 ノ理ハ此場合ニ於テモ尙ホ述フルヲ得ベシ

私ニ權利ノ執  
行

私ニ權ヲ行フトハ權利ノ行用ニ出ル所爲ヲ爲スヲ言フ其實敢  
 テ權ヲ行フニ非ズ如何トナレハ權ヲ有セス若クハ之カ行用ヲ  
 有セサレバ也唯其有刑ノ所爲ニ就テ之ヲ觀ルルハ權ヲ行フト  
 同一ナルヲ言フノミ而シテ斯ノ如キ所爲ハ無効タルカ又ハ他  
 ノ刑名ニ觸ルハカ二者其一ニ居ルカ故ニ特ニ犯罪トスルヲ要  
 セスト説クガ如キハ其當ヲ得タルモノニ非ズ如何トナレバ他

監視規則違反

ノ刑名ニ觸レサルモノアルノミナラズ尙ホ且ツ無効トスルコト能ハサルモノアルベキヲ以テナリ又縱令ヒ其言ノ如クナリトスルモ未タ之ヲ以テ制裁トスルニ足ラサルヲ如何センヤ  
監視規則ニ違背スルハ附加刑タル監視其者ノ執行ヲ遁ル、ニ非ズ唯監視規則ノ執行ヲ遁ル、ノミトハ多少理無キノ言ニ非ズ然リト雖モ監視規則ニ背違スルノ所爲ハ同時ニ監視ノ執行ヲ逃ル、ノ所爲タルコト無シトハ言フ可カラズ然ラバ則チ徒ニ細微ノ區別ヲ爲サズシテ之ヲ附加刑ノ執行ヲ逃ル、罪トスルモ強カチ不當ト言フヲ得ズ  
私ニ公權ヲ行ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第百五十四條)監視ノ規則ニ違背シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス(第百五十五條)然リト雖モ此兩種ノ犯罪ハ其刑期限内ニ於テ再ヒ犯シタ

ル時ニ非サレバ再犯ヲ以テ論スルヲ得ズ

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ビ所有

スル罪

軍用品製造

陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ハ妄ニ製造販賣又ハ所有スルヲ許サズ蓋シ單ニ其物質ノ危険ナル性ヲ有スルガ爲メノミナラス尙ホ國家社會ノ爲メニ危害ノ恐アルガ爲メナリ此故ニ官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ之ヲ製造シ又ハ自ラ之ヲ製造セサルモ外國ヨリ輸入シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス又之カ販賣ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第百五十七條)若シ其罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ命令ニ從テ事ヲ爲シタル者ハ本刑ニ照シテ二等ヲ減輕ス(第百五十八條)

軍用品所有

前記ノ物品ヲ妄ニ所有シタル者ハ尙ホ犯罪トスレモ單ニ財產刑ヲ科シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス製造販賣輸入ノ罪ハ其未遂ヲ罪スト雖モ所有ノ罪ハ未遂ヲ論スルコトナシ(第百五十九條及ビ第百六十條)

前述ノ犯罪アルニ當リ第四十三條ニ掲ケタル例ニ該當スベキ物件ハ該條ニ從テ之ヲ沒收スベキコト勿論ナリ然リト雖モ第百六十一條(ハ一ノ例ヲ明定セリ物品ノ製造ニ供シタル器械ノ如キハ右ノ總則ニ依ランカ單ニ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者知レサル場合ニ於テノミ之ヲ沒收スルヲ得ベシ(第四十四條然レモ本節ノ場合ニ在リテ若シ其器械ハ單ニ前記ノ物品ヲ製造スルニノミ供スベキモノナランカ所有者ノ何人タルヲ論セス總テ之ヲ沒收スルモノトセリ蓋シ社會ノ爲メニ他人ノ更ニ之ヲ使用シル古ノ生セシメントテ恐ル、ガ故ナリ

千七百六十九

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

本節ノ罰條ヲ設ケタルハ往來通信ノ自由安全ヲ保護スルニア  
ルコト其標題ヲ一目シテ知ルベシ故ニ其犯罪トスル所ノ所爲  
亦之ヲ妨害スルモノタルベキハ論ヲ待タサルナリ此理ニ基キ  
テ法文ヲ按スル時ハ或ハ狹隘ニ失セルノ憾ナキ能ハズ

往來妨害罪ノ要件

第一 往來ヲ妨害スル罪(第百六十二條)ハ固ヨリ有意ニノ妨害セル場合ヲ言フ是レ其未遂犯ヲ罰スルニ依テ明ナリト雖モ此一事ハ未ダ犯罪タラズ必スヤ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞スルヲ要ス此損壞ノ手段ニ出テスンバ縱令ヒ妨害ノ實アルモ又如何ニ故意ヲ以テスルモ本條ヲ適用スル能ハズ予輩其狹キニ失スルヲ歎ス

此罪ニ科スルノ科ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニシテ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ偽計ヲ施コシ又ハ暴行脅迫

ヲ用ヒテ郵便ヲ妨害シ或ハ之ヲ阻止シタル者亦之ニ準ス(第百六十三條)

電信ヲ不通  
ラシムル罪ノ  
要件

第二 電信ヲ不通ナラシムルノ罪(第百六十四條)モ亦タ有意犯タルヲ前者ニ異ナルナキモ尙ホ電信ノ器械柱木ヲ損壞シ或ハ條線ヲ切斷シタルヲ要ス即チ不通ノ實ト損壞ノ手斷具備スルヲ要ス單ニ不通ニ致スモ未タ不可ナリ其殃キニ失スルモ亦タ前者ニ同シ

此罪ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス然ルニ同條第二項ハ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スモ未タ不通ト爲サザル時ハ一等ヲ減ストシ殆ト其意ノ在ル處ヲ知ルニ苦シマシメタリ如何トナレバ其所爲ヨリ言ヘバ前者ノ未遂犯ノ如ク其刑ヲ見ルモ未遂犯ニ似タリ而シテ未遂犯ノ罰スベキハ已ニ第百七十條ニ依テ

明ナレバ特ニ之ヲ玆ニ掲グルヲ要セサレバナリ然ラバ則チ立法者ハ之ヲ以テ前者ノ未遂犯ニ非ス特別罪トスルノ意ナリシカ其理何ノ處ニ在ルヤ

汽車ノ往來ヲ  
妨グル罪ノ要  
件

第三 汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル罪ニハ重懲役ニ處シ(第六十五條)船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者モ之ニ同シトス(第百六十六條)若シ之ニ因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス(第百六十九條)此種ノ罪ニ於テ其本位トモナルベキモノハ船舶又ハ汽車ノ往來ヲ妨害スル所爲ヲ爲スニアリ且ツ故意ニシテ之ヲ爲スニアリ此所爲アルトキハ其罪已ニ全備シ其後ノ結果如何ニ至テハ特ニ罪狀ヲ重カラシメ時ニ或ハ別罪ヲ爲スニ至ル

若シ第百六十二條乃至第百六十六條ノ罪ヲ犯シタル者其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工ナル時ハ一等ヲ加フ是レ予カ曾テ述ベタル特別ナル加重原因ノ一例タリ

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

人ノ住所ヲ侵スノ罪トハ何ソ法律ハ曰ク故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入ルヲ言フト然レモ更ニ理ニ基テ之ヲ明カニセント欲セバ權利ナクシテ入ルノ所爲ト解スルヲ要ス故ナクトハ事故ナク原因ナキノ謂ニ非ス權利ナキノ謂ヒナリ此犯罪タル元來人ノ財産ニ對スルモノニ非ズ家宅ノ安寧ニ對スルモノタリ此故ニ其邸宅又ハ建造物ニシテ住居者又ハ看守者ノ所有ニ屬セサルモノ尙ホ侵入罪ヲ成スノ妨害タラズ假令ヒ我所有ノ家屋等ナルモ他人ノ之ニ住居スル以上ハ時ニ此犯罪ヲ行フコトヲ得ベシ

家宅侵入罪

晝夜ノ別ニヨリテ罪ヲ異ニス

家宅侵入罪ハ之ヲ行フノ時如何ニ依テ其刑ヲ異ニス晝間ナル片ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ(第百七十一條)夜間ナル片ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス(第百七十二條)晝夜ノ別何ニ依テ之ヲ定ムルヤ法律上之ヲ明ニセサル以上ハ裁判官ノ認定權ニ屬スベキ事實ノ問題タルノミ  
若シ其侵入スル所皇居禁苑離宮行在處及ビ皇陵ナル片ハ之ヲ以テ加重ノ原因トス(第百七十二條)  
且ツ或ハ門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ或ハ兇器其他犯罪ノ用ニ供スベキ物品ヲ携帯シ若クハ暴行ヲ爲シ又或ハ二人以上ニテ侵入セルカ如キ情狀ニシテ苟モ其一アランカ是レ又加重ノ原因ナリトス然リト雖モ其情狀一ツニ止ラズ二個又ハ三個アルモ之カ爲メニ二等又ハ三等加フルコトナカルベシ如何トナレバ苟モ一アレバ一等ヲ加フト雖モ未ダ一アル毎ニ

必ス一等ヲ加フルノ意ニ非サルヲ以テナリ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

封印ヲ破棄スルトハ封印ヲ破リテ其効力ナカラシムル所爲ト  
官フベシ而シテ第一ニ明カニスルヲ要スルハ封印其物ナリ  
凡ソ一個ノ物件ヲ封スルハ其物件自体ヲ保スルヨリ寧ロ其物  
件内ニ存スル物品ノ散亂紛失ヲ防クニアリ故ニ倉庫ニ封印ヲ  
施スハ庫内ノ物件ヲシテ出スコト能ハサラシムルニアリ此目  
的ヲ達スルニハ門戸等ニ印ヲ捺シタル紙ヲ粘シ之ヲ破ルニ非  
サレバ開クコト能ハサラシム是レ封印ノ名アル所以ナリ是ヲ  
以テ封印ヲ爲スハ此有形ノ方法ヲ用ユト雖モ封印トイヘルコ  
トハ未タ此印ヲ捺シタル紙其物ヲ云フニハ非ズ隨テ破棄モ敢  
テ此紙片ヲ破リ棄ルノミノ謂ニ非ズ若シ有形的ニ之ヲ解セン  
ニハ封印ヲ除キテ其効無カラシムルモ未タ之ヲ有形ニ破ラサ

官ノ封印破毀  
ノ理由

刑罰

ル以上ハ此犯罪ヲ成サスト謂フベシ豈斯ノ如キ理アランヤ故  
ニ此犯罪ハ封印ノ効ヲ失ハシムルニ依テ成ルト斷スベシ然ラ  
バ假令ヒ有形ノ封印ヲ破ラズ又之ヲ除去セスト雖モ他ニ穴ヲ  
穿テ又ハ其物件ヲ毀テ在中ノ物件ヲ取出スヲ得ルニ至ラシ  
メバ已ニ此犯罪成ルモノトス  
然レモ其封印官署ノ處分ニ依テ施コサレタルモノニ非サレバ  
本條犯罪ノ体タルコト能ハズ  
此所爲ノ刑ハ二月以上二年以下ノ重禁錮トシ(第百七十四條)看  
守者之ヲ犯セバ一等ヲ加フ看守者懈怠シテ封印ヲ破棄シ又ハ  
其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺ラサル時ハ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ニ處ス(第百七十六條)若シ封印ヲ破棄シテ物件  
ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照ラシ  
重キニ從テ處斷ス(第百七十五條)



第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪  
 本節ノ犯罪ハ其種類一ナラズ陸海軍ノ將校出兵ノ要求ヲ受ケ  
 テ之ヲ肯セサル其一ナリ詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル是  
 レ其二ナリ此二者ニ就テハ別ニ言フベキモノアラズ(第七十  
 七條第七十八條)

公務ヲ行フヲ  
 拒ム罪ノ種類  
 尙ホ餘ス所ハ鑑定人又ハ證人トセラレタル者故ナクシテ之ヲ  
 肯ンセサルノ罪ナリ(第七十九條及ヒ第八十條)鑑定ハ各其  
 職ニ依テ爲サシムルモノナルガ故ニ自己ノ職業以外ノ事ニ付  
 テ鑑定ヲ命セラル、モ之ヲ拒ムハ敢テ犯罪タラズ證人ニ至テ  
 ハ何人ト雖モ免ル、ヲ得サルベシ苟モ法律ヲ以テ特ニ之ヲ免  
 シタル場合ノ外敢テ之ヲ拒ムヲ得ヌ若シ知ラサル事實ニ關ス  
 ル證言ナランニハ唯之ヲ知ラズト述ルマデナリ初メヨリ知ラ  
 ズトノ故ヲ以テ證人タルヲ拒ムヲ得ズ

千七百七十六

偽造行使罪  
 貨幣ノ偽造及  
 變造

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

本節ニ於テ規定スル所ノ罪之ヲ大別スルハ偽造行使及ヒ受  
 取行使ノ二者トス而シテ偽造ト稱スルモノ、中ニ就テ偽造及  
 ビ變造ノ二者アリ

偽造ト變造トノ相分ル、所如何偽造トハ貨幣ナラサルモノヲ  
 以テ貨幣ヲ造ルノ謂ヒナリト解スベシ此ニ其實ノ何タルヲ問  
 ハズ又其善惡ヲ分タズ苟モ真正ノ貨幣ナラザレバ則チ全ク偽  
 造貨幣タリ而シテ變造トハ然ラズ元來貨幣タルモ或ハ其物質  
 ヲ減シ或ハ其外形ヲ改メテ尙ホ貨幣トスルヲ云フ此故ニ紙幣  
 ト雖モ尙ホ變造ノ物体タルコトヲ得ベシ

偽造罪又ハ變造罪ト稱スルモ法文ニ依テ之ヲ論スレバ其罪ノ  
 既遂タルハ行使ニアリ理ニ於テ亦タ然ルベキナリ蓋シ偽造貨

行使

幣ノ信用ヲ害スルハ交換ノ媒タルカ爲メニシテ行使セラレス  
 ンバ此憂ナケレバ也然レトモ己ニ偽造ト云フ必ズ使用ノ意ア  
 リテ之ヲ爲スベシ若シ然ラスンバ或ハ之ヲ摸造ト稱スベキモ  
 未タ偽造變造ノ名ヲ附スルコト能ハズ  
 偽造變造シテ未タ使用セサルモノ又ハ偽造變造中ニ在テ尙ホ  
 成ラサルモノ、如キ若シ行使ト言ヘル有形ノ所爲ヨリ論セバ  
 實ニ豫備ノ所爲ナルベシト雖モ偽造變造シテ行使スルニ在ル  
 犯罪ヨリ觀レバ實行ノ所爲タリ故ニ之ヲ論スルニ未遂犯ヲ以  
 テスベキガ如シ唯第百八十六條ニ於テ特別ノ例ヲ設ケ成テ未  
 タ行使セサルモノハ一ヲ減シ未タ成ラサルモノハ二等ヲ減シ  
 器械ノ豫備ニ止ルモノハ三等ヲ減ストセリ  
 貨幣ト稱スルハ政府ノ認メタル貨幣タルヲ要スルコト勿論ナ  
 リ而シテ其種類左ノ如シ

政府ノ認メタル貨幣

内國通用ノ金銀銅貨紙幣及ヒ官許ヲ得テ發行スル銀行紙幣  
 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨

此故ニ其他ノ手形等ノ如キニ至テハ縱合ヒ貨幣同様ノ効力ヲ  
 實際ニ有スルモ未タ之ヲ偽造セル者ニ本節ノ刑ヲ科スベキニ  
 非ズ

制裁ハ貨幣ノ種類ト偽造變造ノ別ニ從テ同シカラズ

- (一) 内國通用金銀貨及ヒ紙幣ノ偽造ハ無期徒刑變造ハ輕懲役
- (二) 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ノ偽造ハ有期徒刑變造  
 ハ二年以上五年以下ノ重禁錮

- (三) 内國通用銅貨ノ偽造ハ輕懲役變造ハ一年以上三年以下ノ  
 重禁錮

貨幣偽造又ハ變造ノ情ヲ知テ雇ハレタル職工ハ一等ヲ減シ其  
 補助ヲ爲シタル者ハ本刑ニ照シ二等ヲ減ス(第百八十七條情ヲ

受取行使罪

知テ房屋ヲ給シタル者ハ本刑ニ照シ二等ヲ減ス(第百八十八條)  
皆共犯ノ特例ヲ設ケタルモノナリ  
受取行使罪ハ分テ二トス第一偽造變造ノ情ヲ知テ取受シ之ヲ  
行使スルノ罪ニシテ偽造變造ノ本刑ヨリ二等ヲ減シ行使前ニ  
在ル者ハ三等ヲ減ス第二ニ受取後ニ於テ偽造變造ナルコトヲ  
知リ之ヲ行使スルノ罪ニシテ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス(第百九  
十條第百九十三條)

偽造變造受取行使等ノ所爲ヲ爲ス者未ダ行使セサルノ時ニ於  
テ自首スルモノハ本刑ヲ免シ單ニ監視ニ附ス(第百九十二條)

第二節 官印ヲ偽造スル罪

官印偽造罪ノ  
性質

官印ヲ偽造スルトハ印影ヲ摸スルノ謂ニ非ズ印影ノ原体タル  
印願ヲ偽造スルノ謂ヒナリ然レモ之カ爲メニ此罪ヲ犯スモノ  
ハ多ク彫刻師タルニ過キサレベシト信スルカ如キハ實ニ誤レ

ルノ太ダシキモノナリ

官印偽造ノ本質ハ斯ノ如キモ本節中ニ掲クル犯罪ハ數種アリ  
第一ハ純然タル偽造ニシテ第二ハ偽印ノ使用ニアリ第三ハ影  
蹟ノ盜用トシ第四ハ影蹟ノ偽造變造タリ其處分ノ如キハ刑法  
各本條ニ就テ之ヲ知ルベシ

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

官文書偽造罪  
ノ性質

官ノ文書ヲ偽造スルハ真正ナル官文書ナラサルモノヲ造リ眞  
正ナル官文書トシテ使用スルニアリ此故ニ其文書中ニ記載ス  
ル事項ノ真正ナルヤ偽リナルヤヲ問ハス唯文書其物ノ如何ニ  
依テ分カルベシ  
偽造ノ罪モ分テ數種トス偽造變換及ヒ毀棄ノ三トス  
變換トハ變換スルノ權利ナクシテ變換スルノ謂ヒタルコト言  
フヲ待タズ又變換ニシテ此節ノ犯罪タルハ其變換ノ爲メニ害

偽造

毀棄

ヲ生シ若クハ害ヲ生シ得ベキヲ要ス然ラズンバ有形上變換ノ實アルモ刑法上ニ所謂ユル變換ナルモノ存セス又偽造ト謂ヒ變造ト云ヒ之ヲ要スルニ之ヲ作リタル者ト造ラレタル文書ノ關係ヲ僞ルニアリ或ハ記錄者タルノ資格ヲ僞ルニ在リト言フモノアレバ若シ之ヲ誤解スルルハ當テ失スベク且ツ誤解シ易キガ故ニ予ハ特ニ關係ヲ僞ルト言ヘリ故ニ此關係眞ナルルハ記載事實ノ眞僞ニ論ナク偽造ト云フ能ハサルモ若シ之ニ反センカ事項ハ全ク實ナルモ偽造文書タルベシ

毀棄ノ所爲ハ其文書ヲシテ消滅セシムルノ謂ヒナレバ文書ノ有形体タル紙片等ヲ消滅セシムルニ非ズ文書タル無形ノ性質ヲ消滅セシムルニアリ是ヲ以テ未タ紙其物ヲ消滅セシメサルモ尙ホ文書毀棄ノ罪存スルヲ得ベシ

詔書ノ偽造變換ハ無期徒刑ニ處シ毀棄モ亦タ同刑ニ處ス(第二

百二條)官文書ノ偽造變換行使及ヒ毀棄ハ等シク輕懲役ニ處ス(第二百三條)

公債證書其他官吏ノ公證シタル文書ノ偽造變換行使ハ輕懲役ニ處シ若シ無記名ノ公債證書ナルルハ一等ヲ加フ(第二百四條)之ヲ犯シタル者主務ノ官吏ナルルハ一等ヲ加フ(第二百五條)

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

私印書偽造罪ノ性質

私印私書ノ偽造ニ關スル理論ハ官印官文書ノ偽造ニ關シテ述ベタル所ヲ適用スルヲ得ベシ故ニ再ビ之ヲ詳説セズ

他人ノ私印ヲ偽造シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス盜用シタル者ハ一等ヲ減ズ(第二百八條)

爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スベキ證書又ハ金額ト交換スベキ約定手形ヲ偽造シ又ハ變換シタル者及ビ詐僞ノ裏書ヲ爲シ

タル者ハ共ニ輕懲役ニ處ス(第二百九條)

權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ變換シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二十條)

其餘ノ私書ニ係ルルハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(同上第二項)

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

免狀鑑札及疾病證書ノ偽造罪

此節ニ掲ケタル犯罪ノ中或ハ免狀鑑札ノ類ヲ偽造シテ使用シ或ハ醫師ノ疾病證書ヲ偽造シ又ハ偽造シタルモノヲ使用スルガ如キ之ヲ文書又ハ印章偽造ノ種類ニ屬セシムベキモノナレトモ我立法者ハ其情ノ輕キモノトシテ別ニ一種ノ犯罪トセルガ如シ然レモ本節中全ク之ト性質ヲ異ニスル犯罪ナキニ非ス詐僞ヲ以テ免狀鑑札證書ヲ造ラシムルノ所爲是ナリ斯ノ如キ

ハ之ヲ作ルノ資格アル者ヲシテ造ラシムルカ故ニ到底偽造トハ謂ヒ難シ僞リナルモノハ其文書自体ニ非ズシテ文書中ノ事實ニアリ

官ノ免狀又ハ鑑札ノ偽造ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百十三條)

屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス官吏ノ其主務ニ在ル者詐僞ノ情ヲ知テ之ヲ下附シタルルハ本刑ニ一等ヲ加フ(第二百十四條)

公務ヲ免ルベキ爲メ醫師ノ疾病證書ヲ偽造シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ醫師情ヲ知テ詐僞ノ證書ヲ作ルルハ本刑ニ一等ヲ加フ(第二百十五條)若シ其目的徵兵ヲ免カル、ニ在ルトキハ各一等

ヲ加フ(第二百十六條)

第六節 偽證ノ罪

偽証罪ノ性質

偽證トハ何ソヤ之ヲ約言スルトキハ詐僞ノ證言ヲ爲スノ謂ヒナリ而シテ證言トハ法庭ニ於テ且ツ證人タルモノ、ミ爲ストヲ得ベキ所ナルガ故ニ此犯罪ヲ行ヒ得ルハ單ニ宣誓ヲ爲シタル證人ニ限ルモノタル論ヲ待タス又證言ヲ爲サシムルハ單ニ事實ノ點ニアリ故ニ偽證ナルモノモ事實ノ點ニ於テノミ存スベシ且ツ夫レ偽證ノ偽證タルハ唯タ偽證ノ意アル時ニ於テノミ然リ故ニ事實上ノ錯誤ニ基キテ事實ニ反セル證言ヲ爲スモ未タ以テ偽證トスベカラズ自ラ僞リタルヲ知リテ而シテ後證言スルモノ始メテ偽證タリ然レトモ偽證ヲ爲スノ意ヲ以テ又僞リナリト信シテ述ベタル事全ク事實ト暗合セハ如何或ル論者ハ曰ク偽證ノ罪ハ詐僞ノ陳述ヲ爲スノ罪ニシテ虛妄不正ノ

事實ヲ陳述スルノ罪ニアラズ故ニ偶然事實ト符合スルモ尙ホ證據トシテ詐僞タル以上ハ偽證ノ罪ヲ免レズト予輩ハ輕シク之ヲ信ズル能ハズ如何トナレバ縱令ヒ偽證ニ相類スルモ證スル所ノ事實ニシテ不實ナラサル以上ハ不能犯タルノ觀ナキニ非サレバ也

有意

兎モ角モ偽證ハ有意犯タルコト右ニ述ル所ニ依テ明ナリ然レモ一般ヨリ云フキハ必ズシモ他人ヲ利シ又ハ害スルノ意思ヲ要スルニ非ズ唯詐僞ノ陳述ヲ爲スノ意アレバ即チ足ル其目的ノ何タルヲ問フノ要ナシ

然リト雖モ刑事ニ關スル偽證ニ在テハ特ニ被告人ヲ曲庇シ又ハ陷害スルノ意思アルヲ必要トセリ故ニ未タ偽證ヲ爲スノ意思ヲ以テ足レリトセズ然レトモ敢テ曲庇又ハ陷害ノ結果舉ルコトヲ必要トセサルナリ

被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルノ意思

時 偽証罪成立ノ

偽証罪ノ成立ハ何レノ時ニアルヤ已ニ偽証ノ意ヲ以テ詐僞ノ陳述ヲ爲スト同時ニ全ク成ルモノナリヤ予輩ハ未タ之レヲ信スルコト能ハズ若シ予輩ノ信スル處ニシテ過ナカランカ偽証罪ハ本件ノ審理終決スルト同一瞬間ニ於テ始メテ成立スト云フベシ未タ其然ラサルニ當テヤ證人ハ何時ニモ一旦陳述シタル詐僞ヲ取消シテ犯罪ヲ免ル、ヲ得ベシ

今明文ニ就テ處刑ノ例ヲ案スルニ左ノ如シ

第一、民事商事又ハ行政裁判ニ關スル偽証ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百二十三條)

第二、刑事ニ關スル偽証ハ左ノ區別ニ從フ(第二百十八條以下)

(一) 被告人ヲ曲庇スル爲メニシタル偽証罪

甲 重罪ヲ曲庇スル爲メニシタル偽証ハ二月以上二年以下ノ

曲庇

陷害

重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

乙 輕罪ヲ曲庇スル爲メニシタル偽証ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

丙 違警罪ヲ曲庇スル爲メニ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ之ヲ處斷ス

而シテ之カ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免レタル時ハ偽証者ノ刑ハ右ニ照シテ各一等ヲ加フルモノトス

(二) 被告人ヲ陷害スル爲メニシタル偽証罪

甲 重罪ニ陷ラシムル爲メノ偽証ハ二年以上五年以下ノ

重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

乙 輕罪ニ陷ラシムル爲メノ偽証ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

丙 違警罪ニ陷ラシムル爲メノ偽証ハ一月以上三月以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

然ルニ若シ此偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ至リ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐セシムト雖モ前記ノ刑ヨリ輕キ時ハ反坐法ヲ用ユルヲ得ズ己ニ裁判ヲ經テ尙ホ執行ヲ終ラサルノ間即チ刑期限内ニ於テ偽證罪發見シタル時ハ現ニ經過シタル日數ヲ減シ反坐セシムルヲ得ベシト雖モ此場合ニ在テハ前記ノ刑ヨリ降スコトヲ得ズ  
若シ偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラル、モ死刑ハ極刑ナルカ故ニ特ニ嚴然タル反坐法ヲ用ヒス一等ヲ減ス死刑執行前發覺シタル片ハ二等ヲ減ス然リト雖モ偽證ノ目的單ニ陷害ニ止ラズシテ全ク死ニ陷ラシムルニ在リシ片ハ本則ノ反坐法ヲ適用シ執行前發覺シタル片ニ於テノミ一等ヲ減ス  
以上ハ偽證罪ノ大要ナリ元來證人ニ限ルベシト雖モ鑑定又ハ

自首免刑ノ理由

度量衡偽造罪ノ理由

通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者故ラニ詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數項ノ例ニ從ヒ同シク偽證ヲ以テ論ス且ツ人ニ囑托シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者モ亦共ニ偽證ヲ以テ論ス(第二百二十四條)  
偽證ノ罪已ニ成立スルモ未ダ本件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首スル時ハ特ニ本刑ヲ免除ス蓋シ未タ其害ヲ生セサルノミナラズ斯ノ如クニシテ以テ偽證者ノ自首ヲ誘ヒ其過ヲ遂ケサラシメント欲スルノ精神ニ基ケル特例タリ

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

度量衡ニハ一定ノ法規アリ之ニ合シテ作りタル物始メテ眞正ノ度量衡タルヲ得若シ之ニ違ヒタル物ヲ故ラニ造ランカ玆ニ度量衡ノ偽造罪アリ元來偽造ナラサルモ變造ニ止ルモノ亦然リトス且ツ度量衡其物ハ假令ヒ眞正ナル物ト異ナルトナキモ



偽造變造ノ刑

若シ之ヲ造ルヲ得サル者ニ於テ妄ニ製造シ以テ真正ノ度量衡ナリトセハ是レ亦タ右ノ犯罪タリ蓋シ此犯罪ノ存スル所ハ真正ノ度量衡ヲ偽リ造ルニアレバ也又之ヲ犯罪トセル所以ノモノハ取引ヲ害シ信用ヲ傷フガ爲タルコト玆ニ論スルヲ待タズ一偽造變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス自ラ偽造變造セズト雖モ其情ヲ知テ販賣シタル者又ハ人ノ囑托ヲ受ケテ偽造又ハ變造シタル者ハ共ニ一等ヲ減ス(第二百二十七條第二百二十八條第二百三十條)

不正品所有ノ者

若シ此犯罪ヲ爲スニ依リ官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ官印偽造ノ本條ニ照ラシ重モキニ從テ處斷スルハ未タ第二百二十七條ノ明文ヲ待タズシテ當ニ然ルベキ所ナリ  
第二百二十九條ノ規定ニ依レバ商賈農工タル者定規ヲ増減シ

タル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若シ之ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ズヘキモノタリ此犯罪ハ商賈マダハ農工タル者ノミ之ヲ爲スヲ得ベシ他ノ人ハ之ヲ所有スルモ未タ偽造罪タルヲ得ス蓋シ其所有者ノ如何ニ依テ害ノ有無異ナルカ爲メニ此區別アルナリ又商賈賣等ノ所有スルヲ以テ犯罪ナリトスルハ其度量衡ノ偽造物タルガ爲メニ非ス其定規ヲ増減シタル度量衡タルカ爲メナリ苟モ然ラサル以上ハ偽造物ヲ所有スルモ未タ以テ本條ノ犯罪トシテ論スルコト能ハサルベシ

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

身分詐稱罪ノ理由

身分詐稱トハ屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱スルヲ謂フ凡ソ此數者ハ個人ヲシテ他ノ個人ト相分ツコトヲ得セシムル所以ノ

モノタリ若シ之レアラスンバ殆ト同一人タルヲ知ルコト能ハサルベシ是ニ於テカ其詐稱ノ一般ヲ害スルヤ大ナリ屬籍トハ法律上人民ノ階級中已レノ屬スル所及ビ其本籍ノ所在ヲ謂フ單ニ住所ノ如キハ未タ此屬籍中ニ包有セシムルヲ得ス身分トハ各人が法律社會ニ在テ有スル資格ニシテ國人外人父子夫妻等ノ如シ然レドモ之ヲ以テ出產結婚及ビ死亡ノ三者ヨリ生スル結果ナリト云フハ未タ當テズ蓋シ歸化養子等ノ如キ離縁ノ如キ事ヨリ生スルモノモ亦タ身分タルベキヲ以テナリ氏名ト稱スルモ法律上ノ氏名ニ限ル或ハ雅名戲號ノ如キハ此中ニ屬セス之ヲ詐ルモ敢テ身分詐稱タラズ

然レトモ詐稱ニシテ犯罪タルニハ官署ニ對シテ之ヲ爲スヲ要ス此故ニ千萬人ニ對シテ詐稱スルモ官署ニ對スルコト無キ以上ハ如何ナル手段ヲ以テスルモ本節ノ犯罪タルコトナシ

身分詐稱罪ノ要件

官署ニ對ス言  
語又ハ文書ヲ  
用ユ

又縱令ヒ官署ニ對シテ詐稱スルモ其方法ニ限リアリ即チ詐稱罪ヲ構成スルニハ必ス言語又ハ文書ヲ以テスルヲ要ス或ハ形容或ハ舉動ヲ以テスルモ不可ナリ是故ニ外國人ナリヤト問ハレタル時然リト答ヘズシテ單ニ點頭シタルルル如キ其効果ハ然リト答ヘタルニ同一ナルベシト雖モ未タ詐稱ト云フヲ得ス點頭ハ言語ニモ文章ニモ非サレバナリ

詐稱罪ノ刑罰

身分詐稱ノ罪ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百三十一條)自己ノ有セサル官職位階ヲ詐稱シ又ハ自己ノ使用スル權利ナキ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ使用シタルモノハ之ヲ身分詐稱罪ニ准シ而シテ刑ハ却テ前者ヨリ重モシ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ尙二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百三十二條)

此第二種ノ犯罪ニ至テハ必スシモ官ニ對シテノミ行ヒ得ベキ

身分外ノ官職  
位階等ノ僭用

ハ官署ニ對セ  
サルモ有罪ト  
ス

ニ非ズ苟モ他人ニ對シ之ヲ詐稱シ之ヲ借用シタル以上ハ已ニ  
犯罪タリ又且ツ其手段ノ如何ヲ問フノ要ナシ

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

公選ノ投票偽  
造罪ノ性質及  
其理由

投票偽造ノ名稱ノ下ニ包有スル犯罪ハ單ニ投票其物ヲ偽造ス  
ルノミニ非ズ或ハ其數ヲ増減シ又ハ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシ  
メ或ハ爲スノ所爲亦然リトス投票ヲ檢査シ又ハ計算スルノ任  
アル者詐偽ヲ爲シタルハ亦同シ

公選ノ投票トハ公共ノ事務ニ關スル役員ノ選舉投票ヲ云フ之  
ヲ例スルニ帝國議會議員ノ選舉ヲ始メトシ府縣會議員市町村  
會議員市參事會員等ノ選舉ノ如キ是ナリ其他假令ハ私ニ設立  
シタル會合ノ役員選舉ノ如キ其投票ヲ偽造スルモ未タ本節ノ  
罪トスルヲ得ズ又假令ヒ公然認メラレタル議會等ニ於テ議決  
ノ投票ヲ偽造スルコトアルモ是レ亦タ選舉ニ關セサル以上ハ

投票偽造罪ノ  
刑

本節ヲ以テ論スベキ限リニ非ズ

投票ノ偽造又ハ増減ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓  
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタ  
ル者又ハ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓  
以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ投票檢査又ハ計算ノ任ア  
ル者偽造増減シタルハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四  
圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス結局報告ノ任アル者詐偽ノ  
所爲アルハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百三十三條乃至第二百三十六條)

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

阿片烟ニ關スル罪ノ最モ重キモノハ之ヲ輸入製造及ヒ販賣ニ  
アリ共ニ有期徒刑ニ處ス第二ハ阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸

阿片ニ關スル  
罪

入製造販賣スル所爲ニノ輕懲役ニ處ス稅關官吏情ヲ知テ阿片  
 烟又ハ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ一等ヲ加フ第三阿片烟ヲ  
 吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ルモノ及ヒ人ヲ誘引シテ  
 阿片烟ヲ吸食セシメタル者ハ輕懲役ニ處シ第四吸食シタル者  
 ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス第五阿片烟及吸食ノ器具  
 ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ之ヲ吸食セス之ヲ使用セサルモ  
 已ニ一個ノ犯罪トシテ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス(第二  
 百三十七條以下第二百四十二條)

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

飲用水汚穢罪

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサル  
 ニ至ラシノ又ハ人ノ健康ヲ害スベキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ  
 又ハ腐敗セシメタル所爲ナリ未タ人ヲ疾病若クハ死ニ致スノ  
 故意アルヲ要セズト雖モ若シ此犯罪ニ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ

致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照ラシ重キニ從テ處斷ス(第  
 二百四十三條乃至第二百四十五條)

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上  
 陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シ若シクハ傳染病流行ノ際豫防規  
 則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出テタル所爲ヲ云フ(第二  
 百四十六條乃至第二百四十八條)獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則  
 ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタルモノモ亦本節ノ罪ヲ以テ論  
 ス總テ第五章健康ヲ害スル罪ニ關シテハ特ニ細論スベキモノ  
 ニアラス故ニ皆其ノ大要ヲ誌スノミ

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害スベキ物品製造ノ

規則ニ關スル罪

官許ヲ得スノ危害ヲ生スベキ物品又ハ健康ヲ害スベキ物品ノ

製造所ヲ設立シ又或ハ官許ヲ得テ之ヲ設立スルモ猶危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背スルヲ云フ(第二百五十條及ヒ第二百五十一條若シ此罪ヲ犯シ依テ人ヲ疾病死傷ニ致シタルモノハ過失殺傷ノ條ニ照シ重キニ從テ處斷ス)

第五節 健康ヲ害スベキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

人ノ健康ニ有害ナル物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シ又ハ規則ニ違背シテ毒藥激藥ヲ販賣スル所爲ヲ云フ若シ此罪ヲ犯シ依テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタルモノハ過失殺傷ノ條ニ照シ重キニ從テ處斷スル事猶前節ノ罪ニ於ケルガ如シ

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

私ニ醫業ヲ爲ストハ官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲スノ謂ナリ然レモ已ニ業ト云フ必ス慣行ヲ爲スヲ要ス一回醫師ノ爲スベキ事

慣ニテラザレバ罰セズ

ヲ爲スモ未タ醫業ヲ爲シタリト云フヲ得ス若シ此罪ヲ犯シ治療ノ方法ヲ誤リ依テ人ヲ死傷セシメタル時ハ過失殺傷ノ本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルヲ猶前數節ノ如シ

第六章 風俗ヲ害スル罪

本章ニ懸クル罪別チテ三トナス第一猥褻ノ罪第二賭博及ヒ富籤興行ノ罪第三宗教ヲ蔑如スル罪是レナリ

第一 猥褻ノ罪

猥褻ノ罪又別ツテ二トス其一ハ公然猥褻ノ所行ヲ爲スノ罪ニシテ其二ハ風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣スル罪ヲ云フ

猥褻罪ノ要件

猥褻ノ所行トハ元ヨリ人ノ見ルニ忍ヒザル醜體ヲ現ハスノ謂ヒタルヤ論ヲ俟タズト雖モ又必ス陰陽ニ關スル所行タルヲ要ス且ツ此所爲ニシテ犯罪タルニハ公然之ヲ行フヲ要ス公然ト

ハ他人ノ目撃シ得ベキ場所ニ於テスルノ謂ヒニシテ家ノ内外  
ヲ以テ之ヲ別ツ事ナシ

第二ノ罪ハ自ラ猥褻ノ行爲ヲナシタルニ非ラスト雖モ猥褻ナ  
ル冊子圖書又ハ猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ若シクハ販賣スルカ  
如キ爲メニ風俗ヲ害スルニ至リテハ前者ト異ナルヲナシ  
右第一ノ罪ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第二ノ罪ハ四  
圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス第二百五十八條及ヒ二百五十  
九條)

第二 賭博及ヒ富籤興行ニ關スル罪

博犯ノ性質

賭博トハ偶然ナル事ニ依テ財物ヲ授受スル所爲ヲ云フ故ニ一  
人ノ失フ所正サニ一人ノ得ル所ニシテ更テニ富ヲ増スヲナキ  
ノミナラス徒ラニ正業ニ安スルヲ無ク僥倖ノ利ヲ得ント欲ス  
ル心ヲ起シサムルモノナリ此一點ニ至リテハ勝敗ヲ偶然ノ事

ニ決セズシテ巧拙優劣ニ決スルモノモ亦異ナルヲ無シ

賭場ヲ開キ利ヲ圖ルモノ及ヒ博徒ヲ招結シタルモノハ皆賭博  
ノ主タリ魁タルガ故ニ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓  
以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス單ニ博奕ヲナシ若シクハ其情ヲ  
知テ房屋ヲ給與シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處  
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

飯食物ヲ賭ス  
ルハ罪トセズ

財物ヲ賭ルトハ金錢其他一切ノ動産不動産ヲ賭スルノ謂ヒナ  
リト雖飲食物ヲ賭スルハ刑法ノ所謂賭博ニアラズ是レ蓋シ一  
時ノ遊戯ニ屬シ未タ以テ浮利ヲ圖リタルモノトナスニ足ラザ  
レバナリ然レモ其犯罪タラザル所以爰ニアリトセバ其飲食物  
モ亦即時ニ消費スル物タルヲ要スルヤ明ナリ之ヲ要スルニ賭  
博ヲ行フノ方法ハ之ヲ問ハズシテ可ナリ或ハ骨牌ヲ用中或ヒ  
ハ圍碁ヲ用ユルノ賭博タルニ至ツテハ一ナリ犯罪タルト然ラ

現行犯ニテラ  
サレハ罰セス

サルトハ飲食物以外ノ財物ヲ賭スルト然ラサルトニアリ  
通常賭博犯ハ現ニ行フタル時ニアラサレバ之ヲ罰セス現ニ賭  
博ヲ行フトハ現行犯ノ謂ヒナリ故ニ其現場ニ於テ逮捕セラレ  
タル時ニアラサレバ罰スルヲ得ス

現場ニ存在ス  
ル器具没収

賭博ノ器具財物其ノ現場ニアルモノハ現ニ犯罪ノ用ニ供シタ  
ト否トニヨラス又犯罪ニ依テ得タルト否トニ別タズ又且ツ所  
有者ノ如何ニ論ナク之ヲ没収ス現場ニ存セサルモノハ如何ノ  
物件モ没収スルヲ得ス第二百六十一條此ノ故ニ總則ノ没收例  
ニ對シ著シキ特例ヲ設クルモノタルヲ知ルベシ  
富籤ノ罪ニ就キ我法律ノ罰スル所爲ハ財物ヲ醜集シ富籤ヲ以  
テ利ヲ射ルノ業ヲ興行スルヲ云フ抑モ富籤ノ物タル若干ノ財  
物ヲ出シ或ル偶然ノ出來事ノ爲メニ或ハ此ノ財物ヲ失ヒ又ハ  
一定ノ財物ヲ得ルニアリテ其性質賭博ト甚タ相類セリ

富籤興行ノ罪

富籤興行ノ罪ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五  
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三 宗教ヲ蔑如スルノ罪

宗教蔑如罪

宗教ヲ蔑如スル罪ハ別ツテ二トス第一人ノ禮拜スル所ニ對シ  
公然不敬ヲ加フルノ所爲ニシテ第二ハ說教又ハ禮拜ヲ妨害ス  
ルノ罪ナリ

不敬ヲ加フル  
ノ所爲

不敬ヲ加フルノ所爲ハ其禮拜所ノ屬スル宗教ノ信者ヲシテ感  
覺ヲ害セシメ信仰ノ自由ヲ妨クル者ナリ或ハ言語ヲ以テシ或  
ハ文書ヲ以テシ又或ハ其他ノ舉動ヲ以テスル等手段ノ如何ハ  
之ヲ問フノ要ナシ然リト雖モ必スヤ公然不敬ノ所爲ヲ加ヘタ  
ルヲ要ス故ニ二三ノ人密カニ他宗ノ神祠等ヲ罵詈スルガ如  
キハ未タ不敬罪タラス  
說教禮拜ヲ妨害スルノ所爲ハ未タ公然ニ之ヲ行フヲ要セズ又

散教禮拜ヲ妨  
害スルノ所爲

或ル論者ノ云ヘル如ク説教者信者等ニ對シテハ暴行脅迫ヲ用  
キタルモノニアラサレバ妨害罪ヲ構成セストスルハ狹隘ニ失  
スルノ憾ナキ能ハス如何トナレバ未ダ暴行脅迫ニ依ラサルモ  
妨害ヲ爲ス事ヲ得ベク而シテ我立法者ハ單ニ妨害ト記セルノ  
ミ其手段ヲ制限スル所無ケレバナリ  
不警罪ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ妨害罪ハ四圓以上  
四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スルノ罪

此章ノ犯罪ハ三種アリ第一埋葬スベキ死屍ヲ殘毀スルノ罪第  
二埋葬スベキ死屍ヲ移棄スルノ罪第三墳墓ヲ發掘スルノ罪是  
レナリ

死屍毀棄

埋葬スベキ死屍トハ未ダ埋葬セサル死屍ヲ云フ而シテ第二百  
六十四條ハ單ニ毀棄ト云ヘリ然ルニ毀タサルモ棄ツルノ一事

死屍移棄

ハ己ニ犯罪タルベク是ト等シク假令之ヲ棄テサルモ猶ホ毀ツ  
ノ所爲ハ犯罪タルニ充分ナリ故ニ余ハ之ヲ殘毀及ヒ移棄ノ二  
罪トセリ其刑ニ至ツテハ共ニ一月以上一年以下ノ重禁錮ニシ  
テ且ツ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
醫學上ノ研究ノ爲メ死体ノ解剖ヲナスモ亦タ其實毀棄ノ所爲  
ナリト雖モ此ノ如キハ許可ヲ得テナスモノニシテ刑法ノ罰ス  
ル限ニアラズ然レモ敢テ其意思ノ善ナルガ爲メニ犯罪トナラ  
サルニハアラス例ヘハ戰爭ノ場合ニ於テ敵ノ爲メニ我が故舊  
ノ首級ヲ奪ハレントテ恐レ之ヲ斬ルガ如キ其意善ナリト雖モ  
未ダ罪タルヲ免レズ之ヲ目シテ不正ノ要素ヲ欠クモノトスル  
ハ實ニ不正ノ要素ヲ知ラサルモノ、言ナル而已  
移棄ノ罪ハ埋葬ノ責任ヲ有スルモノト否トニ論ナク苟クモ死  
屍ニ對シ無情ノ所爲アル以上ハ己ニ風俗ヲ害シ一個ノ犯罪タ



ルニ足ル

墳墓發掘ノ罪ハ依テ棺槨又ハ死屍ヲ見ハスノ所爲ト死屍ヲ毀棄スルノ所爲ト兩様アリ等シク故意ヲ以テ墳墓ヲ發掘スルヲ必要トスレドモ其結果ニ至リテハ未ダ故意アルヲ必要トセス是レ棺槨又ハ死屍ヲ見ハスノ罪ニ關シテノミ然ルニアラス死屍ヲ毀棄スルノ所爲ニアリテモ亦同シ如何トナレバ墳墓發掘ノ結果トシテ別ニ故意ナキモ死屍ヲ毀棄スルヲアリ得ベケレバナリ

墳墓發掘

棺槨死屍ヲ見ラハシタル罪ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス死屍ヲ毀棄スルノ罪ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

此ノ章ニ懸ケタル罪ハ權利ノ實行ニ出デタル者ニ限ルベキハ

特ニ論スルヲ要セス蓋シ權利ノ實行ハ不正ノ要素ヲ欠カシムルモノナレバナリ又且ツ總テ有意犯ニシテ其罪ヤ輕罪ニ過キザルモ立法者ハ其ノ未遂犯ヲ罰セリ(第二百六十六條)

第八章 商業及ビ農工ノ業ヲ妨害スル罪

本章ノ犯罪ハ第一賣買ノ妨害第二農工業ノ妨害第三物品ノ價直ヲ昂低セシムルノ所爲トス而シテ犯罪ノ手段ハ概シテ偽計又ハ威力ノ二者ニアリ只第三ノ所爲ニ至リテハ虛偽ノ風説ヲ流布スルヲ以テ其ノ手段トス又其ノ意思ニ至リテハ之ヲ要スルニ妨害ノ故意アルヲ以テ足レリトスレモ或ル特別ノ場合ニ於テハ尙ホ他ニ目的アルヲ要ス例エバ第二百七十條ノ妨害罪ハ雇賃ヲ増サシメ或ハ工業ノ景况ヲ變セシムル目的ニ出テタル妨害ナルヲ要スルガ如シ

刑罰ハ處爲ノ種類ニ從ヒテ全シカラズ衆人ノ需要ニ欠クベカ

營業妨害罪ノ種類

其刑罰

ヲサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタルモノ並ニ農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムルカ爲メ若シクハ雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スルタメ妨害ヲナシタルモノハ各一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百六十七條)第二百七十條及ヒ第二百七十一條(躰賣又ハ入札ヲ妨害シ或ハ農工ノ業ヲ妨害シタルモノハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百六十八條)及ヒ第二百六十九條(虛偽ノ風説ヲ流布シ衆人ノ需要物品ノ價直ヲ昂低セシメタルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百七十二條))

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

本節ノ罪其數四第一官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セ

官吏公益ヲ害スル罪ノ種類

ザル罪第二他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害スルノ罪第三兵權ヲ以テ鎮撫スベキ時ニ當リ其處分ヲナサ、ル罪第四規則ニ違背シテ商業ヲナスノ罪之レナリ

法律規則ヲ公布施行セサルノ罪ハ所謂爲サ、ルノ罪ナリ然レモ爲サザルノ罪ナルガ故ニ意ナキノ所爲ナリト信スベカラス否ナ全ク有意犯ナリ單ニ過失ニ止マランカ懲戒令ノ管轄内タルベシ未タ瀆職ノ罪タラズ

官吏ノ法律規則ヲ公布シ又ハ施行スルヲ妨害スルハ官吏タラサルモノト雖モ之ヲナスコトヲ得ベシ然レモ其人官吏タラサル以上ハ瀆職ノ罪ト云フヲ得ス又假令其身官吏ナリト雖モ其職務ニ依テ妨害ヲ爲シタル片ニアラザレバ本節ノ罪トスルヲ得サルベシ

右ニ掲ケタル兩罪ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以

官吏商業ノ禁止

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百七十三條)  
 職權ヲ鎖撫スルノ任アル官吏兵權ヲ使用シ得ベキニ當リ其處  
 分ヲナサ、ルモ亦之ヲナサ、ルノ罪ニシテ猶ホ故意ニ出ツル  
 モノナリ其ノ刑ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以  
 上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百七十四條)  
 官吏ノ商業ヲナスヲ禁シタルハ利ニ走リ其地位ヲ損シ又或ハ  
 職務上ノ機密ヲ奇貨トシ私利ヲ斷スルノ弊アルヲ以テナリ  
 然レモ此ノ犯罪ハ他ニ官吏ノ商業ヲ禁スル規則存シテ後始メ  
 テ成立スルヲ得ベシ然ラザル以上ハ商業ヲナスモ未ダ犯罪タ  
 ラス且ツ禁スル所ハ商業ヲナスニアリ故ニ其結果タルヤ商業  
 ト等シク之レヲナスモノヲシテ報酬利益ヲ得セシムル職業ト  
 雖モ商業ニアラザル以上ハ之レヲナスモ犯罪タラズ或ル人ハ  
 曰ク職業トハ人類ヲ相手トスル所爲ニシテ商業トハ天造物ヲ

官吏職權濫用ノ種類

相手トスル所爲ナリト然レモ此ノ如キハ此兩語ニ關スル正當  
 ノ解釋ナリト信スル能ハス如何トナレハ商業モ亦一個ノ職業  
 ナレバナリ

第二節 官吏人民ニ對スル罪

本節ノ罪ハ皆職權ノ濫用ニ出ツルモノナリ濫用トハ用ヒテ其  
 當ヲ失スルヲ云フ故ニ用ユベカラスシテ用ヒルノミノ謂ヒニ  
 アラス用ユベクシテ用キザルモ亦同シ既ニ職權ノ濫用タリ是  
 ヲ以テ本節ノ罪ハ官吏其職務上ニ於ケル犯罪タルハ論ヲ俟タ  
 ス左ニ順次諸種ノ犯罪ヲ説カン

威權濫用

第一、威權濫用ノ罪トス或ハ威權ヲ濫用シ人ヲシテ其ノ權利ナ  
 キヲ行ハシメ或ハ其ナスベキ權利ヲ妨害スル共ニ此ノ種ノ  
 犯罪タリ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓  
 以下ノ罰金ヲ附加ス法文ニ曰ク擅ニ威權ヲ用ヒ云云擅ニトハ

所謂濫ナルモノニシテ本條ノ場合ニアリテハ用ユベカラサルニ用ユルヲ云フモノナリ又曰ク其權利ナキ事ト其ノ事ハ何人ヲ指スヤ若シ本條ノ文字上ヨリ解スル時ハ人ヲ指スニアルガ如シ然リト雖モ假令其人ナスノ權利アル事ト雖モ官吏之レヲシテ行ハシムルノ職權ナクンバ猶ホ威權ノ濫用ナリ是ニ於テカ其權利ナキ事トハ其ノ行ハシムル權利ナキト解セサルベカラス

保護ノ責任  
怠

第二ハ保護ノ處分ヲナサ、ルノ罪ナリ人ノ身体生命自由財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官其ノ報告ヲ受ケ速カニ保護ノ處分ヲナサ、ルハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
保護ノ處分トハ何ゾ犯罪已ニナルノ後ニ當リ或ハ犯人ヲ搜索シ或ハ證據ヲ取調べ又或ハ犯人ヲ逮捕スルガ如キ未タ被害者

逮捕監禁

ニ對スル保護ノ處分トハ云フ能ハサルベシ故ニ此ノ如キ處分ヲナサ、ルモ本條ヲ以テ論スベキ限リニアラズ例ヘハ現行犯罪ニシテ犯人猶ホ犯罪ヲ執行スル際ノ如キニアラサレバ被害者ニ對スル保護ノ處分ヲナスコト能ハサルヘシ  
第三ハ逮捕監禁ノ罪トス此ノ犯罪ヲ爲スハ逮捕官吏ニ止マル逮捕官吏トハ司法警察官巡查憲兵等ノ如ク實際ニ逮捕ヲナスモノ、ミチ云フニアラス裁判官檢察官ノ如ク逮捕ヲ命スルノ職權アルモノ又然リ逮捕監禁ニシテ犯罪タルニハ程式規則ヲ遵守セスシテナシタルトサ要ス程式規則ヲ遵守セサルニニアリ逮捕若クハ監禁スベカラサルニ之ヲ行フモ亦或ハ逮捕監禁スベキ時ニアリテ之ヲ行フニ相當ノ手續ヲナサ、ルモ共ニ程式規則ニ違反スルモノタリ此犯罪ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス且ツ其監禁日

數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フルモノトス(第二百七十八條若シ司獄官吏タルモノ程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若シクハ囚人ヲ出獄セシムベキ時ニ至リ之ヲ放免セサルモノモ亦全シ(第二百十九條然リト雖モ余輩カ已ニ述ブルカ如ク是等ノ罪ハ總テ有意犯ニシテ單ニ不注意過失ニ出ツルモノハ本節ノ罪ヲ以テ論スベキニアラス

逮捕官吏若シクハ司獄官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去スル等苛刻ノ所爲ヲ施シタルモノハ特ニ一個ノ犯罪トシ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ之カ爲メニ囚人ヲシテ死傷ニ至ラシメタル片ハ毆打創傷各本條ニ照シ且ツ一等ヲ加ヘ重キニ隨テ處斷ス(第二百八十條)

囚人ノ保護

第四囚人ノ保護ヲ怠ルノ罪トス第二百八十一條ニ曰ク水火震

災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フト本條ニ所謂官吏トハ其語甚タ博シト雖全ク囚人ノ監禁ヲ解クノ任アル官吏ト解スベシ然ラサレハ未タ其ノ職務ヲ怠タルト云フヲ得サレバナリ己ニ怠ルト云フ知ルベシ過失罪ナルヲ然ルニ或ル論者ハ之ヲ以テ猶監禁ノ罪ヲ犯シタルモノトセルカ如キ其罪ノ性質ヲ混同スルモノタルヲ免レズ本條ノ罪ヲナスハ爲メニ囚人ノ死傷ヲ致シタル時ニアリ未タ死傷ナクンバ假令監禁ヲ解クヲ怠ルモ罰スルヲ能ハス如何トナレハ過失犯ニ未遂犯ナルモノアラサレバナリ

第五暴行又ハ凌虐ノ罪トス暴行トハ腕力ヲ施ス如キヲ云ヒ凌虐トハ飲食衣服ヲ屏去スルガ如キヲ云フ此ノ所爲ニシテ裁判官檢事又ハ警察官ニ依テ行ハレ且ツ被告人ヲシテ強テ罪狀ヲ

暴行凌虐

陳述セシムルタメニ出テタルキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ之ガ爲メニ被告入ヲシテ死傷ニ至ラシメタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス(第二百八十二條之ヲ要スルニ本條ノ罰スル處ハ所謂拷問ノ所爲ナリ然レモ拷問ハ博クシテ本條ハ只暴行及ヒ凌虐ト云ヘリ然ラハ則チ苟クモ暴行凌虐ニアラサル以上ハ假令是ト結果ヲ同フシ被告人ヲシテ強テ罪狀ヲ陳述セシムル所爲ト雖モ本條ヲ以テ論スルヲ能ハサルベシ例ヘハ脅迫ノ如シ如何トナレバ我カ立法者ハ明カニ暴行ト脅迫トノ區別ヲ認メタレバナリ

受理審理ノ拒却

第六受理審理ヲ拒ムノ罪ナリ之レ民刑ノ訴ヲ受理シ及ヒ審理スベキ任アル官吏ニシテ故ナク之ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサルヲ云フ故ナクトハ適法ノ原因ナキノ謂ヒニシテ則チ

權利ナキノ義ナリ此ノ罪ヲ犯スモノハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十三條)

本條ニ所謂訴トハ民刑共ニ其内ニアルヲ法文ニ因テ明ナリト雖モ單ニ民刑ノミニ止マルヤニ至リテハ多少ノ疑ヒナキ能ハザルカ如シ然レトモ刑事ノ法律ハ制限的ニ解釋スベシトノ原則ニヨリ余ハ行政訴訟ヲ以テ本條以外ニアリト斷セントス於是乎本條規定ハ不完全ノ評ヲ免ル、能ハス之ニ反シテ商事ノ訴訟ニ至リテハ元來民事ノ一部分タルカ故ニ余ハ本條中ニ包有セシムルモ更テニ不可ナルヲ見ス

第七賄賂收受ノ罪トス賄賂收受ノ事タルヤ其弊ノ大ナル特ニ之ヲ説クヲ俟タス而シテ古往今來其跡ヲ斷タサルモノハ蓋シ依テ以テ不正ノ利ヲ得ント欲スルモノアルガ爲メナリ官吏タ

賄賂收受

ルモノ只法ヲ守ルベク又之ヲ行フ可ク且ツ只交易ヲ思フベキニ之カ爲メニ法ヲ枉ケ權ヲ賣リ私利ノ具トナル實ニ歎セズンバアラス

收賄罪ハ官吏タルヲ要ス

賄賂收受ノ罪別ケテ數種トスベシト雖モ皆官吏ニシテ始メテ之ヲ犯スヲ得ベシ而シテ其官吏タルト否トハ收受ノ當時ニ在リテ之ヲ察スルヲ要ス其當時ニアリテ官吏タラズンハ其前後ニ於テ官吏タルモ未ダ犯罪タラス官吏ト官吏ニ類シテ其實官吏タラサルモノトシ混スルナキヲ要ス例エハ帝國議會ニ於ケル代議士府縣會議員市町村會議員等ノ如キ皆公共ノ事務ニ參與スルモノナリト雖モ官吏ニアラス故ニ是等ノ議員ニシテ賄賂ヲ收受スルモ收賄罪ヲ以テ論スルヲ得ス或曰ク假令官吏ナリト雖モ官吏ノ資格ヲ以テセス單ニ一個人ノ資格ヲ以テセハ報酬ヲ受クルモ未ダ目スルニ賄賂ヲ以テス

ルヲ能ハサルベシト余輩ハ未ダ直チニ此ノ言ニ服スル能ハス如何トナレハ官吏ノ賄賂ヲ收ムルヤ皆官吏ノ資格ヲ有スル一個人ノヲ收ムルナリ然ラハ則チ假令一個人ノ名義ヲ以テ之ヲ受クルモ其ノ賄賂ヲ受クル所以ノ事項ニシテ官吏ノ職務タル處ニ密接ノ關係ヲ有シ之ヲ與フル者モ只其官吏タルガ故ニ與フルモノナリセハ全ク收賄罪トセサルヲ得ス之ヲ要スルニ官吏收賄トハ官吏ガ其ノ職務ヲ執行スルニ關シ法律規則ニ定メタルモノ、外或ル報酬ヲ受ケ若クハ受ケンヲ承諾スルヲ云フ

報酬

報酬トハ單ニ金錢若シクハ其他ノ財産ヲ受クルノ謂ヒノミニアラス總テ之ヲシテ有形無形ノ利益満足ヲ得セシムベキモノ皆然リトス然レトモ特ニ注意スベキハ此報酬ヲ與エタルモノ、處分是レナリ我刑法ハ單ニ官吏ノ賄賂ヲ受ケタルモノヲ罰

收賄罪ハ賄賂者ヲ罰セズ

スルノミニシテ之ヲ與ヘタルモノ、處分ヲ記サス於是乎之ヲ罰スルヲ能ハス蓋シ之ヲ以テ共犯トスルヲ能ハス一方ニアリテハ正犯ニアラス又他ノ一方ニアリテハ從犯トスル能ハサレバナリ

此ノ犯罪ヲ構成スルニハ固ヨリ賄賂ヲ收受スルノ意思アルヲ要ス然レトモ敢テ賄賂ヲ贈ル處ノモノ、希望ヲ達セシムルノ意思アルヲ要セス只之ヲ贈リタルモノハ爲メニスル所アリ賄賂トシテ與ヘタルヲ知リ乍ラ之ヲ收受シタル以上ハ己ニ此犯罪ヲ構成スルニ充分ナル意思アリトス然ラハ則チ贈與者ノ希望スル所法律規則ニ反スルト否トヲ問フノ要ナシ

収賄罪被告人ノ刑罰ノ別

以上ニ述フル所ハ收賄罪一般ニ關スル理論ニシテ今法律ノ正條ニ基キ之ヲ按スレハ其種類三アリ

第一ハ一般ノ官吏ニ關スルモノナリ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收

受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ因テ不正ノ所分ヲナシタル片ハ一等ヲ加フ(第二百八十四條)

第二ハ民事ノ裁判ニ關スル裁判官ノ收賄罪ニシテ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス依テ不正ノ才判ヲナシタル片ハ一等ヲ加フル前ノ如シ(第二百八十五條)

第三ハ刑事ノ裁判ニ關スル裁判官檢察官吏ノ收賄罪ニシテ其刑前者ニ全シト雖モ依テ不正ノ處分ヲナスニ至リシ片ハ多少ノ區別アリ則チ被告人ヲ曲庇シタルモノハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス之レニ反シテ被告人ヲ陷害シタルモノハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル



處ノ刑是ノ刑ヨリ重キ時ハ偽證ノ例ニ照シテ反坐ス(第二百八十六條)

假令賄賂ヲ受ケスト雖モ亦之ヲ受クルヲ許サスト雖モ裁判官檢事警察官吏ニシテ情ニ徇ヒ又ハ怨ヲ挾ミ被告人ヲ曲庇シ若シクハ陷害シタルモノハ第二百八十六條ノ例ニ照シテ處斷ス(第二百八十七條)

收賄罪ハ現品又ハ其價ヲ沒收ス

第二百八十八條ニ依レハ前數條ニ記載シタル賄賂ニシテ已ニ收受シタルモノハ現品又ハ其價ヲ沒收ス是レ實ニ總則ノ沒收例ニ大ナル變例ヲ設クルモノナリ如何トナレハ賄賂トシテ授受シタル物件ノ如キ犯罪ノ元素ニシテ所謂罪體ニ屬ス故ニ之ヲ沒收スルハ變例ナリ又已ニ消費シタルモノヲ其ノ價ヒニ依テ追徵スルカ如キ又第二ノ變例ナリ之ヲ設ケタルモノハ必竟刑罰ノ効ヲ全カラシメシメテ爲メナルベシ

監守盜罪

第三節 官吏財産ニ對スル罪

本節ノ罰スル罪ハ第一監守盜第二金穀ノ不正徵收ナリ  
第二百八十九條ニ曰ク官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル片ハ第二百五條ノ例ニ照ラシテ處斷スト然レモ本條ノ文面ニ拘泥シテ竊盜罪ノ一種ト解スベカラズ如何トナレハ竊盜ハ自己ノ保管内ニ存セサルモノヲ取ルノ謂ヒニシテ本條ノ規定スル所ハ正サニ之レト相反セリ

不法徵收罪

第二ノ犯罪ハ租稅其他諸般ノ入額ヲ徵集スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵集スル所爲ニシテ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百九十條)此故ニ一方ニ於テハ金穀ヲ徵集シタル場合ニ止マルベク他ノ一方ニ於テハ單ニ手續ヲ履マサルニ止リ正數以外ニアラサル時ハ本條ノ罪ト

ナラサル可シ

本節ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監  
視ニ付ス(第二百九十一條)

### 第二編 身体財産ニ對スル重罪輕罪

#### 第一章 身体ニ對スル罪

身体ナル語ハ充分ニ其當ヲ得タリト信スル能ハス如何トナレ  
ハ我立法者ノ是ニ依テ指示セントスル處ハ財産以外ノ者ヲ網  
羅スルニアリ此ノ故ニ獨リ身体ノミナラス生命自由名譽貞操  
ニ對スル罪モ亦タ本章中ニ規定セリ

#### 第一節 謀殺故殺ノ罪

殺人罪ハ權利  
ヲクシテ他人  
ノ生命ヲ奪フ  
モノナリ

殺人罪ハ一個人ニ對スル犯罪中尤モ重キモノニシテ之ヲ要ス  
ルニ權利ヲクシテ生命ヲ奪フニアリ此ノ故ニ左ノ結果ヲ生ス  
ヘシ

(一) 假令人ノ生命ヲ奪フモ權利ノ實行ニ出ツレハ之ヲ以テ殺  
人ノ罪トスルヲ得ス例エハ死刑ノ執行ヲ掌トル者其職ヲ行フ  
カ如キ正當防衛ニ依テ他人ノ生命ヲ害スルカ如キ皆是レナリ

權利ノ實行ハ  
罪タラズ

生命ヲ有セザル者ニ此罪ナシ

人間ニアラザレバ殺人罪ヲ爲サズ

此ノ如キハ不正ノ要素ヲ缺クモノニシテ既ニ總則中ニ於テ述  
フル處ニ因ルモ犯罪タルヲ能ハサルハ明ナリ

(二) 既ニ生命ニ對スル犯罪タル以上ハ生命ヲ具フルモノニ對  
セザレハ是レヲ行フヲ能ハス如何トナレバ之レアラザル生命  
ヲ害シ若シクハ奪フコト能ハス然レモ又僅カニ生命ヲ存スレ  
バ足ル活氣ノ強弱ヲ問フノ要ナシ此ノ故ニ一方ニアリテハ死  
屍ニ對シテ殺人罪存スル能ハサルト等シク他ノ一方ニアリテ  
ハ疾病危篤ニシテ死ニ瀕シ僅ニ一縷ノ命脈ヲ存スルモノニ對  
スルモ尙ホ殺人罪ヲ行フヲ得ベシ

(三) 生命ヲ存スル者ト雖トモ人ニ非ラサル以上ハ此犯罪ノ被  
害者タル能ハス如何トナレバ殺人罪ナレバナリ然ラバ則チ其  
人ナルヤ否ヤハ何ニ依テ之ヲ區別センカ此ノ問題タル普通ノ  
場合ニアリテハ其要ヲ見サルト雖モ時ニ其利益ナシト云フ可

直接ノ原因結  
果アルヲ要ス

カラス如何トナレバ人ノ腹中ヨリ出テタルモノト雖モ人類ノ  
形体ヲ具ヘタルモノアリ又獸類ノ腹中ヨリ出テタルモノト雖  
モ時ニ人類ノ形体ヲ具ヘタルモノ無シトセス此ノ如キ場合ニ  
當リ何ニ依テ之ヲ定ムベキカ余輩ハ之ヲ生ミタルモノ、如何  
ニ依テ人類ト否トヲ別タス生レタルモノ、形体骨格如何ニ依  
テ人類ト人類タラサルヲ區別スルヲ尤モ其當ヲ得タリト信ス  
(四) 殺人罪ヲナスニハ其ノ所爲ト死亡トノ間ニ直接ナル原因  
結果ノ關係アルヲ要ス元ヨリ殺人ノ意思ヲ以テ殺人ノ所爲ヲ  
實行シタル以上ハ假令死亡ニ至ラシメサルモ猶其未遂犯トシ  
テ罰スベキハ此ノ限リニアラスト雖モ其ノ死亡タルヤ他ノ事  
故ノタメニ生シタルモノナランカ是ヲ以テ殺人罪ノ既遂犯ト  
スルヲ得ス其一ニ示サンニ生命ニ對シ危害ヲ加ヘラレタル  
者身體衰弱スルニ至リ他ノ病ニ罹リ依テ死亡シタルカ如キ假

令當初蒙リタル危害ノ所爲ナクンバ其ノ病ノタメニ死亡スル事ナカルベキ時ト雖モ猶ホ以テ既遂殺人トスルヲ得ス  
 又暴行ヲ加フルト同時ニ他ノ一人アリテ更ニ暴行ヲ加ヘ依テ死ニ致シタル片ハ第一ノ暴行者ヲ以テ殺人既遂ノ刑ニ處スルヲ得ス

有意ナルヲ要ス

謀殺故殺ノ罪ハ總テ有意犯ナリト雖モ有意トハ害意アルノ謂ヒニアラス只生命ヲ失ハシムルノ意アレバ則チ足ル此ノ故ニ若シ殺意ナカランカ殺人ノ實アルモ只或ハ毆打致死トナリ又ハ過失殺トナルノミ然リト雖モ未ダ強チニ死亡ノ結果ヲ希望スルヲ要セサルガ如シ苟モ自己ノ行フ處ノ所爲ニシテ必然人ノ生命ヲ失ハシムベキヲ知ツテ之ヲ爲ス以上ハ其結果ヲ欲スルト欲セザルトニ拘ハラヌ謀殺故殺ヲ以テ論スベシ故ニ今熟練ノ劍客アリ奇世ノ名刀ヲ以テ人ノ首ニ加フ固ヨリ其所爲

タル被害者ノ生命ヲ失ハシムル結果ヲ生スベキ事ヲ知ル以上ハ假令殺意アラサルモ單ニ毆打ヲ以テ論スベキニアラス有意ノ殺人罪別チテニトス謀殺及ヒ故殺是レナリ故殺トハ其罪ヲ行フノ當時卒然殺意ヲ生シタルモノニシテ則チ一時ノ感激ニ發スルモノナリ無期徒刑ニ處スルヲ以テ本則トス(第二百九十四條)然レモ他ノ情狀アル時ハ其刑ヲ加重スルヲアリ則チ左ノ如シ

支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ殺シタルモノハ元來故殺ト雖モ之ヲ死刑ニ處ス(第二百九十五條)是レ其ノ一ナリ  
 他ノ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ既ニ之ヲ犯シテ其ノ罪ヲ免ル、爲メ人ヲ殺シタルモノハ亦元來故殺ト雖モ之ヲ死刑ニ處ス(第二百九十六條)是レ其ノ二ナリ  
 謀殺罪ノ故殺罪ト異ナル處ハ豫シメ謀ルト否トニアリ故殺ハ

謀殺故殺ノ別

一時ノ感激ニ發シ謀殺ハ思慮ヲ費ヤシテ後ニ生ス故ニ其ノ決意ト實行ノ間多少ノ時間アルニアラサレバ謀殺罪存スルヲ能ハス或曰ク豫メ謀ルトハ殺害ノ方法ヲ豫メ計畫スルヲ云フト是レ理ナキノ言ナリ既ニ殺害ノ方法ヲ計畫スル以上ハ必スヤ其以前ニ於テ殺害ノ決意アルベク從テ謀殺タルベシト雖モ方法ヲ計畫スルナキモ尙ホ謀殺タルヲ妨ケス此ノ故ニ豫メ殺意ヲ決シテ而シテ其手段ニ至テハ臨機之ヲ施コサント期シタルモノ、如キモ固ヨリ謀殺罪タルヲ得ベキナリ一般ノ論者ハ曰ク豫謀ハ殺意ニ附着セスシテ殺人ノ實行ニ附着スルモノナリト然リト雖モ予ハ何カ故ニ此説アリヤテ解スル能ハス夫レ故殺ト謀殺ト其刑ニ輕重アル所以ノモノ何ノ處ニ存スルヤ學者ハ曰ハスヤ故殺ハ感激ニ出テ謀殺ハ豫謀ニ出ツト感激トハ心裡ノ事ニシテ決意ニ關スルモノタリ決意ノ沈思熟慮ニ成ラザ

ルヲ謂フニ外ナラズ然ラバ則チ沈思シテ殺意ヲ決シ而シテ一時ノ感激ノ爲メニ更ニ之レヲ盛ナラシメタルニモ非サル場合ニ在テ此殺人罪ハ何トカ稱スベキゾ故殺ニ非サルハ明ナリ然レトモ予輩ハ之ヲ以テ無罪ト信セス毆打致死又ハ過失殺ト論スル能ハズ否其謀殺タルヲ信シテ疑ハサルナリ夫レ然リ是ヲ以テ其手段ニ於テ多少謀ル處アルモ決意ハ感激ニ出テ而シテ實行ニ至ル迄其感激未ダ消散セス隨テ沈思スルニ違アラサル者ノ如キハ尙ホ之ヲ論スルニ故殺ヲ以テスルヲ憚ラサル也例ヘバ甲者乙者ノ爲メニ甚シク侮辱セラレ憤怒ニ乘シテ殺意ヲ生シタルモ兇器ナキガ爲メ一旦我家ニ歸リテ家内ヲ搜索シ棍棒ヲ得タルモ其小ナルガ爲メニ殺害ヲ行フニ不充分ナランヲ思ヒ更ニ刃物ヲ取出シタルモ其用ヲ爲サマルヲ發見シ遂ニ隣家ニ至リテ短刀ヲ借り直チニ乙ノ家ニ走セテ

之ヲ殺セシカ如キ其手段ニ於テ多少ノ探擇スル所無キニ非ズト雖モ尙ホ感激ニ發シ沈思ノ違アラズンハ全ク故殺ナリト言フベシ若シ夫レ豫謀トハ手段ヲ計畫スルニ在リトセバ知ラス如何ナル罪ヲ以テ之ヲ論ベキヤ

謀殺罪ハ殺人罪ノ最タルモノナリ故ニ其刑モ亦故殺罪ニ比シテ重シ即チ之ヲ死刑ニ處ス(第二百九十二條)

然レ已ニ謀殺タルハ如何ナル手段ヲ用ユルモ皆同一也或ハ單ニ手拳ヲ用ユルト或ハ刀劍ヲ以テスルト又或ハ毒藥等ヲ以テスルト其間ニ區別アラズ然ラバ則チ第二百九十三條ニ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論スル旨ヲ記シタルハ無用ノ法文ト言フベキカ未タ必ズシモ然ラズ唯タ其正條ノ位置宜シキヲ得サルカ爲メニ多少ノ疑ヲ生セシムベシト雖モ法文ヲ熟讀スルトキハ立法者ノ意蓋シ毒ヲ用ヒテ人ヲ殺シタ

毒殺ハ總テ謀殺ヲ以テ論ズ

ルモノハ豫謀シタルニ非ラズ元來故殺ナリシト雖モ尙ホ謀殺ヲ以テ論スト言フニ外ナラサルナリ予輩竊カニ之ヲ考フルニ謀殺ハ豫謀ノ如何ニ因テ成ル手段ノ如何ニヨリ來ルモノニ非ズ毒藥ヲ施用シテ人ヲ殺スハ或ハ他ノ手段ヲ用ユルニ比シテ甚タ罪狀ノ重キ者アルベシト雖モ是カ爲メニ元來故殺ナルモノモ尙ホ之ヲ謀殺トスルニ至テハ殆ト謀殺ノ何タルヲ誤ラシムルモノナルガ如シ余輩ハ之ヲ故殺トシテ唯其刑ヲ謀殺ト同シカラシムルコト最モ當ヲ得タリト信ス

毒藥ヲ服セシメタル後藥ヲ與ヘテ平愈セシメタル時

殺意ヲ以テ已ニ毒ヲ飲マシメタル後其非ヲ悔ヒ直チニ解藥劑ヲ用ヒシメ依テ死ヲ免レシメタル時ハ之ヲ處分スル如何毒殺罪ノ已遂ハ被害者ノ死亡ニ在リ其死亡セサル前ハ尙ホ毒藥ヲ飲マシメタル後ト雖モ未遂ニ在ルモノニシテ此時ニ當リ犯人自ラ任意ニ其執行ヲ止メ毒殺ノ効ヲ生セザラシメタル以上ハ

之ヲ無罪トスベキコト曾テ上卷中ニ論シタル所ニ依リ明ナル  
 ベシ蓋シ未遂犯トシテ罰スルハ犯人ノ意外ナル障礙又ハ升錯  
 ノ爲メニ遂ケサルモノヲ謂フニアレバナリ(第百十二條)  
 又若シ已ニ毒ヲ食物ニ混和シテ豫備シタルニ彼自ラ之ヲ食  
 シ爲メニ死シタル如キ毒藥ヲ豫備シタル者ハ尙ホ謀殺ヲ以テ  
 論センカ予ヲ以テ考フルニ若シ人ノ取出シテ食スベキ場合ニ  
 之ヲ置キタランニハ被害者ノ自ラ之ヲ食シタルルモ雖モ尙ホ  
 謀殺罪ニ問ハサル可ラス然レトモ之ニ反シテ他人ノ知り得ベ  
 カラサル場合又ハ取出スヲナカルベキ場合ニ豫備シタルニ彼  
 レ圖ラズ之ヲ食セリトセバ未タ謀殺ヲ以テ其罪ヲ斷スルコト  
 能ハサルベシ  
 且ツ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ヲ謀殺トスルハ必ス殺意  
 アリテ之ヲ施用シタル時ニ止マルベシ此故ニ毒物ナルヲ知

毒殺ハ必ラズ  
 殺意ヲ要ス

テ之ヲ施用シタルモ尙ホ其効果ハ決シテ死ニ至ラシメサルコ  
 トヲ信シ從テ殺意ナクシテ之ヲ用ヒタル場合ノ如キハ決シテ毒  
 殺ノ問題アルベキニ非ズ又况ンヤ當初ヨリ毒物ナリト知ラズ  
 シテ施用シタル時ニ於テチヤ  
 殺人罪ハ自ラ手ヲ下シテ其性命ヲ失ハシメサルモ尙ホ之ヲ行  
 フコトヲ得ベシ即チ殺人ノ決意已ニ存シ依テ詐稱誘導シテ危  
 害ニ陥ラシメ爲メニ死ニ致シタル時ハ自ラ手ヲ下シタルト同  
 一ナリ又唯豫メ謀ルト否トニ從テ謀殺故殺ノ區別アルベキノ  
 ミ(第百九十七條)  
 此故ニ一般ノ殺人罪ト等シク其既遂ハ必スヤ被害者死亡セル  
 時ニ在ルベキモ未遂犯ハ實行ニ着手スルト同時ニ存スベシ此  
 故ニ或論者ノ如ク未タ死ニ致サ、ル間ハ全ク無罪ナリト言フ  
 ハ其當ヲ失セルモノナリ

謀殺ヲ行フ  
ノ際誤テ他人  
ヲ殺ロシタル  
罪

決闘致死罪

又第二百九十八條ニ曰ク謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論スト此故ニ誤テ我殺サント欲スル所ノ人ニ非サル人ヲ殺スモ同シク謀殺又ハ故殺犯タルベシ此謀殺トハ如何ナルモノヲ云フヤ之ヲ換言スルハ誤テ他人ヲ殺ストハ何ソヤ予ハ之ヲ解シテ曰ク人違ノ殺人ニシテ我殺サント欲スル所ノ人ナリト信シテ他人ヲ殺スノ謂ナリト即チ人ノ錯誤ニ出テタル殺人ナリ此故ニ甲ナリト信シテ乙ヲ殺スガ如キハ本條ノ所謂ユル謀殺ニシテ彼ノ甲ヲ殺サント欲シ一刀ヲ加ヘタルニ彼レ其機ヲ察シテ身ヲ引キタルガ爲メ傍ナル乙ヲ過テ殺シタルガ如キ又或ハ甲ヲ殺サント欲シテ發砲シタルニ過ツテ之ト肩ヲ並ベ居タル乙ヲ殺シタルガ如キ予輩ハ未ダ本條ノ謀殺中ニ入ル、能ハサルナリ

千八百三十カ

關スル處分ナリ或ル一種ノ論者ハ封建時代ノ陋習ヲ愛シ決闘ヲ以テ文明ノ花トマデ極言セシト雖モ是レ到底第十九世紀ノ今日ニ於テ行ハルベキ議論ニハ非サルナリ假令ヒ其意思ノ如何ナルニモセヨ互ニ一命ヲ授受スルノ覺期ニテ相闘フ以上ハ孰レノ點ヨリスルモ殺人罪タルハ明ナルベク彌々之ヲ實行スル者アラバ我刑法本節ノ罪ニ問フベキハ無論ノコトナルモ我立法者ハ尙ホ決闘條例ヲ制定シテ特ニ之ヲ處分シタレバ今茲ニ之ヲ詳論セズシテ可ナリ唯予輩ガ最モ立法者ニ謝スル所ハ決闘ヲ以テ犯罪トスルニ止ラズ尙ホ通常ノ殺人罪ト同一視シタルコト是ナリ

第二節 毆打創傷ノ罪

毆打創傷ハ身体ニ危害ヲ加フル犯罪タリ若シ身体ニ危害ヲ加フルノ點ヨリ觀察セバ則チ其手段毆打ニ非サルモ尙ホ不正ナ



毆打ハ腕力ノ  
暴行ヲ肉體ニ  
加ヘタルモノ  
ナリ

ル暴行タル以上ハ之ヲ以テ犯罪ナリトスベキモ我立法者ハ明  
カニ其手段ヲ毆打ニ限レルガ故ニ他ノ暴行ニ依ルモ未ダ本節  
ノ罪ニ問フコトアタハズ然ラバ則チ毆打トハ如何若シ嚴ニ其  
文字ニ基テ之カ解釋ヲ下シ手足又ハ器物ヲ以テ打ツノ謂ナリ  
トセハ若シ之ヲ以テ人ヲ突キ若クハ人ヲ投ルガ如キハ本節ノ  
關スル所ナラズト言フテ要セン然レモ立法者ノ意ハ然ラズ腕  
力ヲ以テ肉體ニ加ヘタル暴行ハ總テ之ヲ毆打ノ名稱中ニ包有  
セシメ其甚シキニ至テハ第百六十八條ヲ以テ道路橋梁等ヲ損  
壞シ因テ人ヲ殺傷シタル者ヲ毆打創傷ノ各本條ニ照スモノト  
シ又第二百四十五條ヲ以テ飲料ノ淨水ヲ汚穢スルノ罪ヲ犯シ  
因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ヲ毆打創傷ノ各本條ニ照ス  
モノトシタリ然レモ理論上ニ於テ當ニ然ルベキ所ニ非ズ唯立  
法者ノ特定セルニ依テ然リ此故ニ必スヤ明文ノ規定アル場合

毆打創傷ハ有  
意犯ナリ

ニ止メテ他ニ類推スルヲ得ズ

毆打致死ハ無  
意犯ナリ

毆打創傷ノ罪ハ有意犯ニシテ又無意犯ナリ言ヲ換ヘテ之ヲ説  
ケバ毆打罪ハ無意ニシテ成立スルコト能ハズ毆打ノ意ナクシ  
テ之ヲ爲サバ或ハ死傷ニ至ラシムルモ之レ過失殺傷タルノミ  
然レモ創傷致死ノ結果ニ至テハ敢テ當初ヨリ意思アルヲ要セ  
ス傷クルノ意ナキモ亦之アルモ共ニ毆打創傷罪タルヲ妨ケス  
唯致死ノ場合ニ至テハ更ニ一步ヲ進メ始メヨリ殺意ナキヲ要  
ス若シ之レ有ランカ毆打罪ニ非ズシテ謀殺故殺罪タルヘシ  
毆打創傷ノ罪ハ其結果ノ如何ニ從テ輕重アリ今法文ノ順序ニ  
從テ之ヲ述フルニ左ノ如シ

毆打創傷罪ノ  
刑

(一) 毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス(第二百九  
十九條)致死ハ毆打ナル所爲ノ結果トシテ死亡ヲ致シタルヲ謂  
フ此故ニ毆打ノ即時ニ絶命セスト雖モ若シ此毆打ノ爲ニ蒙リ

タル重傷原因ニシタ死亡シタランニハ其間ニ多少時日存スルモ毆打致死タルニ妨ケナシ而シテ毆打ハ致死ノ原因ナリシヤ否ヤハ宜シク事實裁判官ノ認定スベキ所タリ

(二) 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折り及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス(第三百條第一項)

(三) 若シ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折り其他身体ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス(同上第二項)

(四) 二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス(第三百一條第一項)茲ニ所謂ユル職業ハ被害者ノ現ニ有スル職業ヲ言フ敢テ一般ノ職業ヲ指セルニ非ズ又身体ノ勞働ヲ爲ス職業

ノミニ限ルニ非ズ

(五) 其二十日ニ至ラザル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス(同第二項)

(六) 疾病休業ニ至サルモ身体ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス(同第三項)

若シ人ヲ毆打スルモ創傷又ハ疾病等ニ至ラシムルコトナキモノハ單ニ之ヲ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スルモノトセリ(第四百二十五條)

以上ハ毆打創傷ノ本則ニシテ此他尙ホ加重減輕等ノ原因アリ左ノ情狀アルハ本刑ニ照ラシテ各一等ヲ加フベキモノトス

一、豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル  
并第三百二條

加重ノ情狀

二、重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタルトキ(第三百三條)之ニ反シテ左ノ場合ニ在テハ本刑ヨリ減輕スルモノトス

一、二人以上共ニ人ヲ毆打シテ而シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルルハ其重傷ノ刑ニ照ラシテ一等ヲ減ス第三百五條夫レ毆打罪ヲ犯ス者二人以上ナルモ犯罪ノ責ハ各自ニ之ヲ負フベク從テ其加ヘタル創傷ノ輕重ニ因テ責罰ノ差等アルベキハ自然ノ理ナリト雖モ數人亂打スルニ當テヤ何人ノ加ヘタル傷最モ重クシテ其輕キモノハ何人ノ所爲ニ屬スルヤ之ヲ知リ難シ此時ニ當テ其處分ヲ容易ナラシムルガ爲メニ此法文ヲ設ケタルモノナリ然レモ尙ホ毆打ヲ共ニシタル時則チ二人以上ノ者ノ間ニ意思ノ共通アル場合ニ止ル若シ之レ無カラシカ假令ヒ同時ニ同一ノ人ニ對シ毆打ヲ爲スモ未タ此法文ヲ適

用スベキニ非サル也

二、二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷ケタルニアラス唯幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス(第三百六條)是レ亦ダ二人以上意思ノ共通アル場合タルハ前者ト異ナルコトナシ此規則ハ總則中ナル共犯ノ本則ニ一例外ヲ設ケタルモノナリ蓋シ已ニ意思ノ共通アリ而シテ犯罪ノ實行ニ與カレリ實ニ完全ナル正犯ニシテ假令ヒ他ヲシテ傷ヲ成サシメタルニ止ルモ敢テ創ヲ加ヘタル者ト差等アルベキニ非ズ相共ニ毆打罪ヲ犯シタレバ也然レモ立法者ハ特ニ其罪狀輕キモノアリトシテ其刑ヲ減セリ唯注意スベキハ單ニ刑ヲ減シタルノミニシテ敢テ之ヲ從犯トセルニハ非サルコト是ナリ

此他尙ホ本節中ニ規定シテ打毆創傷罪ニ准シタルモノ其數三

毆打創傷罪ニ準スル罪

アリ左ノ如シ

第一、毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者トス而シテ毆打ハ已ニ説ケルガ如ク故意ヲ以テ爲スモノナルガ故ニ過失ニ出テタルモノヲ毆打トスルコト能ハズ甲ヲ毆ント欲シタルニ過テ其傍ナル人ニ負傷セシメタル如キハ玆ニ所謂ユル過テ他人ヲ創傷シタルモノト云フ可カラズ前段誤殺ノ場合ト同シク全ク人ノ錯誤ニ出テタルヲ要ス(第三百四條)

第二、健康ヲ害スベキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷スルノ例ニ照ラシテ處斷ストハ第三百七條ノ定ムル所ナリ是レ毒殺罪ノ規定ト相照ラシテ益々立法者ノ意ヲ知ルニ足ルベシ毒ヲ以テ手段トスルモノハ故意アル以上假令一時ノ感激ニ出ルモノト雖モ豫謀ニ出テタルモノトシテ論スルヲ兩者一ナリ唯彼ハ殺人タリ是レハ創傷タルノミ

第三、人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス(第三百八條是レ第二百九十七條ト同一ノ精神ニ發セルモノナリ)

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

本節ニ於テ規定スル所ノ事項ニ其一ニ曰ク正當防衛其二ニ曰ク挑發前者ハ之ヲ不論罪トシ後者ハ名ツケテ宥恕ノ原因トス正當防衛ヲ以テ不論罪トスルハ其當ヲ得サルコト已ニ予カ上卷ニ於テ述ベタル所蓋シ罪ノ論スベキモノアラサレバ也

第一 不論罪

是レ正當防衛ヲ云フモノニシテ無罪タリ即チ權利ノ實行ニ外ナラザルモノヲ云フ而シテ正當防衛ノ原理ハ一般犯罪ノ要素ヲ論スル時ニ於テ之ヲ盡シタルヲ以テ今ハ直チニ法文ノ規定ヲ説クベシ

正當防衛ハ不論罪